

第9回 大山町議会定例会会議録（第2日）

平成29年12月14日（木曜日）

議事日程

平成29年12月14日 午前9時30分開議

1. 開議宣告

日程第1 一般質問

通告 順	議席 番号	氏名	質問事項
1	15	西山 富三郎	1. 内部統制の整備・運用に向けて 2. 地方自治法70周年記念式典に出席されて
2	12	吉原 美智恵	1. 高齢者への配慮政策は
3	3	門脇 輝明	1. ガバナンスの強化について 2. 政治離れ対策、主権者教育について 3. 防災訓練について
4	1	森本 貴之	1. 副町長選任について 2. 除雪対策について
5	6	大杖 正彦	1. 大山町役場の職場風土とコンプライアンスについて 2. 大山開山1300年祭と大山の観光施策について
6	4	加藤 紀之	1. 人口減少に対するには・・・。
7	7	米本 隆記	1. メリハリのついた予算編成は 2. 大山町の基幹産業は何か
8	10	近藤 大介	1. ロタウイルス予防接種の助成について 2. SNSを活用した広報宣伝について 3. これからの大山観光について
9	9	野口 昌作	1. 道路管理について 2. 2018年水田転作に係る町の基本姿勢について
10	13	岡田 聡	1. 来年度予算編成の基本的な考えについて問う 2. 「部落差別の解消の推進に関する法律」制定意義と課題の認識は
			1. 新規事業の政策決定はどのような基準で行われるか

11	8	大森 正治	2. 就学援助の入学準備金を前年度支給に 3. デマンドバス、スクールバスの利便性を高めるために
12	5	大原 広巳	1. 歴史民俗資料館ができないか 2. 村まつり（仮称）応援事業を考えてみないか 3. 公営墓地ができないか 4. 平・平木県道バイパスの進捗状況は

本日の会議に付した事件

1. 開議宣告

日程第1 一般質問

通告 順	議席 番号	氏名	質問事項
1	15	西山 富三郎	1. 内部統制の整備・運用に向けて 2. 地方自治法70周年記念式典に出席されて
2	12	吉原 美智恵	1. 高齢者への配慮政策は
3	3	門脇 輝明	1. ガバナンスの強化について 2. 政治離れ対策、主権者教育について 3. 防災訓練について
4	1	森本 貴之	1. 副町長選任について 2. 除雪対策について
5	6	大杖 正彦	1. 大山町役場の職場風土とコンプライアンスについて 2. 大山開山1300年祭と大山の観光施策について
6	4	加藤 紀之	1. 人口減少に対するには・・・。
7	7	米本 隆記	1. メリハリのついた予算編成は 2. 大山町の基幹産業は何か

出席議員（16名）

1番 森本 貴之	2番 池田 幸恵
3番 門脇 輝明	4番 加藤 紀之
5番 大原 広巳	6番 大杖 正彦
7番 米本 隆記	8番 大森 正治

9番 野口昌作
11番 西尾寿博
13番 岡田 聰
15番 西山富三郎

10番 近藤大介
12番 吉原美智恵
14番 野口俊明
16番 杉谷洋一

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 手島千津夫 書記 前田智加子

説明のため出席した者の職氏名

町長	竹口大紀	教育長	鷺見寛幸
総務課長	野坂友晴	教育次長	佐藤康隆
総務課参事	金田茂之	幼児・学校教育課長	森田典子
税務課長	遠藤忠敏	人権・社会教育課長	西尾秀道
住民生活課長	山岡浩義	企画情報課長	井上 龍
建設課長	大前 満	企画情報課参事	大黒辰信
農林水産課長	末次四郎	水道課長	野口尚登
福祉介護課長	松田博明	農業委員会事務局長	田中延明
観光商工課長	持田隆昌	健康対策課長	後藤英紀
地籍調査課長	白石貴和	選挙管理委員会会長	加納郁生
代表監査委員	石黒澄男		

午前9時30分開議

○議長（杉谷 洋一君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は16人です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1 一般質問

○議長（杉谷 洋一君） 日程第1、一般質問を行います。

一般質問は、通告された議員が12人ありますので、本日とあすの2日間行います。通告順に発言を許します。

15番、西山富三郎議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長、15番。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） おはようございます。

3月で退職される管理職の方もおられるそうですし、職員の方も多いようです。大山町政の発展のために尽くされたことを敬意を表したいと思いますが、内部統制の整備・運用について最初の質問をいたします。

内部統制の考え方、枠組み、目的は、既に地方公共団体の法制度上義務づけられています。例えば業務の有効性及び効率性であれば、最小の経費で最大の効果を上げる事務処理の原則（地方自治法第2条第14項）が当てはまり、法令等の遵守であれば法令遵守業務規定（地方公務員法第32条）、信用失墜行為の禁止（同法33条）が当てはまります。ただし、具体の取り組み方法については地方公共団体に委ねています。

内部統制の整備・運用というと、全く新しい概念を導入して、既存の作業に加え、新たな作業を創出するのではないかと受けとめられがちであります。

しかし、内部統制の整備・運用は、大きな事務負担やコストを必ずしも強いるものではありません。組織の目的が達成されているのと合理的な保障を得るために、その業務の中に組み込まれ、組織の全ての者にとって遂行されるプロセスであり、地方公共団体が1つの組織として継続的に運営されている以上、その業務の中に相当内部統制が既に存在しています。例えば担当者同士の相互チェック、管理者の決裁承認、事務分掌も内部統制の一部であります。

1つ、これらの統制が体系化しているか、首長がどの程度関与が行われているか。

②リスクに対する意識や組織的な対応などの考えが十分理解されているか。リスク一覧を整備されていますか。

③法令等の遵守等のリスクは作成されていますか。

④財務報告の信頼性は確保されていますか。

⑤資産の保全は確実に行われているかということであります。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 西山議員から、内部統制の整備・運用に向けてということで5点質問をいただいておりますので、お答えをいたします。

まず1点目の統制が体系化しているか、首長の関与が行われているかということですが、本町では、法に規定された趣旨の体制の整備はありません。したがって、関与もないところでございます。

それから、2つ目のリスクに対する意識や組織的対応などの考え方が十分理解されているか、リスク一覧を整備しているかということですが、それぞれの業務においてリスクに対する意識等はあるかと思いますが、リスク一覧というものは整備をして

おりません。

それから、3点目の法令等の遵守等のリスクは作成しているかですけれども、これも作成しておりません。

4点目の財務報告の信頼性は確保されているかということですが、これらは確保されているというふうに考えております。

それから、5点目の資産の保全は確実に行われているかということですが、これは適切な手続及び承認のもとに行われているというふうに考えております。

全般を通しまして法制度上は努力義務となっておりますが、今後義務化等をされることが考えられますので、それに向けまして、リスクの洗い出し等から行っていきたいというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長、教育長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、鷺見寛幸教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 西山議員の1点目から5点目までの質問について、教育委員会としましても町長の答弁と同様ですが、法令等のリスク等については、地方公共団体における内部統制のあり方に関する研究会が提示している地方公共団体を取り巻くリスク一覧等を参考にしながら、教育長を中心に目標に向かってみんなで取り組もうという意識と、つながりの深い組織づくり、そしてリスク対応を進めていきたいと考えております。

財務報告については、不適切な契約、支払い遅延、不十分な現金等管理、資産等については、不十分な資産管理や耐震基準不足の有無と担当同士のチェック体制等に一層努めてまいりたいと存じます。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 町長、このたびの自治法の改正等の中に、指定都市でもないし、市町村は努力義務としてはありますけれども、その内容は多岐にわたるものなんです。町長はやっぱりトップに立っておるわけですから、下までよく見なくてはなりません。それで、私がこれを持ち上げましたのは、内部統制の意味というのには、1つには、町民に信頼を得るために大事なんですよ。2つ目には、不祥事があるという現実もあるからですよ。そして、地方分権改革の動きがありますね。それから、地方財政、行財政改革の動きがありますよ。そして、財政危機の対応に必要だという現実です。この大きな5点をどのように考えて執行しておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 西山議員の再質問にお答えをしたいと思います。

内部統制に関しましては、最初の通告の中でも御指摘をいただいておりますけれども、

やはりやろうと思えばどこまででもできると思います、手続的には。ただし、どこまでするかというのは、やればやるだけ業務量がふえますし、やればやっただけ御指摘のとおり住民さんへの信頼が向上したり、対社会的な信頼が向上したりということはあろうかと思いますが、そのバランスは今後の法整備において義務化されたときに、どこまでやるかというのを見きわめながらやっていきたいというふうに考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 町長は英語が得意ですからね。4つのiという表現なのですよ、頭文字にiがつく。1つは、イミテーションではだめだ、行政は。2つ目は、インクルーメントが大事だということですね。3つ目には、インベンションが大事だと。それで4つ目には、イノベーションが大事だと。これが行政の視点ですよ。あなたは語学が得意だし、カナダまで行ってきたんですが、このような勉強をしておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 4つのiということで、今初めて聞きましたけれども、イミテーション、インクルーメント、インベンション、イノベーションということで、にせものだったらだめだと、改善して、さらには改革していく、そういうような話なのかなと思いますが。この4つのiというふうにいただきましたが、それぞれ組織を運営していく上で何かスローガンのようなものが内部統制の1つの鍵になるようなことはあろうかと思えます。大山町としましても、この4つのiではないですけれども、何か内部統制を考える上でスローガンのようなものはあってもいいのかなというふうには思います。以上です。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） さらに私が言いたいのは、行政の正確性というものをあなたはトップとして担保しなくてははいけませんよ。合理性、経済性、効率性、有効性、これが私は今の言った1、2、3、4、5から4つのiだと思うんです。御認識はどうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 西山議員と同様な認識をしていると思っております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） それで、町長は、法令を守る。教育長も、そのようなこととおっしゃいましたが、それはそれでいいですけどね。我々議会の側から、町民の側

からは、法令を守るだけじゃなくして、ここが大事だと思うんですよ。社会的要請にどれだけ職員が応えるかと、この基本が大事だと思うんですね。法令は当然のこと守らなきゃなりません。しかし、社会にはいろいろな要請がありますから、その要請を十分に理解しながら職員が住民のために、わしは役立つ立場にいるんだと、役立つことに努めているんだと、このような町長は職員のそのモチベーションを高めるようにしなくてはならないと思いますよ。それには、小さいことを云々と言いましたけど、各般にわたりますから、大山町に役立つ職員であると、町民のために役立つ職員である、そのやっぱりモチベーションをあなたが持ち上げていかなきゃならないと思いますが、そこには小さいことがいっぱいあると思います。社会的要請の立場に立ってモチベーションをどのように持ち上げてますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 組織の職員のモチベーションを高めるということですけども、御指摘のとおり、やはり組織としましては職員一人一人、そこで働く一人一人がどのようにモチベーションを高めて仕事をやっていくかというのが組織のパフォーマンスを高めることだというふうに考えております。行政組織全般としまして、やっぱりトップダウン型の上から指示を待って動くというような組織が多いわけですけども、大山町としましては、やっぱり組織の職員一人一人がみずから考えて動けるような、そういう組織にしていきたいなというふうに考えております。

モチベーションを高めるためにどうするかというところですけども、これは各職員のモチベーションを高めるのは管理職の仕事であるというふうに考えております。しかしながら、なかなか行政組織を変えていくのは時間がかかると考えておりますので、小さい組織ですので、私のほうでも職員と直接コミュニケーションをとりながらモチベーションを高める努力もしてきております。以上です。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） あのですね、公務員の基本姿勢が一部ですけども、真摯、共感、協調性、情熱、自制心、注意力、行動力、コンディション、スキル、謙虚、信念、忍耐力とあるわけですね。私は、行政縦割りですね、縦割りは縦割りでですけども、やっぱり縦割りでも横の連絡をとらなきゃならないと思います。同じ課の中で、また少なくとも当事者性、私は当事者というのは責任があるときはあるんだと、関係のある位置におるんだと。このようなことを当事者性の希薄化、私は薄いと思いますよ。

例えば教育長や町長の言うことが、課長、指示しておいてくれと、所長、指示しておいてくれというふうなことで、その役場の職員に届いていない。当事者性が届いてない。その隣にいる人ですら、これはこうじゃないの、こうすべきじゃないということも言っていないという現実がありますよ。当事者性をやっぱりよく見るためには、私はリスク

云々は非常に101あると認識しておりますけれども、当事者性意識が大事だということについてトップの町長としてどうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 当事者性ということですが、先ほどのモチベーションの話と同じになるかと思いますが、当事者性を持たせるのは、内部統制の仕組みを整えるというよりは、いかに仕事に目標あるいは計画を持たせるかということだと思います。何に向かって仕事をしているのかわからない状態では、当然当事者性は出ません。現状としまして大山町、目標や計画等はあるわけですが、いま一度職員一人一人にしっかり落とし込みができるぐらい計画等も再度見直していきたいなというふうに考えております。そういう計画を見直して、目標意識をそれぞれ持ってもらって、職員一人一人の当事者意識を高めていければというふうに考えております。以上です。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） リスク一覧表をつくってないということですが、私は、ある地方公共団体における内部統制のあり方に対する研究会の資料をいただいております。タイトルはこういうことです。内部統制による地方公共団体の組織マネジメント改革、信頼される地方公共団体を目指してということですね。ここには、大項目、中項目、小項目、具体的事例というのが書いてあるわけですよ。よろしかったら私の一般質問が終わりましたら町長や総務課長や教育長にも渡してあげたいと思いますから、あなたが持っている参考のものと私が持っている参考のものと比較してみてください。ほかの課長さんにも、また皆さんで判断してあげてください。

そこには、業務の有効性及び効率性、法令等の遵守、財務報告の信頼性、資産の確保、私が質問しておりますが、このようなものが101項目あるわけですね。あとは、その他の項としては、やはりこういうことも入るんですよ。自然災害、事故、健康、生活環境、社会活動、経済活動、その他というふうなことがありますわ。この101ある中で、若干具体的に聞いてみたいと思いますが、硬直的な人事管理ではならないと思っておりますわ。硬直的な人事管理じゃだめだ。やっぱり人事が悪けりゃ問題が起こるんですよ。どのような人事を考えておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

どのような人事にということですが、リスク管理もそうですが、先ほどの質問にあったように、モチベーションが上がるような人事はしていきたいなというふうに考えております。リスク一覧をとということですが、非常に役場に有能な職員がおりまして、偶然にも全く同じものを今手元に持っておりますが、このリスク一覧を参考にしながら

リスクの洗い出しをしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） これもわかり切った話ですけどもね。人事管理には、長期間にわたる人事配置が行われる、適材適所に吏員を配置できない、人事管理は一元化・集約されていない、このようなことがありますから、参考にしていただけますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 参考にさせていただきたいと思います。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） それから、もう一点聞いておきましょう。職員等の不祥事という、事件というのがありますよ。これには、職員等が飲酒運転で検挙される、職員等が業務中に交通事故を引き起こす、それから不当な圧力に屈し、要求に応じる、このようなことがありますわ。ですから、職員がしっかりしておれば、町民もしっかりしてくる、議会もしっかりしてくるんです、しっかりした職員。この事件等に対してはどう、事件を起こした場合にはどう対応されますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 今後のリスクの洗い出しの中で検討していきたいと考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） そのことに関して、職員にやっぱり達成感を持たせるようにしてあげなきゃならんと思いますよ。やっぱり自立自己実現を持たせてあげなきゃならん。優位性を持たなきゃならんと思いますね。関係性を持たなきゃなりません。承認が大事です、公平が大事です、期待される、このような職員管理をしてほしいと思いますが、あなたが町長になってから、やっぱり以前も言いましたけど、役場が変わった、町民の視線が変わった、そのためには、このような公務員の基本姿勢が大事ですよ。要所別に上司がとるべき行動を整理します。ですから、上司の行動を整理しなくちゃならんと思いますが、その整理についてどう思いますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 職員のモチベーションの話をよく出していただいております。承認されることで、よくやってるなというふうに評価されることで当然職員のやる気は上がってくるものだというふうに思っております。組織としましても、職員がよくやっ

てるときにはしっかり褒めていきたいと思っております。近年、行政職員というのは、なかなか住民さんからも褒められない、苦情ばかり言われるということでモチベーションが下がっているような部分もあろうかと思っておりますので、ぜひ西山議員におかれましても、いい職員がいたら、何々さん、よくやっとなるなというふうにお褒めをいただければというふうに思っております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） あのね、職員もお互いに感謝し合う職場風土をつくらんといけませんね。感謝し合う職場、役場は。役場に行ってみたら、つんとした人がおったよ云々。私はよく役場に行きますから、非常に優しく、親しく話しておるつもりですけども。恐れておる人もいるかもわかりません。やっぱり感謝し合う職場でなきゃならんと思います。そのためには、町長が町長室から例えばトイレに行くときでも、役場の職員に、おはよう、元気かと、こういう姿勢が大事だと思いますね。黙って町長、職員はそこにたくさんいるのに知らんふりで歩いてだめだと思いますね。おはよう、元気かな、風邪引かんようにとか、そういう優しい態度が必要だと思いますが、そのような感謝し合う職場風土、これが一番だと思いますが、町長はどうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 感謝し合う風土というのは、とても大切だというふうに思っております。同感です。町長室を出て歩いた際に職員に声をかけたらどうかということですが、就任以来ずっと歩くたびに声をかけておまして、半ばあの人はよく声をかけてくるなど、ちょっと面倒くさいぐらいに思われとるぐらい挨拶、声かけをしております。さらに今後強化をしていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） それは大事だと思いますよ。町会議員は、出るときはよう頭を下げるが、電信柱に向かって頭下げとるけどもね、終わったら頭を下げんわ。これじゃいけないと思います。それじゃあ、町長に期待しますので、次の質問に入りたいと思います。

地方自治法70周年記念式典に出席されてという項目であります。

地方自治体の運営に関するルールを定めた地方自治法の施行から70周年を記念した式典が11月20日、東京国際フォーラムで開かれ、竹口町長と杉谷議長が出席されております。

日本海新聞の記事によりますと、安倍首相は祝辞で、地方の活力なくして日本の活力はない。国と地方自治体は力を合わせて少子高齢化などを克服し、未来を開いていかなければならないと話され、地方自治体を代表して挨拶された全国知事会長の山田啓二・

京都府知事は、2000年施行の地方分権一括法で国と地方の関係が上下・主従から平等・対等となったと指摘。地方自治の重要性を住民と共有し、さらに発展させたいと話しています。

町長は、この記念すべき年に町長に就任され、式典に出席されました。町民と共有し、町民と発展する大山町の構築をどう感じて帰られましたか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 2問目の質問にお答えしたいと思います。

御質問いただきました地方自治法70周年記念式典は、去る11月20日、東京国際フォーラムにて天皇、皇后両陛下の御臨席を初め、関係者約3,300人が出席され、開催されました。しかしながら、先方から人数制限の話がありまして、西部町村会の中でもたしか3人ぐらいだったと思いますが、人数制限があったために、私は残念ながら出席をしておりません。しかしながら、この70周年という意義深い年に就任させていただきましたので、一言抱負を述べさせていただきます。

地方自治法は、1947年に施行以来、多岐にわたる改正を行ってきており、現在の地方分権の大きな流れの中で地方自治体の行財政運営の自由度が増すと同時に、その役割の重要性も増しております。このような状況の中、公約で掲げました大山町を変える5本柱の着実な実行により、人口減少をとめ、住んでよかった、住んでみたい大山町をつくっていききたいというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長が私に西山さん、質問されるようですから、私、東京に行って、こういう資料をいただきましたと。ちょっとしたものですけど、いただいております。皆さんの参考になるとと思いますので。地方自治法70周年記念シンポジウムということです。地方自治法70年の歴史と展望、人口減少社会における地方自治制度のあり方について、この人口減少社会における地方自治制度のあり方についてということも残念ながらシンポジウムのお話は聞かれませんでしたか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 内容等について詳しくは聞いておりません。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） シンポジウムの開催趣旨は、こういうことですわ。我が国は、本格的な人口減少局面に突入しており、地方自治体においては、財源や人材といった資源が限られていく一方で、人口減少に的確に対応し、地方行財政の持続可能性を

確保していくことが求められている。地方自治法の歴史を振り返れば、施行から70年の間に多岐にわたる改正を行っており、地方分権の大きな流れの中で地方自治体の行財政の自由度を増すと同時に、その役割の重要性も増してきた。既に議会や行政サービスの維持を初め、諸課題が健全化している市町村もある中、今後、地方自治体としてどのように備え、取り組んでいくべきか。そのためには、求められる地方自治の仕組みはどのようにあるべきか。こうした観点から強く議論を深める契機として、このシンポジウムを開くと言っていますが、町長、地方自治体の行財政運営の自由度が増すと同時に、その役割の重要性も増してきた。自由度という感覚をどう思っておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 自由度ということですが、まだまだ自由度はそこまで高くないかなというふうに思っております。自主財源が乏しいのは全国の地方自治体、一律の課題だというふうに思っておりますし、さらにこれから自由度を高めるには、地方分権もそうですけれども、自主財源の確保等に努めていく必要があるのかなというふうに思っております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） それはちょっと私に言わせれば、もう少し考え直してください。既に地方分権の時代です。ここに地方分権というのは、475本の法律を全部改正したんですね、2000年だったんですか。これが一つの土台にあります。窓口を開いているんですよ。それから、権限移譲という言葉があるでしょう。このようなことをやっぱりもう少し、就任して間もないわけですから、勉強し直したほうがいいと思います。

そこで、青森県外ヶ浜町というところに36歳の山崎結子さんという町長が誕生したんだそうですね。36歳というと、あなたより年上ですか、どうですか。パネラーだったようですが、電話でも、これからも交流をして、若い町長になったんだからというふうなことで、山崎さん、あなたは議員からも質問があるけれども、この記念シンポジウムでどのようなことを訴えたんですかというふうなことで、今後、若い町長として連携をとりながら町長の視野を広くするというようなことは考えていませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

その山崎町長さんですかね、直接よく存じ上げません。36歳ということですので、私も再来月2月に36歳になりますので、学年としては同い年ぐらいかもしれません。若い首長のネットワークをつくって、いろいろ情報交換をしたり切磋琢磨をしていくというのは必要ないというふうに思っております。大山町議会におきましては、森本議員が

先般、新聞報道に出ておりましたが、県内の若手議員で若手議員連盟のようなものをつくって、情報交換や切磋琢磨をしていくというような組織をつくっておられますが、そのようなものが全国的なネットワークとして首長という単位でできれば、またそれはおもしろいかなと思います。何分物理的な距離が離れておりますので、どのようにしていったらいいかというのは課題かなというふうに思っております。以上です。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 私は、先ほど475本の法律が改正されたと言ってます。その法律の題名はこうですよ。地方分権の推進を図るための関係法律の整備等に関する法律ということなんですわ。長いですからね、こういうものもやっぱり、何と申しますか、忙しいでしょうけれども、若い町長ですし、県内の町長からもかわいがってもらえないかんわけですね、竹口町長と。大ベテランもおりますから、ふんぞり返った町長もいるでしょう。生意気な町長もいるでしょう。しかし、あなたも、そういう人にも頭を下げながら幅を広くするためには、このような戒名の長い、もう一度言いますけれども、地方分権の推進に関する関係法律の改正整備等に関する法律というのができて。この担当課は置いてるんですか。法令の専門部署があって、誰が担当ですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

法令の担当部署を総務課になろうかと思えます。県内いろんな首長さんがおられてということですが、御指摘のような首長さんはおられません。皆さん、いい首長さんばかりですので、そういった首長さん方にいっつき合いをしてもらえるようにやっていきたいというふうに考えております。

地方分権に関しましては、法律では地方分権の推進に関する法律等できておりますけれども、まだまだ地方分権が進んでいないというのがやはり現状だというふうに思っております。10年前、20年前に比べれば進んできつつはあろうかと思えますが、まだまだ地方分権は進めるべきだというふうに考えております。以上です。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 地方自治体は民主主義の学校だとも言われています。どういう認識ですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 御指摘のとおり、地方自治あるいは地方自治体は民主主義の学校だというふうに考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） あなたは町長になりました。経世済民という古い言葉があります。どう理解していますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

経世済民という言葉ですけれども、いわゆる今、略されて、今で言う経済という語のもとになっている言葉だというふうに認識をしております。しかしながら、現在の経済という言葉は、恐らくその言葉がもとになっている経世済民とは少しかけ離れた部分があるかと思っております。経世済民という言葉は、もともと世の中をおさめて民を救う、住民を救うという意味合いだったかというふうに記憶をしておりますけれども、それが今の経済という言葉にはなかなか当てはまらないのかなというふうに思います。経済学の分野においては、公共経済学のような公共という言葉をつけないと、なかなか経済という言葉からは公共という意識が薄れているためか、公共をつけないと公共経済学のようなものにならないことになっておりますので、もともとは経済という言葉は、経世済民にあるように公共のものだと、公共の政策を通して住民さんを救っていくという、住民さんの困り事に対応していく、そういう言葉だというふうに考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 大山町には資産がたくさんあります。病院だとか体育館だとか、いろいろありますですね。それに対する保有コストというふうなものは点検していく考えですか。既に点検していますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 保有コストに関しましては、今後計画をしっかりと定めて計画的な維持管理等をしていきたいというふうに考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 町長の方向性を70周年に……。

いいですか。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） もうすぐ終わりますよ。

○議長（杉谷 洋一君） いやいや、どうぞ、今待ってますので。

○議員（15番 西山富三郎君） いいですか。いや、何か注意されるんかなと思って、議長が許可……。

○議長（杉谷 洋一君） じゃあ、ちょっと一言。

今の一般質問は、地方自治70周年ということで、あるいはその中でも、いろいろ西山さんの思いも入っておるかと思えますけども、町長もそのあたりも加味しながら答えていただきたい。ということで、西山議員、ひとつよろしくお願いします。

○議員（15番 西山富三郎君） これは町長、持っていますか。記念式典に行かれて、シンポジウムの資料を。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 今手元には持っておりませんが、役場内にはあろうかと思えます。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） ここで書いてあるのは、やはり首長の結局住民の信頼を得るような行財政改革、地方分権を進めなさいということが書いてあります。あなたは、これから期待されて大山町をつくっていかなくちゃならないわけですね。どんな大山町をつくろうと考えていますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 議長の指摘もありましたので、なかなかどういうふうに答えていかわかりませんが、基本的には通告がなくても質問されたら、なるべく答えるようにはしていきたいと思っております。

大山町をどういうふうにしていきたいかというところですけども、やはり一番に掲げております人口減少をとめて、にぎわいのあるような町をつくっていききたいなというふうに考えております。このまま推計でいきますと、大山町、人口減少がどんどん進んでいきます。人口減少が進みますと、地域の活動であったり、あるいは農林水産業の後継者不足の問題であったり、商工業者の後継者不足の問題であったり、さまざまな課題がまだまだ出てくるというふうに思っております。人口減少をとめるということは、そういった課題の一つの対応策になろうかと思っておりますので、大きな目標になろうかと思っておりますが、人口減少をとめるような施策に取り組んでいきたいというふうに考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 地方自治法70周年の年ですよ。町民の皆さん、こういう大事な年ですよということをどのように情報公開されますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） どのように情報公開ということで、情報発信なのかなというふ

うに思っておりますけれども、こういった議会の場合の議論ですとか、あるいは行政報告会も就任以降定例議会後にしておりますし、さまざまな面で住民さんと接する機会をふやして、そういうところで情報発信あるいは情報交換等をしていきたいというふうに考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） そこで、大事なことは、大山町の自治の仕組みはこうですよということをやっぱり町民の皆さんに再確認していただくことが大事だと思いますよ。その視点からはどうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 住民さんに自治の仕組みをとということですが、興味がある人にとっては自治の仕組みをしっかり学んでということもあろうかと思いますが、なかなか自治の仕組みを全町民さんに全て理解していただくというのは、なかなか難しいことだというふうに思っております。難しい話でも、なるべくやわらかく簡単に説明をして住民さんの理解を得ていきたいなというふうに思っております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 70周年の記念すべき年ですし、町長は、鳥取県の重大ニュースの中に、米子に新しく首長ができた、なおに首長がというふうに出ておられる。注目度を浴びておりますですからね。その点もありますので、自治法70周年の記念すべきときに町長になられました。十分に町民の皆さんに喜んでもらえるような行政にさせていただきたいと思いますが、最後に、このような町はつくってはもらえませんか。つくるべきだと思いますが、全体的なお話です。

少子高齢化という話も出てます。子供のときに、よき節度を学び、青年時代には感情をコントロールすることを学び、中年には正義を学び、老年になってからは、よき助言者になることを学ぶ、このようなまちづくりをどう考えますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） いただきました御提案をもとに、これからのまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

○議員（15番 西山富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、西山議員。

○議員（15番 西山富三郎君） 少し早いようですけども、終わります。ありがとうございました。

○議長（杉谷 洋一君） これで西山議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩をとります。再開は10時25分とします。

午前10時17分休憩

午前10時25分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

次に、12番、吉原美智恵議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） それでは、12番、吉原。1問質問いたします。町長に質問いたします。

高齢者への配慮政策はというところで、近年、我が国では、団塊の世代が75歳以上となる2025年問題を目前に超高齢化社会が問題となっており、大山町も例外ではありません。移住・定住施策として、子育て支援については力を入れたサービスが提供されてきていますが、高齢者の日々の暮らしに寄り添った施策は充実していますでしょうか。

また、高齢者が生きがいを持ち、地域でその人らしく暮らしていけるネットワークづくりはできていますか。

また、その中で、このたび提案されている福祉介護課所管の交付金の整理・統合についてはどうでしょうか。

また、ひとり親世帯や高齢者世帯の孤立などに関連するごみ問題など、さまざまな課題への対応が求められているのではないのでしょうか。高齢者に優しい町であることが将来住みたい町となり、遠回りのようではありますが、移住・定住への後押しとなるのではないかと考えますが、町長はいかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 吉原議員の高齢者への配慮施策についてお答えをさせていただきます。

まず、移住・定住施策として、子育て支援については力を入れたサービスが提供されてきているが、高齢者の日々の暮らしに寄り添った施策は充実しているかとの御質問ですけれども、介護保険サービス、それから介護予防支援、生きがい支援、生活支援、権利擁護など、地域包括支援センターが中心となって、これらのサービスを提供しております。

また、高齢者が生きがいを持ち、地域でその人らしく暮らしていけるネットワークづくりはできているかとの御質問ですけれども、ここはまだまだ不十分なところもありますので、しっかりと充実をさせていきたいというふうに考えております。

それから、福祉介護課のほうの交付金の整理・統合についてですけれども、これは敬老事業あるいは小地域保健福祉活動補助金の整理ということで指摘をいただいていると

思いますけれども、これはあくまでも区長さんのそれぞれの負担軽減を目的にしております。今までは申請書類合わせて約22枚ほどの申請書類を提出していただいております。そのほか写真等も提出していただいておりますが、これを書類1枚でこれらの交付金が各集落受け取れるようにするものでございます。

それから、高齢者世帯の孤立などに関するごみ問題に関してですけれども、これは社協さんが中心となって10月にスタートしておりますけれども、ごみ出しの有償ボランティア「支え合い隊」という名前のごみ出しの有償ボランティアをスタートしております。

それから、最後の遠回りのようではあるが、高齢者に優しい町が移住・定住への後押しになるのではないかと御指摘ですけれども、まさにそのとおりだというふうに考えております。生まれてから人生を終えるまで安心して暮らせる、そういう住みやすい町というのが魅力ある町になるのかなというふうに思います。子育て施策のみならず、高齢者施策も充実させていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いたします。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） まず、高齢者への配慮施策についての日々の暮らしに寄り添った施策について、この答弁書のほうでは、介護保険サービス、また総合相談、介護予防支援、生きがい支援、生活支援、権利擁護等さまざまなサービスを提供しているというふうに書いてあります。まず、この点についてお聞きしますけれども、国のほうでは要支援1・2の軽度の人向けの訪問介護、通所介護を町のほうに委ねるといふ今そういう状況になっておりますね。

それで、いろいろなサービスをしていますとは書いてありますけれども、実際には介護資格を持たない方、その方を巻き込んで総合事業を行っている市があります。というのは、今、介護資格を持った人もかなり人手不足、そういう状況になっていないかと思っています。ですので、それについて総合事業の中で一般の方を雇用労働者として60代以上の働ける人をボランティアではなくて、そういう支援できる、家事援助の仕事ができる市認定のヘルパーというふうにして工夫しているところもあります。

そういう実際に今サービスをしていますではなくて、間に合っているのかどうか、きちんと住民の皆さんが、声を出せない住民の皆さんに行き届いているのかどうかについて、今そういう町も市もふえております。ですので、それについてどう考えるのか、まずお聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

高齢者施策はまだまだ十分ではないというふうに先ほどもお答えをさせていただきま

した。御指摘のとおり、少子高齢化がますます進んでいく世の中で、介護の従事者が不足する、あるいはその有資格者が不足するというのは、まだまだ解決できない、あるいは今後拡大していくような課題であると思っております。そこにどのように人材を投入する、あるいは人にかかわってもらうかというのは今後の課題であろうというふうに思っております。

吉原議員御指摘の60歳以上とおっしゃられたでしょうか、ボランティア、認定のヘルパーみたいなものを登録して活動するというような取り組みというのは、その介護される側にとってもプラスでしょうし、高齢者の方で元気な方あるいは健康を保つためには何らかの活動も必要ですので、そういった方がボランティアとして、そういう地域の課題等にどんどん絡んでいけるような、そういう仕組みができるといいのかなというふうに思っております。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） 前向きな答弁ですので、研究していただきたいと思っております。

ただ一つ、ボランティアだけでなく、一応有資格者候補みたいな感じで、ちょっと有償のボランティアというふうに持っていくといいみたいですので、それは私、よくいろんなほかの市の例を出すんですけど、やはりいろんないい事例は勉強されてやっていくべきかと思っておりますので、それについてはそのように研究してもらいたいと思っております。

それから次に、答弁書というか、きょういただいた答弁書の中に、その次ですけれども、生きがいを持って、その地域で、その人らしく暮らしていけるネットワークづくりということですが、その中にやっぱり民生委員さんのことが出てきています。いつもまたこの問題になるんですけれども、民生委員さんというのは、御存じのように厚生労働省から委嘱されて、住民の立場で地域福祉を担っているボランティア、無報酬で3年間の任期があって、昨年任期切れで大変不足してるという問題が大きくなりました。けれども、今のこの高齢化社会にとってはとても大切な人材でありまして、民生委員をいかに立候補してもらって、その地域で頑張ってもらえるかということは、すごく大事な場面になってきております。それについて、なり手が少ない現実とか民生委員さんの高齢化ということで、その辺について積極的に行政として民生委員さんについてどのようにかかわっていくのか、お聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

吉原議員御指摘のとおり、民生委員さんのなり手が少ないというのは本町の課題でもありますし、全国的な課題でもあろうかなというふうに思っております。現状としまし

ては、民生委員さんがいない集落もあって、複数集落を担当されている民生委員もあります。こういった民生委員さんの活動を補完するために、民生委員協力員制度というものを現在検討をしているところです。以上です。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） その制度は、教育民生の常任委員会の中で課長のほうからも少し説明を受けましたけれども、協力される方ということは、人員をもう一人ふやすということですけども、確かに1人で訪問したり、リスクが大きいと思うんですね。今、民生委員さんの中には女性の民生委員も多くなりましたので、小まめに訪問されるのはいいんですけども、したいと思っても、ある程度リスクというか、ひとり住まいの男の方の訪問とか、そういうところで、なかなか困難ではないかという事態が発生してるみたいですので、それについてはとてもいいと思うんですけど、実際に協力員さんというのは、どのような形で募集されて、どこまで具体化してるかわかりませんが、協力員さんの募集の仕方というか、あとボランティアですので、どこまで費用弁償というか、そういうところまで考えておられるのか。やはりやるなら、きちんとやらなければいけないと思うんですけども、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

実際の今の進め方等に関しましては後ほど福祉介護課長から答えさせていただきたいと思いますが、民生委員さん、御承知のとおり、本当に人の生活に入り込んだり、あるいは守秘義務等もあったり、非常に御苦勞をかけているところでございます。したがって、なり手が少ないということもあろうかと思いますが、やはり地域を全体で支えていくためには、なくてはならない仕事だというふうに考えておりますので、今後も民生委員さんが困らないように、行政としては支えていきたいというふうに思っております。

○福祉介護課長（松田 博明君） 議長、福祉介護課長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、松田福祉介護課長。

○福祉介護課長（松田 博明君） 吉原議員の御質問にお答えします。

補助員制度についてですが、町長の答弁がありましたように、現在そういった制度について検討しておる最中で、確定したものではありませんが、補助員につきましては、いわゆる公募というような形ではなく、あくまでも民生委員さんから推薦をいただいて、その推薦いただいた補助員について適当であるかというのを判断をしていくという方法はどうかというふうに考えております。さっきもおっしゃいましたように、民生委員さん、他地区を担当されたりして、全ての地域の中で十分情報等を把握できない部分もあったり、その辺を補助をしていただくということで、パートナー的な形で補助員さんにいただければいいなと思いますので、やっぱりある程度民生委員さんが一緒に動き

やすい方ということがいいと思いますので、今のところはそういった形で補助員制度を設けていきたいなというふうに考えております。

○議員（12番 吉原美智恵君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） 民生委員さんに対しても対策がとられていくようで、いいことだと思っていますけれども。あともう一人、民生委員さんの仕事の内容というか、ある程度ボランティアであるとか、大変な仕事だということ、昔は名誉職で、割かしよかったですけれども、今は本当に実際に動かないといけない状況なので、高齢化しまして、ですから、町民の皆さんに対しても民生委員さんの理解を深める、そういう場面が1回か2回あってもいいかと思います、広報か何かわかりませんが。前もそういう問題があったんですけれども、やはり民生委員さんが生きがいを持ってやられるというふうになられるように工夫していただきたいと思います。

次に、3点目ですけれども、福祉介護課所管の交付金の整理・統合についてですけれども、これは、要するに敬老会とか、そういう、あともらった資料によりますと、ほかに敬老事業と、あと保健活動、そして福祉活動、その3点を一まとめにするという考え方であり、説明を受けたところによりますと。75歳以上の方に一律2,000円支給というふうに今案が出ています。それについて、決め方については、それまでに事業をした総合地域福祉支援事業、そこをしたところについては、ちょっと上乘せをしていたり実績もプラスして計算されています。それがよくできているのは、一応経過措置として暫定的にならしていくというふうな考え方はいいと思うんですけれども。ただ、すごく一本になるということについて、本当に保健活動、福祉活動が含まれた、そういう交付金になるのか、そこはちょっと疑問なんですけれども。確かに1枚で済むのはすごくいいと思うんですけれども、その申請の仕方はそれだけで、あと詳しく聞きますと、報告書もなくいいというふうになっております。ですので、これは性善説かなと思うんですけれども、本当に2,000円が有効に使われるために、あとどのようなフォローをされるか聞きたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今、申請が難しい、あるいは手間がかかるということで、区長さんによっては申請する年もあれば、また違う区長さんになればちょっと申請できなかつたりとか、集落によって差があるのを一律で申請しやすく、誰でも申請できるようにして、同じような金額を交付するというものです。使い方ですけれども、交付金という形で出しますので、補助金のように事細かにチェックまではしませんが、しかしながら、制度を改正した後は、どういう活動が行われたかというのは何らかの形で確認はしていきたいというふうに思っております。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） そういうふうに今言われましたので、少しは安心しましたけれども、本当に敬老事業だけでなく、この交付金の意味、輝くシルバー交付金というふうに案が出ておりますが、意味は、保健活動については生活習慣病の予防または高齢者の閉じこもり予防、その他健康で暮らすことを目的として、おおむね集落単位で行う活動をいう。また3番には、福祉活動、日常生活または緊急時に支援が必要と自治会が認める高齢者世帯に対して、訪問等の方法により、おおむね月2回以上の頻度で生活状態を確認する等の助け合い、支え合いを主体とした活動をいう。この2、3が含まれて、1番に敬老事業、この3つが含まれている予定になっています。

ですので、どちらかといえば、敬老事業も大事ですけども、本当は輝くシルバー交付金の本当の内容は、やはり保健活動、福祉活動ができてこそその輝くシルバー交付金だと思うんですね。そこを何とか1枚で、すごく本当に区長さんが大変で、それはすごいことだと思います、簡素化されるのは。やっぱりパソコンが使えない区長さんとかおられますので、それについてはすごいと思うんですけども、その2つ、保健活動、福祉活動、それをいかに2,000円の中に組み込んでいくのか。そういう啓発というか、また指導、それでも交付金ですから有意義に使ってもらわんとはいけませんけれども、それについてどう考えますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

御指摘のとおり、やっぱりお金を支出するからには、保健活動、福祉活動にしっかり使っていただきたいというふうに思っておりますし、そのように有効に使われるように行政としても確認をしていきたいなというふうに思っております。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） ということは、今の段階ではそういう私は疑問を呈しましたので、きちんと頑張って対応していただきたいと思います。

次に、ごみ問題、ひとり親世帯や高齢者世帯の孤立に関連するごみ問題というのは、なかなか行政がというふうに答弁のほうでも書いてありますけれども、これもまた私、ちょうどそういうことが気になっておりまして、前から山の上のほうの方、点在してる家の方たちは、やはり特に不燃物はまた多いそうなんです、燃えるごみよりも。すごく大変だということを聞いております。実際に私自身も、ごみを持って歩くんですけども、ごみ当番がちょっとかわりまして、夫のほうが体調がまあまあになりまして、重たいことは私が持つことになったんですけども、不燃物は重たいし、持って歩くって工夫が要るんでしょうけれども、そうはいつでも大変だなとこのごろ感じてるわけであり

ますけれども。

本当にこれは、そういうふうについて思っていましたら、毎日新聞のドキュメント・東京ごみストーリーという連載がずっと始まってたんですね。その中に、杉並区の事例が出てまして、ここ杉並区というのは何か東京都で一番住みやすい区になってたと思うんですけども、それが個別収集、杉並清掃事務所というところできて、そこで20年も前から個別収集をやっているんです。というのは、杉並区というのは、すごく40%ぐらいの高齢化、44%の高齢化の区であります。でも、いずれは私たちもわかりません、これからは。それについて20年前からやっています、今はごみを取るだけの時代ではないということで、ごみのマルサって言うんですけども、福祉の実動部隊にもなって、それで4年前から正式な業務として家を回って、それで困ったことも相談受けたり、実際に例えば86歳になったひとり住まいの方なんですけど、女性の。本当の話なんですけれども、照明の傘にごみが付着して、手が届かないと。それを願いますとって、それをちゃんと傘を丁寧に拭き取って、そういう5分足らずの作業をやってもらったというふうに書いてあるんですね。それが仕事であるというふうなことになっています。実際にあるんです、そういう市が。

それって、本当に考え方でしょうけども、初めは、ごみのマルサという任務は違反ごみの排出者を特定して、訪問指導というのが始まりだったそうです。これから私たちの町も、ちょっと認知症ぎみの方であったり、そういう方が間違えてごみを出されたりという問題はところどころこのごろ起きてると思います。そういうことで、初めはそうだったんですけども、ごみを取るだけでなく、そういう福祉の実動部隊というのをつくっていて、実際に今そういうことをやっておられますので、どこまでと思いますけれども、本当はそういうところできちんと町が動いていたら、やはりお年寄りも子供もみんな住みやすい町になるのではないかと思います。でも、本当に実例なんですけど、どう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

確かに集落要望としまして、不燃ごみの置き場が遠いので、ふやしてほしいとかという要望は今年度も上がってきております。しかしながら、10月から社協さんを中心とした有償のごみ出しボランティア等も始まっておりますので、そういったサービスを組み合わせさせていただくのがいいのかなというふうに思います。吉原議員、ごみ出し当番だというふうにおっしゃいましたが、私も、ふだん忙しくて家事はほとんど手伝っておりませんので、ごみ出しぐらいはしておりますけれども、あの重たいごみをごみ置き場まで持っていくのは、確かに独居の高齢の方だったら大変だなというふうに感じる場所です。

杉並区の例がありましたけれども、やっぱりごみ出しで困っておられる独居の方ある

いは高齢者の方というのは、ごみ出しだけが困っているわけではないと思います。そのほかにもさまざま困っておられることがあって、それを一括してサービス提供できれば、よりいいのかなというふうに思います。大山町としましては、何度も申し上げておりますが、10月から社協さんを中心としたごみ出しの有償ボランティアというサービスを始めておりますので、そのサービスの今後の経過を見ながら、今後どういうふうにサービスを拡大あるいは集約をしていったらいいかというところは考えていきたいというふうに思っております。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） 確かに社協の方の有償ボランティアのごみ出しというのは、そういう手もあるかなと。むやみに費用をかけるわけではなくてとは思いますが、それって有償ボランティアの方が行き届いて百何十集落、156でしたっけね、今。ちょっと数字を間違えたかもわかりませんが、その集落に行き届くかどうかちょっと疑問だし、やはりボランティアですので、どこの地域にも満遍なく配置されるのか、それをわからないんですけれども。そうすると、またやっぱり本当に来てほしいところに来てもらえない、そういう事態が起きる可能性はないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 細かい数字、今行き届いてるのか、どれぐらいの数字で推移しているのかは担当課がもし把握しておればお答えをしたいと思いますけれども、サービスを必要としているところに必要なサービスが行き届くようにやっていきたいというふうに思っております。

○福祉介護課長（松田 博明君） 議長、福祉介護課長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、松田福祉介護課長。

○福祉介護課長（松田 博明君） 御質問にお答えします。

数字は把握しておりません、私どもでは把握しておりません。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） まだこれからのことであろうと思いますが、とにかく姿勢ですよ。ですから、そういうふういきちんとごみ問題を正面から取り組むのか、ボランティアというか、社協と協力して、できるところからやっていくということなのかということになるかと思います。自主組織が大山のほうでは大雪のときには除雪をするとか、そういうふうなことも始まっていますので、もしかしたらそういうところで自主組織がごみ出しについての手伝いがあるのかもわかりません。そういうことも可能性はあるかもわかりませんが。私が言ってるのは、やはりすごく大問題になると思うので、2,000円で高齢者の方にお金を差し上げるのもいいんですけれども、私としては一番

うれしいのは、こういうことじゃないかなと思うわけです、高齢者の方がやってほしいこと。

杉並の例は、去年は杉並区のごみ収集部門の全車両約100台にAED、自動体外式除細動器、AEDですね。あれを持ってもらってるということなんですね。これは全国的にも異例ですけれども、それぐらい充実してる場所もある。ですので、どこまでって思われるかわかりませんが、とりあえず今の有償ボランティアで福祉協議会に委ねるということで終わってしまわずに、考えておいていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

ごみ出し有償ボランティアに関しましては、ちょっと担当課も数字を答えられませんでしたが、私のほうもまだ詳細詳しく把握しておりませんので、きょうの本会議が終わった後にでも、もうちょっと詳細を確認しておきたいなというふうに思っております。さまざまなニーズがある中で、一つのサービスで全てが完結するというふうには考えておりません。ごみ出しの有償ボランティアもそうですし、集落がやる保健活動、福祉活動、さまざまなものが組み合わさって、いろんなニーズに対応できるサービスあるいは見守りだったりができるのかなというふうに思っておりますので、今後の方向として、どういうサービスを組み合わせるかとか、まとめるかとか、どこがやるかというのは、より最適なように見直しは常に図っていきたいなというふうに考えておりますが、何度も申しますが、一つのサービスで全てを充足させるというのは、なかなかハードルが高いのかなというふうに思っております。以上です。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） 確かに、それから国の姿勢であろうと思いますけれども、結局要介護1・2の方を町に委ねるということは、町も地域の人を巻き込んで、なるべく協力体制をとる、そういう社会にしていこうという方向なんだろうと思います、助け合いというか。それはわかります。結局私たちの親世代になるんですけれども、80代とか、私は親はおられませんけれども、やっぱり結局高度経済成長でどんどんどこ効率とか役に立つか否かとか、そういう価値観で動いてきた今の時代について、高齢者の方を大切にするというのは、そのこのころの皆さんに対しての御苦労というか、そういうことの敬意を払った上での施策になるとありがたいなと思うんですけれども、それについて感想を。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

御指摘いただきましたとおり、今のこの日本をつくり上げた高齢者の方々に敬意を表しながら、さまざまなサービスは提供していく必要があると思います。日本の社会保障費、介護を含めてですけれども、そういった予算がどんどんふえているというのは、以前はどこの家庭でも家で高齢者の世話をしていたというような経過がありますが、現在なかなか家庭で介護するところも少なくなって、そういった面で社会保障費みたいなところがふえていってるのかなというふうには思っております。これをいま一度家族あるいは地域で見守る体制をつくることで、予算的なものの削減はもとより、より気持ちのこもったサービスが提供できるのではないのかなというふうに考えております。以上です。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） 最後に、結局高齢者への配慮というところで全く違う提言になるんですけれども、保育園が私が力を入れたサービスと言ってますけれども、無償化になっています。どこの町も今そういう雰囲気になってるんですけれども、それはそれで子育て支援はいいと思うんですけれども。私が思うには、お年寄りとしては、何となくイメージ的に子育て世代ばかりというイメージも少しあるかもわかりません。それで、私、保育園が無償化になるのも、それはそれで今の時代のニーズに合ってるんですけれども、ふと思うんですけれども、保育園の保護者の方に、3月の毎年毎年卒園式をするはずで、1年ごとに。そのときに、やはり寄附をお願いして、幾らかわかりませんが、そのときに感謝の気持ちをあらわすので寄附をしてもらって、それで簡単な修繕とかなんとかは、全体保育園の施策の中の事業のところ組み入れられて、少しそこで修繕ができたりすると、何か私としては単なる無償化、無償化でなくて、やはりできる限りの保育園に預けた感謝の気持ちとして寄附を集めるということも本当はいいんじゃないかと思うんですけれども。それで、そうやってきて、高齢者もお互いに助け合ってるんだなという感じになるんじゃないかとふと思うんです。

というのは、やはりそういう寄附文化というのも少しはあってもいいかなと思っております。感謝の気持ちというところで積み立てていくと、少しの、今、保育園を教育民生で回ったら、あちこちが傷んで、あちこちが補修してほしいという保育園もあります。老朽化した。そういうところに回して、お互いに助け合うというか、高齢者も頑張ってるな、保育園に通わせてる保護者もというふうに思ってもらえる、そういう施策はどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

そういった寄附というのは考えておりませんが、あるいは保育園のことに余り踏み込むと、教育委員会部局のことですので、通告がありませんでしたので、なかなか

答えにくいところではありますが。現状としまして、保護者も保護者会という形で保育園の活動あるいは清掃だったり芝の管理だったり、そういうことに携わっていただきながら、ただ丸投げじゃなくて、保護者と一緒につくっていきこうというような保育園の運営を現状でもしております。無償化とは別に、施設の修繕の必要なところはやらなければいけないというふうに考えておりますし、無償化とは別として職員の待遇改善であったり、無償化はしますけれども、やらなければいけないことは無償化をしたからできない、あるいは無償化する前にしろではなくて、両方やっていかなければいけないのかなというふうに思っております。

高齢者向けに施策をとというようなことで質問をいただいております。寄附の話もありました。寄附文化を醸成していくためには、なかなか日本人、寄附文化がありませんので、難しいところではありますが、今、全国的に寄附文化を醸成しようということで、ふるさと納税の活用を国も進めておりますし、やっている自治体も多くあります。寄附の目的として、ふるさと納税の目的として、こういうことに使ってくださいという具体的な政策をうたうことで寄附文化の醸成を図ろうというものでございますけれども、そこに具体的に高齢者の施策も入れていくと、都会に出た若い人たちからのふるさと納税で高齢者の施策もできるなど、そういうようなことは考えられるのかなというふうに思っております。以上です。

○議員（12番 吉原美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、吉原議員。

○議員（12番 吉原美智恵君） 私はあえて通告はしておりませんが、高齢者の配慮施策ということで、高齢者の配慮として、そういうのはどうかといっただけのことでありまして、具体的にはまだきちんとお答えは願えないと思っておりますけれども、そういう発案も若い町長としてはどうかと思ったわけでありまして、

では、これで、時間はありますけれども、終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 質問じゃないですか。

○議員（12番 吉原美智恵君） 申しわけないです。どうでしょうか。済みません。最後の私の意見については、どうでしょうか。失礼しました。早く終わろうと思って。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） どうでしょうかということですが、なかなか……。

○議員（12番 吉原美智恵君） 高齢者配慮政策について、まとめて。

○町長（竹口 大紀君） 最初に答弁したとおり、やっているのは子育て施策だけではありません。町民全体が大山町に住んでよかった、これからも住みたいなというふうに思ってもらえるような施策を展開していきたいと考えておりますので、高齢者施策もしっかりやっていきたいと思っております。以上です。

○議員（12番 吉原美智恵君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで吉原議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 次に、3番、門脇輝明議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長、3番。

○議長（杉谷 洋一君） 門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） それでは、3点質問をさせていただきたいと思います。

第1問目は、ガバナンスの強化について、そして第2問目は、政治離れ対策、主権者教育について、そして3番目には、防災訓練についてということで質問をさせていただきます。

まず、第1問ですが、ガバナンスの強化についてということで質問をさせていただきます。これにつきましては、西山議員が概略のところをたくさん質問していただきましたので、私のほうとしては具体的な答弁がいただきたいなということでお願いをしたいと思います。

議員と語る会の中で、大山町において不祥事が発生しているのは、ガバナンスに問題があるのではという趣旨の発言をいただきました。ガバナンスという横文字であれですが、いろんな訳があるようですけれども、組織における統治であるとか統制であるとかというふうに言われております。具体的な内容としては、トップの意思を指示・命令、研修・指導、検査・監査、評価、処分などといった行為を通して組織全体に行き渡らせるルールであるというふうにも言われております。

そこで、本町行政組織におけるガバナンスの現状と強化について何点かお伺いしたいと思います。言うまでもなく、議員及び職員というのは町民の信託を受けて、そして仕事をしております。そして、報酬は税金によって賄われております。したがって、私たちのこの仕事によってもたらされた、獲得された情報は町民共有の財産であり、公共の福祉に支障がない限り、できるだけ公開されるべきものではないかということで、こういう基本的な考え方に基づいて、まず町長にお伺いをしたいと思います。

1点目として、指示・命令の具体的な例として、既に作業に入っておられると思いますが、平成30年度の予算の編成方針の内容と、それがどのようにして部局内に周知されたのか、お伺いをしたいと思います。

2点目には、指示・命令を円滑に遂行していくためには、具体的な事務指導、研修の実施が継続的・計画的に行われる必要があると考えます。平成28年、29年度に町職員に対して実施されました実務研修の名称とその内容、また参加の状況、何人対象で、何人参加されたのかということがわかりましたらお伺いしたいと思います。

そして、3点目、総務課には検査専門員という方が配置をされております。検査専門員は、どのような検査業務を行っていらっしゃるのでしょうか。検査報告書等の記録がありましたら、その内容と具体的な成果をお伺いしたいと思います。

4番目、町長にお伺いいたします。評価は、厳正、公平に、そして処分は信賞必罰で、

それぞれ基準に従って行われるべきであります。評価や処分の基準は作成されていると思いますが、それにはネットで調べたところ、町民に対しては公開をされていないようであり、これについて公開をする考えはございませんでしょうか。

5番目、ガバナンスの一つのかなめであります副町長の選任について、本町において大きな課題であると考えております。町長は年内に選任したいとっておられました、今後の見込みについて町長のお考えをお伺いしたいと思います。新聞にもいろいろ報道されておりました。

6番目、ガバナンスの強化を考えると、最大の武器は情報公開であると言われております。本町においても保有している情報を可能な限り公開していくべきだと考えますが、情報公開の促進について町長が具体的なお考えをお持ちでしたら、お伺いしたいと思います。

数多くなります。7番目ですが、常任監査委員にお尋ねをいたします。私は6月の定例会におきまして、町長に対して監査委員事務局に専任の職員を置く必要があるのではないかと、こういうふうに質問をさせていただきました。これに対し、町長は、事務局は現状で十分機能しておりますと、必要であれば監査委員の増員を考えていると、こういうふうに答弁をいただきました。平成28年度決算が終わった現在におきまして、監査委員自身の実感として、監査委員事務局の体制は十分であると言えるのか、お伺いをしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 門脇議員のガバナンスの強化について7点御質問をいただきましたが、そのうち6番目までお答えをしたいというふうに思っております。

まず、1つ目の指示・命令の具体的な例として、既に作業に入っている平成30年度予算の編成方針の内容と、それがどのようにして周知されたかということですが、予算の編成方針としましては、人口減少をとめるための施策を実行するということをメインにしまして編成方針を出しております。その方針内容は、全職員に対しましては庁内のグループウェアを使って発信をしておりますし、外部向けにはウェブサイトを使って公開をしております。

2つ目の指示・命令を円滑に遂行するためには、具体的な事務指導、研修の実施が継続的・計画的に行われる必要があると考えるということで、具体的な名称や数字をお尋ねですが、職員の実務研修の実施状況は、県と共同で運営しております鳥取県職員人材開発センター主催の実務研修を28年度64名、29年度73名受講しております。研修内容は多岐にわたりますが、主なものとして基礎研修あるいは契約事務講座などをしております。また、町独自の実務研修としては、全職員対象に電算システム研修、公会計制度研修などを行っております。

次に、3番目の検査専門員についての御質問ですが、当初設置した際には、毎

月の支払い伝票をチェックして、不適切なものがあれば厳戒の注意及び例月出納検査において監査委員に報告をしておりましたが、現在では検査専門員も管理職となりまして、例月出納検査に出席するだけとなっておりますが、いずれも本務とは別に兼務で業務を行っております。

それから、4番目の評価や処分の基準が公開されているかということですが、これは公開されておりませんし、今後も評価や処分の基準は公開をしない方針です。

それから、5番目の副町長の選任の件ですが、きょうの全員協議会でも話をさせていただきましたが、本定例会の中で選任をいただければというふうに考えております。

それから、6番目の情報公開に関する御質問ですが、情報公開をしていくというのは、町民との信頼関係をつくる上で大切なものだというふうに思っておりますので、関係法令に基づき、可能な限り情報を公開していきたいというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○代表監査委員（石黒 澄男君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、石黒澄男代表監査委員。

○代表監査委員（石黒 澄男君） ガバナンスの強化についての質問のうちに、最後の7番目、監査委員事務局の体制は十分であると言えるのかとの当職の実感についての御質問につきましてお答えします。

初めに、監査体制について取り上げていただき、お礼申し上げます。ありがとうございます。監査事務局につきましては、事務局を置くことができる、監査委員の事務を補助させるため、書記、その他の職員を置く等が地方自治法で規定されています。また、同じ地方自治法で、地方公共団体は、その事務を処理するに当たっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を上げるようにしなければならない。地方公共団体は、常にその組織及び運営の合理化に努めるとともに、他の地方公共団体に協力を求めて、その規模の適正化を図らなければならないとも規定されています。

我が鳥取県の監査委員補助職員の現状を東・中・西部に分けて、ことしの4月1日現在で見ますと、東部の4町では、若桜町、智頭町は2名、岩美町が1名、あと八頭町では3名になっております。中部の4町では、三朝町、湯梨浜町、琴浦町及び北栄町の全ての町が2名です。西部では、西伯郡の4町村、日野郡3町では、当大山町は2名ですが、他の町村全てが1名になっております。さらに、県内全ての町村で専任職はありません。議会事務局との兼任となっているのが実情でございます。

以上を鑑みましても、現在において大山町の監査事務の体制は、人的構成、職員の資質も含みまして十分であるとお答えすべきものと考えております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） お答えいただきました。1番目の具体的な例として、3

0年度の予算編成をお答えいただきました。私のあれですけれども、ネットで見たときに、まだ公開がされてなかったように思いましたのであれですけれども、公開をされているということで大変よろしいと思います。この30年度予算編成の方針は、竹口町政の姿勢を示す重要なものと考えております。査定の基準の一つとなるものですから、査定状況とともに、竹口町長が前回の答弁をいただきましたように、ともに公開していただければ、よくわかるのではないかと思います。その辺のところをよくわかるように、査定状況のときもあわせて公開をしていただければと思いますので、よろしく願います。いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

予算の査定状況について公開ということで、前回の一般質問だったかと思いますが、いただきまして、やりますというふうに答えまして、するようにしております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） お答えいただきまして、よろしく願いたいと思います。

そして、指示・命令ですけれども、今いろいろ国会等でも問題になっております、言った言わないという話がありますので、今回具体的に部内のネットを通じて周知をされたということで記録が残っております。非常にいいことだと思っております。すべからず、そういった指示・命令については、できる限りそういった文書に残るような形でやっていただければと思います。よろしく願います。町長、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） そのようにしていきたいというふうに考えております。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 2点目の質問、詳しく説明をいただきました。研修等をしっかりやっていただいて、そして町政の執行に遺漏のないようにしていただきたいと思っております。会計に係る研修もあったようでございます。会計の研修は、初任者に限らず中堅でも、そして管理職にあっても絶対に必要なものでございますので、引き続き十分な研修をしていただければと思います。それによって不祥事が一つでも二つでも減っていくということを期待したいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 引き続き必要な研修は行っていきたいというふうに考えております。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 先ほどの研修の中に、コンプライアンスに係る研修というのはちょっとやられたかもしりませんが、直接具体的にお答えがございませんでしたので、お伺いしておきます。

あわせて、窓口業務というのは町の顔でございます、非常に重要な部分でございます。私も議会に来るたびに一番最初入って、おはようございますというふうに挨拶をして入ってくるようにしております。そういった接遇に関する研修については、しっかりやっていただいておりますでしょうか、お伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） コンプライアンス研修ということですが、ちょっと今手元に資料がありませんので、詳細な日にちまでちょっと記憶しておりませんが、今年度行っております。

それから、接遇に関してですが、やはり住民さんに接する職員、職員ほとんどが住民さんと接するわけですが、接遇によって住民さんの意識も変わるところもあるかと思っておりますので、しっかりとやっていきたいというふうに思っております。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 3番目の質問につきましてお伺いをしたいと思います。

先ほど月例検査ということで、そういう検査専門員の仕事はそうであるというふうに言われておりました。財務規則の163条には、年1回以上検査することというふうに規定をされております。いわゆる月例検査だけでなしに、業務全般に対して検査をすべきではないかなと思っております。その中で、個々業務の中で、研修ではつかみ切れなかった、そういった具体的な事例について知識を深め、そして不適切事務の再発防止につなげていかなければならないと思いましたが、そのような方向で検査専門員にしっかりと仕事をしていただくことはできないのでしょうか。

もしもできないということであれば、そういった会計に関する専門知識が必要であります会計課長、こういう方に委任をして、検査専門員でなくて検査ができるというふうな規定にもなっております。

そして、検査をやっていく上で非常に大事なことは、検査の視点、そして基準、こういうことが明確になっていないと、検査について有効な検査ではないというふうに考えておりますので、そういった視点の持ち方、そして今後の取り組みについて町長にお伺いしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

検査専門員については、しっかり仕事をしていただきたいというふうに思っております。検査専門員だけではなくて、仕組みとしましては監査委員だったり、あるいは御指摘がありましたけれども、歳入歳出に関しましては会計課長が管理をしておりますので、そういったところでもしっかりチェックをしていくことで、検査専門員だけに頼るのではなくて、全体としてチェック機能を強化していく必要があるかなというふうに思っております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 検査専門員だけではないということで御答弁をいただきましたが、基本的な考え方として、それぞれの職務にそれぞれの職員が責任を持って当たるということが大事なことではないかと思っております。当然その他の職員についても、きちっと仕事をしていかなきゃいけないわけですけども、検査専門員として職務を与えられたということであれば、その検査の中に専門員としての自覚、そして何をやるべきかということは当然持っていたらかなきゃいけないと、私はこういうふうに思っております。先ほど申し上げましたけども、検査の視点、基準等についても御答弁をいただいております。お伺いしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 基準等に関しましては担当から答えさせていただきたいと思いますが、御指摘のとおり、しっかり意識を持って検査専門員としての仕事に当たっていただくというのが大切だというふうに思っております。

○総務課参事（金田 茂之君） 議長、総務課参事。

○議長（杉谷 洋一君） 金田総務課参事兼検査員。

○総務課参事（金田 茂之君） 基準についてお答えをいたします。

特段の基準があるわけではございませんけれども、設置当初は平成24年のころだったと思いますけれども、財務の検査だけにかかわれて、いろいろと不祥事が相次いだ時期でありましたので、そちらのほうの対応を検査専門員として主に行っておったところが実態でありまして、今現在、出納検査しか出ておりませんけれども、昨年度のNPOの問題に関しまして、事務改善委員会のほうを設置をし、そちらのほうの取り組みのほうもしておりますし、9月に発覚いたしました町道の不適切事案につきましても、私のほうで行っておりますので、特段の基準というわけではなくて、全体的なところで検査をしておるというところで御理解をいただきたいと思っております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 特段の基準は持っていないということでございます。当然検査というのは、そのときそのときの事情によって、状況によって重点として取り組むべきものは変わってくると思います。それに対して、やはり町民に説明をしていくという意味であれば、今回のNPOの問題にしましても道路の問題にしましても、検査をするのであれば、どこをどういうふうに見ていくんだというものをちゃんと記録として残しながらやっていく、そしてそれが財産となって町政の発展につながると思います。町長の御答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

昨年度起きましたNPOの関係、それから昨年度の町道の工事における不適切な事務処理のこと、さまざま案件が出てきておりますが、一番いいのは、そういったことが未然に防げるということだとは思いますが、もう一つ、検査専門員の仕事あるいは監査等の仕事で大切なのは、事が大きくなる前にその課題を見つける、問題を見つけるというのも大切であろうというふうに思っておりますので、そういった機能が働くようにやっていきたいなというふうに思っております。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 町長の答弁のとおりだと思います。未然に防ぐためにも、役場の業務全般を見回して、事前にこういうことが必要だなという視点、基準を持って検査に臨んでいただきたいと思います。その辺で町長の答弁をひとついただきます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） そのような視点を持ってやっていきたいというふうに思っております。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） それでは、4番目の質問に入らせていただきたいと思えます。町長にお伺いをいたします。

評価というのは、先ほど基準等の公表はしていないと、今後もするつもりはないということで御答弁をいただきましたけれども、これはやっぱりそういう基準があらかじめ定めてあれば、町民のほうは納得しやすいのではないかなと思っております。私が前に勤めておりました県職員におきましても、処分の基準、例えば交通事故であれば訓告から、重大な場合は停職まで行くというふうな基準が示されておりました。そういった部分も参考にしながら、やっぱりある程度の基準があったほうが町民さんに納得していた

だきやすいのではないかなと思いますけれども、町長の御意見はいかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

評価及び処分の基準に関しましては作成をしております。公開はしていませんが、作成はしております。例えばですけれども、評価に関しましては、民間の会社なんかでもなかなか公開してるところは少ないのかなというふうに思いますが、評価基準を公開すると、評価制度自体がゆがむ可能性というのが一つ懸念される場所だというふうに思っております。具体的に言いますと、評価基準に合わせて全て仕事をしていく、動いていくというような、ちょっと違った力が作用する可能性がありますので、評価基準というのは基本的には公開すべきではないというふうに考えております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 町長の答弁、評価基準については納得をいたしました。処分の基準についてはいかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 処分の基準に関しましては、なかなかちょっと自分の中でも結論が出ておりませんが、今後もうちょっといろいろ考えてみたいと思います。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 処分の基準については考えていくという前向きな答弁をいただきました。町民の納得がいただけるよう、ぜひいい考えを出していただきたいと思います。

5番目の副町長の選任につきましては御説明をいただきましたが、やはり新聞報道にあったように、事前にそういったものがさも決まったように報道されるのはいかがなものかなと思っております。そういう意味では、どこからその情報が出たのかもはっきりはいたしませんけれども、複数の関係者で確認をしたところ、そうであったと報道されております。もしも、これはあり得ないと思いますけれども、庁内の職員あるいは議員のほうからそういった情報が漏れたとすれば、これはゆゆしき問題であると思っております。当然人事の情報というのは秘密に属するものであります。地方公務員法でいうところの秘密保持の義務、そして町でいうところの服務規程に違反する行為であると思えます。町長のお考えをお伺いしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えをします。

新聞報道に出たというのは御承知のとおりだというふうに思っておりますが、新聞報道に出るものを行政側でコントロールするというのには基本的には不可能であるというふうに思っておりますし、報道の自由に反するものであると思いますので、そこをコントロールするという気持ちもありません。しかしながら、副町長の案件に関しまして御説明をいたしました。議会に対しても説明をしましたが、それ以外にも、やはり新聞報道に出る前に周知すべき範囲というのが議会以外にもあろうかと思っております。当然議会に説明した日と同時に、全職員にも周知をしておりますし、それ以外にも県のほうから来ていただくということで、県の職員さんにいろいろ聞いておりますし、あるいは私も今では何回か会って話しておりますが、県のほうから紹介をされた時点では、どのような方か知らない上で決めるというようなことでしたので、当然どういう方かというのは地元のほうの人に聞いてみたりだとかしておりますので、実際どこから情報が出たかというのはわからないところではありますけれども、秘密保持というところは行政としては大切なところですので、漏れてはいけない情報というのはしっかり守っていききたいというふうに思っております。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 今回ガバナンスの強化ということで質問をさせていただいております。この情報の伝達ということについては、いろいろあると思っておりますけれども、ガバナンスがきちっと機能しているかどうかというバロメーターの一つでもあると思っておりますので、御留意いただければと思います。

次に、そのガバナンスの強化について情報公開というお話をさせていただきました。大山町の情報公開条例第20条には、情報提供に関する施策の充実に努めると、こういうふうにご書いてございます。情報公開、情報提供には、いろいろな壁があると思っておりますが、公共の福祉に関しない限り、できる限り情報を提供していく。これが町民とともに歩いていく町としての姿勢ではないかというふうに思っておりますので、町民の信頼に応えるために町長の熱い思いをお伺いできればなと思っております。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

情報公開に関しましては、基本的に積極的にしていくべきだというふうに思っております。その理由としましては、情報公開をしましても全部の情報を全ての住民さんが見られるとは限りませんが、いつでも情報が見られるという環境をつくるというのが大切だというふうに思っております。また、こちらはよかれと思ってやっていることでも、情報を公開していることによって外から指摘をしていただけるというメリットもあろうかと思っております。行政も、どんな人もですけども、失敗をせずに仕事をしていくというのは非常に難しい話で、よかれと思ってやっていることでも、だめだったというような

ことはよくあることだというふうに思っております。その際に、なるべく早い段階で指摘をしていただいて改善をする、そういうことが大事だと思いますので、そういった機能を持たせるためにも情報公開というのは積極的にやっていくべきだというふうに考えております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 7番目の質問につきまして、監査委員さんにお伺いをしたいと思います。

11月19日付の日本海新聞には、鳥取県の平成28年度決算に係る監査の結果の記事が載っておりました。これには指摘事項が件として41件、そして指摘にまでは至らないけれども、注意すべき事項が755件と書かれておりました。本町の決算では、指摘意見につきましては1件報告がございましたけれども、注意事項に類するものの件数は何件ございましたでしょうか。

○代表監査委員（石黒 澄男君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、石黒代表監査委員。

○代表監査委員（石黒 澄男君） 済みません、今ちょっとここで何件というのは私のほうも記憶がありませんので。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 大体でいいですけども、記憶がなければ結構です。また調べて御報告いただければと思います。

この監査の結果、指摘事項、注意事項がこれだけの数、鳥取県においても上がってるということがございます。本町は、鳥取県に比べて会計なりなんなりに係る事務がそれより、鳥取県以上にしっかりしてるぞというふうにおっしゃったという、事実かもしれませんが、実は鳥取県の監査に係る調書というのはですね、こういった分厚い何ページにもやる調書を各所属がつくって、それに基づいて監査を行っております。（資料の提示あり）監査委員さんはこういうものは見られたことございますでしょうか。

○代表監査委員（石黒 澄男君） はい。

○議長（杉谷 洋一君） はい、石黒監査委員。

○代表監査委員（石黒 澄男君） はい、たしかどなたかの、名前忘れちゃったけども、私のほうにですね、こういったので県はされとるとというのは頂戴いたしました。で、中身はぱっと見たぐらいです。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。これを、非常に大きな部数になるもんですから事務的には非常に厳しいものがあると思いますけれども、県の機関は全部これそれぞれの各課各所がつくって、それで、これに基づいて監査を行っております。当然こういうこ

とをやるわけですから、県においては、監査委員事務局というものが、10人はいなかったかな、五、六人いて、それで随時、監査時期だけでなしに、決算時期だけでなしに見込みということで監査を行っております。年間を通じてやっておるものですから、そういったものはいろいろ不都合な事務、不適切な事務というのが発見しやすいような、そういった体制になっております。こういったことを参考にいただいてやっていただきたいと思うんですけども、先ほど御答弁をいただきました監査の体制は、監査委員としては十分でないかと、よその町村と比較してみても十分ではないかというふうに考えているということでございました。監査の大切なところは、人員体制ではなしに、何を見て何を結果を出すのかということが重要であると思いますので、今すぐ御答弁は難しいと思いますけれども、感想をお聞かせいただければと思います。

○議長（杉谷 洋一君） はい、石黒代表監査委員。

○代表監査委員（石黒 澄男君） いろいろ耳の痛い話聞かせていただいてですね、あれですけども、できるだけ門脇議員さんの意向に沿ったような形ですね、今後変えていけるものは変えていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） はい。いい時間になりましたんで、いいぐあいに監査をしていただくようお願いをしておきたいと思います。また来年も同じような質問が出ないようによろしく願いたいと思います。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

政治離れ対策、主権者教育についてでございます。

10月22日に行われました衆議院議員の選挙の投票日でした。本町における投票率は64.55%でございました。低下傾向が続いております。住民の政治参加は、民主主義、そして住民自治の基本となっております。本町においても投票率向上のために啓発活動等、努力をさせていただいているところでございますが、私の耳に入った住民の声から3つほど、その投票率向上のための施策を提案させていただきたいと思います。

まず1つは、県内の多くの市町村では、期日前投票に係る住民の利便性向上と手続簡素化のために、投票入場券の裏面に期日前投票に必要な事項、いわゆる宣誓書でございますね、これを事前に記入して持参できるように印刷がされていると聞いております。本町でもすぐ実施できるんじゃないかというふうに考えておりますが、お伺いをいたします。

そして2番目に、一部自治体では、ポイントカードのように、選挙に行くたびにその参加印を押していただいて、それを自分が記録しておける選挙手帳のようなものを作成して配布し、好評を得ているというふうにも聞いております。御高齢の方などは、その捺印が、押印がふえるのを楽しみに投票に行かれるということもあるようでございます。押印の数によって記念品を贈呈する等、工夫によっては投票率の向上に資するものではないかと思っております。導入に向けた検討はしていただけないのでしょうか。

3番目に、名和公民館で開催した議員と語る会の中で、小学校6年生の方が参加していただき、意見を述べていただきました。彼は、この町の発展のために高校や大学を誘致してはどうか、また、少子化問題、少子化、高齢化問題はどうなってるかなど、真剣に質問をされました。その中で、議員の中から、子供議会が開催されたら参加したいですかという問いを行ったところ、ぜひ参加してみたいという答えでございました。本町の未来を担う子供たちに対する主権者教育は非常に重要なものと考えております。学校教育の中では、しっかり取り組みが行われるというふうに考えておりますが、さらにこれを促進するために、子供議会の開催について町長並びに教育長にお考えを伺いたしたいと思います。よろしくお願いします。

○選挙管理委員会会長（加納 郁生君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、加納郁生選挙管理委員長。

○選挙管理委員会会長（加納 郁生君） 政治離れ対策、主権者教育についてということで3点の御質問をいただいておりますので、私のほうから2点お答えいたします。

まず1点目の入場券の裏面に期日前投票の宣誓を、宣誓書を印刷できないかということですが、議員の指摘のとおり、利便性、簡素化を図るため、県内の、県内でも裏面に宣誓書を印刷している自治体はあります。本町においても、入場券の裏面への宣誓書の印刷については今後協議していきたいと考えております。

2点目の選挙手帳、ポイントカードを導入してみてもどうかということですが、新しく有権者になられた方に選挙手帳を配布したり、飲食業を中心に選挙割といって投票済み証を持参すれば割引や特典を得られるようなところもあります。しかしながら、選挙管理委員会といたしましては、私たちの理想や考えを政治に反映してくれる代表の選ぶ選挙は、民主主義を実現するための欠かせないことであり、割引を受けられるから、スタンプを押してもらえから投票に行くのではなく、自分の意思で未来のために一票を投じていきたい、いただきたいと考えておりますので、実施は考えておりません。以上です。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長、教育長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見寛幸教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 門脇議員からの子供議会の開催についてお答えいたします。

教育委員会としましても、大山町の将来を担う人材育成という意味において、身近な大山町の政治について考えることはとても大切だと考えております。学校教育の中でも、中学校3年生の社会科公民分野で身近な地方自治体、団体の政治について取り上げ、学習しております。また、投票の意識の向上、実践的な取り組みといった点では、生徒役員選挙も実施しております。

今年度の11月に、小学校6年生の国語科の教科書教材「町の幸福論」という学習において、私たちの町の未来について考え、プレゼンテーションをするという学習がありました。この中で、中山、名和小学校の6年生は竹口町長に、大山町のまちづくりにつ

いて話を聞きたい、そして自分たちの考えた大山町の未来像について聞いていただきたいという願いが実現し、町長がゲストティーチャーとして学習に参加されました。空き家を有効に活用して町の人口増加につなげよう、また、農作物を荒らして駆除の対象となっているイノシシの肉や皮を使い特産品をつくろうなどのアイデアや、町長のキャラクターをつくって町のマスコットにしようという児童ならではのユニークな提案も出ました。

子供のころから政治に興味を持つ取り組みの一つとして、子供議会はよい取り組みだと考えますが、授業時数の確保、また、議場への移動時間の問題なども考えられますので、通常の学習時間の中で実施することは難しい現状だと考えております。他の県、市町村では、町長、議員との触れ合いトークなど、子供たちが自分たちのまちづくりへの要望等を届ける取り組みもありますので、より児童生徒が取り組みやすい形を検討していきたいというふうに考えます。以上です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

私の範囲で答えられるところは限られておりますけれども、先ほど選挙管理委員長並びに教育長が答弁したとおりで考えております。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） はい。1点目の質問につきまして、検討をしたいということで選挙管理委員長さんのほうから御答弁をいただきましたけれども、これは検討はいつまでということと考えておられますでしょうか。私としては、ぜひ次期の選挙までには結論を出していただきたいと、このように考えておりますが、御答弁をお願いします。

○選挙管理委員会会長（加納 郁生君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、加納選挙管理委員長。

○選挙管理委員会会長（加納 郁生君） 早い時期に協議を進めたいと考えとります。

○議員（3番 門脇 輝明君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 早い時期にということですので、次期選挙までにはできるというふうに期待をさせていただきます。

そして町長のほうにお尋ねいたしますけれども、子供議会のことについて、教育委員会と同じだというふうにお聞きいたしました。教育委員会のほうでは、通常のカリキュラム上では難しいというお話でしたので、もしも町のほうで受け入れができるものなら、あるいは通常のカリキュラムがない休業、学校の休業中であるとか、そういったものを活用して開くということではできないものでしょうか、町長、お伺いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

教育長が答えたとおりだというふうに思っております。選挙管理委員長の権限のことに対して私が答える、あるいは教育長の権限の範囲内について私が答えるというのは越権行為だというふうに考えております。

あわせて、子供議会を町長部局で、あるいは教育委員会で開催するというのは、これは議会に対する越権行為でもあろうかと思えます。全国的に子供議会というのを開催している議会というのはたくさんあって、開かれた議会に向けた取り組みとしては非常に有効であるというふうに考えております。鳥取県も、高校生を呼んで事前に学習をして議会を開いて高校生議会というようなものを開いております。大山町の議会としましても、ぜひそういった取り組みをしていただければというふうに考えております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） はい。議会として取り組んでほしいという御答弁でございました。しっかりこれから私としても検討していきたいなと思っております。

最後の質問になります。防災訓練についてでございます。時間がありませんので、端的に行きたいと思えます。

近年、地球温暖化によるものと言われております風水害や豪雪、活動期に入ったと言われております火山や地震、想定されなかった原発事故あるいは北朝鮮による脅威等で町民の生命、財産を脅かす災害が心配されております。災害に適切に対応し、被害をできるだけ少なくするためには事前の訓練が必要不可欠でございます。本町でも実施されていると思いますので、平成28年、29年度に実施した訓練の想定、内容及び成果及び課題をお伺いします。また、災害対応の初動として住民の安否等被害状況の確認を行うことになりましたが、その体制はどのようになっているのか、お伺いをいたしたいと思えます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。門脇議員の3点目の質問にお答えをいたします。

まず、平成28年、29年に実施した訓練の想定、内容、成果及び課題についてですが、平成28年度は10月23日に名和地区で土砂災害を想定した訓練を実施することとしておりましたが、2日前の10月21日に鳥取県中部地震が発生したことにより中止といたしました。延期ということも考えられましたが、町内で被災された方もありましたので、やむなく中止の判断をしたところであります。

今年度は、内容は未定でありましたが、11月5日に実施する計画でございましたが、衆議院議員総選挙があり、十分に内容等を検討する時間がとれなかったことから、実施

を見送ったところであります。そのかわりといたしまして、政務報告でも上げさせていただきますましたが、12月2日に、以前から消防庁及び県危機管理局から弾道ミサイルに対する住民避難訓練の実施を要請されておりましたので、下中山地区の皆様にご理解をいただき、中山温泉館周辺で国民保護の住民避難訓練を実施したところでございます。初めての訓練で、こちらもふなれなところがありましたが、参加者の皆様にご協力をいただき、何とか無事に実施することができたところであります。

次に、災害時の住民の安否等被害状況の確認の体制ですが、まずは自主防災組織あるいは自治会で行っていただくこととなります。何らかの支援が必要ということであれば、町、そして町消防団及び消防署が出向くことになるかと思えます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） はい。訓練が、今回、本年度においては弾道ミサイルに対する訓練ということで実施されたようでございます。実際の実動訓練は当然非常に重要な訓練になると思いますけれども、ある意味それ以上に重要なのが、図上訓練、要するに、そういった何が問題なのかということ洗い出して、そして課題を見つけて訓練を実施するということが非常に重要になってくると思います。そういった意味で、図上訓練の実施、そしてその成果の地元住民に対するフィードバックというのはどのようになっていますでしょうか、お伺いをしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

成果とフィードバックということですが、避難訓練の効果としましては、1つに、直接的にその避難訓練に参加された住民さんの避難意識の向上あるいは避難の際にスムーズに避難ができる、何かあったときに対応ができるという効果、そして御指摘のとおり、もう一つとしましては、実際に避難訓練ということで大勢の人数を避難していただくことで見えてくる課題、それはもうこちら側の課題が大きいところですが、そういった課題も見えてこようかと思えます。この防災訓練を通じては、そういう課題の洗い出し等をしながら、より住民さんが何かあった際にスムーズに避難、あるいはそれぞれの住民さんの体、命を守っていただけるような、そういう取り組みになるように今後も改善を図っていきなというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 先日、まちづくり会議の主催になります大山・所子地区の防災フェスティバルに参加させていただいたんですけれども、非常に人数が少なかったということもあります。そして割合同じような内容を毎年やっていて、本当に参加者をふやすためにはどうしたらいいのかということで、まちづくりのほうも心配をしてお

られるということでございます。これは、やっぱり当然まちづくりのほうも協力するわけですけれども、防災訓練というのは町が主体になってしっかりやっていくべきじゃないかと思えますけれども、町長、いかがでしょうか。

○議長（杉谷 洋一君） はい。ちょっと済みません。竹口町長、あと時間が1分30秒ですので、よろしくお願いします。

○町長（竹口 大紀君） はい。議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

防災訓練はどこが主体になってやるかという御質問かと思えますけれども、国がやる防災訓練もあれば、県がやる防災訓練もあって、町がやる防災訓練もあれば、自主組織の中でやる訓練もあると思えます。それは、その想定する訓練の内容にもよるかと思えますし、一番いいのはですね、やっぱり自分の身は自分で守ることができるということだというふうに思っております。有事の際に、人からの指示を待って動いては手おくれになるということは考えられることですので、そういったことがないように訓練をしていく必要があると思えます。一人一人が避難の意識を高めるためには、町がやる部分もあれば、自主組織がやる部分もあっていいというふうに思っておりますので、どちらがやらなければいけないということではないというふうに考えております。以上です。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、門脇議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで門脇議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩します。再開は午後1時とします。

午後0時03分休憩

午後0時59分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

1番、森本貴之議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長、1番。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。1番、森本貴之です。昼、トップバッター、よろしくお願いします。通告に従いまして2問質問させていただきます。

まず1点目に、副町長選任の件について質問させていただきます。

4月の改選後、新体制で町政が動き出し、はや8カ月が経過いたしました。あっとい

う間にことし1年が終わろうとしております。多くの経験をさせていただき、本当にあっという間の1年でありました。行政においても大きく動いた年ではないでしょうか。

そして通告の副町長人事に関しましても、5月に野間一成氏が副町長に就任されて以降、町政はもちろん、内部統制のかじ取り役としても尽力される中、9月定例会中、御逝去されました。突然の訃報に驚き、悲しみを感じ、それに伴い、町政の停滞も心配いたしました。しかし、力強く前へ前へと町政を進められました。その副町長不在の中、3カ月が経過いたしました。12月定例会を迎え、大山開山1300年祭、山の日記念全国大会と大きなイベントが開催される平成30年が目前に迫っています。新年度予算も動き出す時期でもありますし、新たに竹口町政がスタートするものと感じています。議会のみならず、町民の皆さんの関心も大きいことと思います。

私が、一般通、ごめんなさい、一般質問の通告を出したのは11月29日のことでありまして、先般の新聞報道もあり、通告時より状況も動いている現状ではあります。通告に従って質問いたします。

まず1点目に、副町長選任の現状は。2点目に、副町長選任に当たって、どのような思いで人選に臨まれているか、この2点をお聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。森本議員の1つ目の質問、副町長選任についてお答えをさせていただきます。

副町長選任の現状はということで御質問いただいておりますが、先ほど午前中に門脇議員の質問の際にもお答えしたとおり、本定例会中に選任をいただければと考えております。

それから、2つ目の副町長選任に当たって、どのような思いで人選に臨まれているかとの御質問ですけれども、これは、もう人物本位で考えております。仕事ができることはもとより、人をまとめる能力、そういったところも重要かというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。現状について、本議会中において選任していただければということで答弁いただきました。

そして選任に当たって、どのような思いで人選に臨まれているかということでありますけれども、仕事はもとより、その副町長につかれる方がどういった方なのか、これはしっかりした方でないといけないというのはもう当たり前のお話でありまして、4月、5月の臨時議会のこの副町長人事の提案時にも、内部起用に強い思いを持たれていたと思いますが、その点、方針転換された思い、お考え等ありましたらお聞かせください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

森本議員御指摘のとおり、4月あるいは5月の臨時議会で副町長の選任の案件の際に、内部登用で副町長を選びたいというふうにお答えをしております。これはですね、その当時も同じような説明をしておりますが、外部から来た私としましては、組織をうまく束ねてくれる、そして掲げた政策が職員がやってくれないと進みませんから、その職員に政策を進めてもらう、そういうスタートダッシュが切れるような体制をつくるために、内部登用で考えているというふうにお答えをしたところです。

残念ながら亡くなられましたけれども、野間副町長、9月までの約半年弱ぐらいの間に、とても、もう私の期待以上ですね、組織の束ね方をさせていただきました。政策もスムーズにスピーディーに実現できたのは野間副町長あってのことだというふうに思っております。そしてその半年弱の間、野間副町長がつくってくださったこの組織体制、組織の風土というものは、野間副町長亡き今も続いております。この半年弱の間に野間副町長がつくってくださったこの組織風土をもってすれば、今現状では、内部登用にこだわることなく、県からお願いして副町長に来ていただいても、十分な仕事あるいは十分な組織体制がつくっていただけるものというふうに考えております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。就任以降、町長、副町長のもとで内部統制がとれてきた、当時、竹口町長が望まれていた内部の環境が整ってきて、当時とは大分内部の状況も変わってきたというところで、内部起用に持たれていた思いというところが、いい形で今残されているという言葉いただきました。新聞などの特集にも出ていますように、職場内の風通しをよくということで、いろいろ懇談会もされているようです。その築かれてきた、今までつくってきた職場内の風土、この土台をさらにいいものにしていかれることじゃないかなと思っております。

そんな中でですね、人事案がまず議案として議会に上がってくるよりも先に新聞報道があったという現状なんですが、町民の皆さん、議会とも混乱を招きかねない状態にあったと感じるわけですが、ちょっとそれについて思いをお聞かせ願います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

これも門脇議員の質問にお答えしたとおりですけれども、議会に副町長の人選について説明するのと同時にですね、議会以外にもやはり事前にお伝えをしなければいけない、報道に出るよりも前に伝えなければいけないところ、具体的には、全職員への周知だったりあるわけですけれども、そのほかにも、県の関係者、あるいは私のほうも人物がど

のような人かというのを聞くために、もう全然職員とは関係ない地元の人だったりですとか、その人物を知ってそうな人に聞き取り等をしておりますので、そのどこから情報が漏れたかはわかりませんが、そのような状況で報道に出たものと思っております。

なお、また繰り返しになりますが、報道機関に対して出さないでくれというのは、要請はできたとしても、これは報道の自由がありますので、報道するかしないかは、それは報道機関の裁量だというふうに考えております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。新聞報道に出てしまうことが必ずしも全て悪いことだとは思いません。新聞に出ておりますのも、県課長、町長方針固めるというふうに、県の課長さんが言ったような口ぶり、口ぶりというか、書き方で書いてありますので、やはり町内、町内というか、大山町の行政内でしっかりそういう外に出てはいけない情報とかというのが守られていたとしても、やっぱり関係するほかの自治体であったり、行政であったりということもあることですので、町内、大山町の中だけを町長としてしっかり目を配るわけではなくてですね、やっぱり関連するところがほかにも存在することであれば、やっぱりそっちのほうにも大山町としての気持ちを伝えていく必要があると思うんですけど、その辺についてどうお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

情報のコントロールというのは非常に難しい問題で、この副町長の件に関しましても、絶対に情報を漏らさないというような体制は結果的にはとれなかったわけです。やはり人に伝わった情報というのは、どこかでは出てしまうのかなというところはありますけれども、行政ですので、機密情報のようなものはしっかり守っていきたいというふうに考えております。関係機関に対するところはですね、なかなかこちらの権限が及ばない範囲もあると思いますので、情報のコントロールは非常に難しいところではありますが、可能な限りコントロールをしていきたいなというふうに思っております。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。そういったところで、今回の件に限らず、やはりそういった連携をとっていく上で情報の前後があると、またこういう混乱が起きることも今後予想されますので、その辺についての改善点なり、課題が今後また新たに出てくると思っていますので、その辺についてはこれからしっかり統制をとっていただくようお願いいたします。

それから、県から起用する方針を固めたという報道があったわけですが、これも新聞

報道の話ですのであれですけど、方針を固めた思い、そして今後、そういった人物を今後どう町政に反映させていきたいとかという思いやビジョンがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

どういう人物かというのは、何回か出会っており、話もしておりますので、大体わかったつもりではありますが、実際にその長く時間を過ごしたわけでもなく、あるいは一緒に仕事をしたわけでもありません。知り得る情報としては今までの経歴だったりするわけですが、今後、副町長に期待することというのは、仕事をしていながら、その能力も見ながら、あるいはどういう経験が生きてくるのか、そういったところを総合的に判断してからではないと、なかなか申し上げにくいというのが現状でございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。確かに今の段階では何も聞いても、やっぱり具体的なお話はできない段階が現実だと思います。そういったところですね、この人事案の提案、今議会中について選任をとということですが、この人事案の提案とこの先の町政への思いを再度聞かせていただいて、1問目の質問を終わろうと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

具体的には、また提案理由の説明あるいはその際の質疑等でもあろうかと思いますが、私が思うところ、あるいは感じるころでは、副町長に来ていただく方は能力も、それから人間性も十分な方だというふうに思っておりますので、その方の能力を最大限発揮して今の大山町の課題の解決等に取り組んでいきたいなというふうに考えております。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。よりよい大山町を目指していただきたいと思えます。

続いて、2問目の除雪対策について質問いたします。

12月を迎え、本格的に冬の到来を感じる季節になりました。毎年のように話題に上がる除雪対策であります。近隣自治体も初動体制の迅速化など除雪体制の見直しが行われているようです。平成23年豪雪、そしてことし1月にも一部ライフラインに影響するほどの積雪に見舞われました。積雪による二次災害の予測も必要と考えます。本町においても、行政と委託先業者だけでなく、集落間との連携も強化しなければならない

と感じます。

そこで質問いたします。1点目に、過去の除雪対策の経験から対策の見直しや強化を図られたものがあれば、お聞かせください。2点目に、自主防災組織や各集落の除雪能力の有無は把握されておりますでしょうか。3問目に、通学路、生活道路の除雪、排雪をどう考えておりますでしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。森本議員の2つ目の質問、除雪対策についてお答えをいたします。

まず、過去の除雪対策の経験から対策の見直しや強化を図られたものがあればお聞かせくださいとの質問ですが、昨年度に比べまして、業者さんの協力も得ながら借り上げ機械で3台、あとは保有の機械で歩道の除雪機1台の増設をしております。

それから、2つ目の自主防災組織や各集落の除雪能力の有無ですけれども、昨年度の除雪委託をしたのが69集落あります。これは機械除雪ができる能力があるというふうに判断をしております。

それから、3つ目の通学路、生活道路の除雪、排雪をどう考えるかとの御質問ですけれども、通学路に関しましては、通学の時間までに完了するように対応をしております。それから生活道路は、基本的には住民の皆さんの自助、共助でお世話になっているところでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。まず、1点目の質問の見直しや強化を図られたところにつきまして、機械の増強、リースを含めた所有機械を3台、業者の借り上げ機械を4台増強しとるというところであります。機械はふえたなというところはこれでわかるんですけども、町の除雪対策会議、また、区長会への資料に、積雪15センチ以上と判断される場合に出勤するという言葉があるんですが、今回の、今期の冬から県や近隣自治体も5センチから10センチと見直し幅を持たせて気象状況によって出勤できる体制を見直しておりますが、本町において、こういう資料で目に見える表向きのところで見直しされなかった理由があれば、お聞かせください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

除雪の目安として15センチという話がありましたが、これは15センチ積もらないと出ないというわけではなくて、15センチの積雪が見込まれる際に除雪を開始するというので、その15センチが例えばもう限りなくゼロに近いような数字であれば、降

っても積もらないような見込みの際にも出ないといけないということで、これは無駄な部分と除雪をしっかりとやるというところの線引きの話だと思うんですけども、現状としては、その15センチを見込まれるという数字を残した状態で、やっぱり現場を見た職員あるいは業者さんの判断で、これはすべきというのを柔軟に判断していくほうがよっぽど有効だというふうに考えております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。考えながら柔軟に対応していくというのは、効率化の上ではやはり有効的な判断なのではないかなと思います。しかしですね、やっぱり皆さんに配布する資料の中に、そういう思いの部分が載ってないまま、積雪15センチ、これは29年度も28年度も同じ内容でその方たちの手元に渡ってるようなんですけども、結局去年と変わってないじゃないかという印象がまず先に入ってしまうのと、近隣は15センチだったものを10センチから5センチ、具体的に数字で改善、強化を図られとる中で、なぜ、じゃあ、大山町は15センチのままだったのかと感ぜられとる方も実際多いと思います。

それとですね、やっぱり町内に求められる除雪が実際遅いという、感ぜられる方がおられるのもやはり事実だと思います。そしてそのイメージ、除雪が遅いというイメージをやっぱり改善しなきゃならないと思うんです。こういった、ほかはもっと早い段階でゴーサインが出るのに大山町は去年と一緒だったらまた遅いじゃないとか、そういうイメージがついてしまうんじゃないかなと思ってます。業者のオペレーさん、オペレーターさんたちもですね、夜中から業務に当たられているそういう背景をですね、そういう苦勞をされているということを忘れてはならないと思うので、やっぱりこういう皆さんに説明する、できるところの改善、こうは書いてありますけど、実はこうなんですよって言えばわかるのかどうなのかということもちょっと疑問に思うんですけども、この辺の初動体制のあり方、この15センチっていうのは改善もしくは見直しする余地の検討はない、検討の余地はないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

その15センチというのは、もうあくまでも印象の話であって、15センチを例えば10センチにすれば除雪体制がよくなるかといえば、必ずしもそうではないというふうに考えております。現状でも積もり始める前から除雪を開始しております。15センチが見込まれるということで、15センチにならないと出ないわけじゃなくて、もう積もり始めて除雪を始めているという現状もあります。ちょっと詳細が間違っていましたら、また担当課のほうからフォローが入るかもしれませんが、職員が夜中の3時に見回りをして、で、4時には除雪を開始するというのを基本にして除雪をしておりますけれども、

雪の状況によってはですね、その3時に職員が見る、4時に開始するというのは、基本なんですけども、もうその前日の夜から除雪をしているという現状もありますので、臨機応変には対応していて現状の課題が出てきているというふうに考えております。

で、この除雪体制、住民さんから不満に思われる要因としては、やっぱり機械の数あるいはその除雪車を運転できる人の数がまだまだ十分ではないという面もあると思います。県では、その除雪車が運転できる人の育成をしようということで助成制度を設けてやったりまして、大山町もそこに手挙げをして、来年度、新年度やっていこうというふうに考えておりますので、そういうところで体制の強化が図られていくのではないかなというふうに考えております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。今、少し答弁の中にもありましたオペレーターさんの人材不足というのも、やはり当然あると思います。今回の改善・強化策の中で、機械はふえておるんですけども、県のその除雪運転者の育成事業のほうのお話もありましたですね。これは免許取得に係る費用の3分の1を県が助成する県の事業だと思うんですが、大山町が手挙げをしているというお話は実は聞いておりまして、恐らく来年度からスタートされるということだったんですけども、予算のこともありますので、なかなか早く早く手がつけられなかったのかなとも感じますが、機械をこれだけふやしているのに、そのソフトの部分で人材の確保についてちょっと出おくれてるような感じがするんですが、現状、機械をふやしても乗るだけの人数はおられるわけでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。現状の細かいところは担当課、建設課から答えさせますが、機械の数にしましても、その人員の数にしましても、やっぱりあればあっただけいいわけではありますけれども、そのあればあるだけ当然無駄な部分も生じてくる。で、そこをどこにするかという話になりますので、なかなかどこで線引きをするかというのは非常に難しいところではあります。全体としては、やっぱりまだ機械不足あるいは人手不足だというふうには認識をしておりますので、来年度それを強化していきたいというふうに考えております。

詳細は、担当課から答えます。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前満建設課長。

○建設課長（大前 満君） はい。森本議員御指摘の人材についてですけども、今年度、機械を増強3台しておりますけども、それについては、オペレーターの確保ができたということを踏まえて業者のほうと契約をさせていただいております。しかしながら、豪雪時の場合、24時間除雪をしなきゃいけないといったような対応となった場合に、ど

うしても交代要員が必要になります。そういった部分でオペレーター不足というところはあるかと思います。それについて、来年度以降の制度に手を挙げながら対応のほうを考えていきたいと思っております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。やはり気象条件によって、ほぼ休憩なしで除雪されとるというような現状があると思います。やっぱり人員、交代要員がないというところで、やっぱり一人の方がずっと夜中から乗り続けなければ除雪活動に当たられないとか、そういうかなり厳しい現実があると思います。で、今乗っとられるオペレーターさんも、やはりベテランで除雪の技術が高い方というのも、年々お年を重ねていきますと、やっぱり年齢的にも体力的にもその長時間の除雪作業にずっと一人で当たるとするのは、かなり厳しい状態になりつつあるんじゃないかなと思ってます。今そういう大山町の除雪に対して高い技術を持ったオペレーターさんが活躍されとるうちに次の人材育成を行っていかないと、やっぱり急にそういうベテランさんがいなくなったときに、じゃあ、どうしようかな、誰か若い人、免許取って、じゃあ、除雪お願いしますって言ってしまってもですね、なかなかそんなに除雪というのは、機械がしっかりしてても簡単じゃないのかなとも思ったりします。そういった点で、来年度からこういう県の除雪機械運転手育成事業に町も手挙げをして、町としても一緒にこういう免許取得に係る費用の負担を、多分これは間接補助事業になるんですかね、というのをやっていかれるというところでもあります。

これに関係しまして、補助以外に、そういった育成、除雪オペレーターさんの育成、実際に運転技術であるとか、そういう実習が必要になってくるんじゃないかなと思いますけど、そういった訓練、実務に対する訓練に対しての、何ていいますか、講習会とか、そういうのは企画されるお考えというのはありますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。現状ではそういう考えは持っておりませんが、やっぱり実践を通して、ベテランさんたちの技術あるいはこの路面状況はこうだとか、この道はこうだけんこういうふうには除雪するとかいったそのノウハウ的なところは、やっぱり実践を通して学んでもらうのが一番かなというふうに思っております。そういったその除雪の後継者不足みたいなところを生まないように、新年度、鳥取県の助成制度に手を挙げて除雪機械の運転手の育成事業というものをやっていきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。そういった除雪に対して今、人材の不足というところ

ころも、こういった県と連携しながら補助事業を行って、しっかり人材の確保に努めていただきたいと思います。

2点目の自主防災組織や各集落の除雪能力の有無は把握されているかという質問に対してでございます。

昨年度の豪雪時に、機械による除雪を行っていただいた集落に対して依頼料をお支払いしましたとあります。69集落あったということでもあります。ここは、多分除雪をしましたって申請されるので、確実に除雪機械は持ってもらえるのかなというところはわかります。この機械を持っているから除雪をできたのが69集落、それ以外、申請がなかったところは、恐らくそういう除雪能力がなくてできなかったのか、またはもっとほかの事情があったのか、それは想像の範囲でありますけども、この69集落以外、除雪できなかったというような困っていたような現状があるとすれば、やっぱりそこに目を向けていくべきだと思いますし、そのために、やっぱり自主防災組織が立ち上がるとも感じます。

そういった中で、申請したからある、それでいいとかではなくてですね、もう少し除雪能力があるかないか、ここを把握するようなことを計画していかなければ、本当に困ってる集落さんっていうのは助けの手が及ばないんじゃないかなと思いますけども、そこをどうお感じになりますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

基本的に、集落でできる場所は集落でやっていただくというのが一番早くて正確でいいのかなというふうに思いますが、当然できない集落もあることと思います。集落での除雪を基本としながらも、どうしてもできないところというのは行政であったり、あるいは地域自主組織であったり、そういったところとの連携は必要だというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。そういった連携も今後深めていってほしいところでもあります。

この集落に対しての除雪なんですけど、トラクターやホイールローダー、バックホー等、そういう重機を出してくれたオペレーターさんには委託料が支払われておるんですが、そういった機械を持ってなくても、周辺の御近所さんとかで協力して人力で除雪に当たって集落内の道をあけている集落もあると思います。そういったところ、人力によって除雪活動をされているところ、こういうところに対しての支援などの現状はどうなっていますでしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。支援の現状はということで、担当課からお答えをさせていただきます。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 人力で行われた場合の除雪に対しての支援ということで、現在、町のほうでは、今のところ人力に対しての支援というものは持ち合わせておりません。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。現在、人力に対しての支援は行われていないというところであります。大山町の防災計画という資料の中ですね、雪害予防計画、第4節、雪害予防計画の中にですね、国、県道について除雪方法、その中に、人力除雪、機械除雪を行うことが不可能または不適當な区間を必要により人力をもって行うとかっていう文言があるわけですけども、人力で除雪を行うというのはかなり体に負担もかかることでして、なかなか人を助けるためにどれだけの方が動かれるか、それはかなりの方が動かれれば、それは一番理想なんですけども、こういう除雪で助け合うというところに対して、人力除雪、ここも結構潜在的にかなり大きな除雪能力として考えられるんじゃないかなと思ってまして、機械除雪に対しての町からの委託料ですか、そういう補助以外にも、申請の仕方はいろいろ難しいと思いますので、ここでは私からどうとも言えませんが、やはりこういう人力で除雪をして地域で助け合う、そういう人力除雪の活動に対して今後支援を考えていく、または検討する余地はありませんでしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

手元にその計画がないのでなかなか答えにくいですが、その計画、今おっしゃっていただいた範囲で、聞き取った範囲で答えますと、やっぱりその人力除雪をするというところは、機械がもう物理的に行き届かないようなところというような想定で書かれているものかなというふうに思いますので、そんなに大きい広い道を人力でずっとかいていくようなイメージでは書かれてないのかなというふうに思います。人力の除雪については、なかなかその補助の仕方も金銭的な支出もやり方が難しいという面もありますし、その予算面もあろうかと思しますので、現状では難しいのではないのかなというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。現状、難しいということですが、現状は難しいけども、余地はあるという意味合いで受け取っていいのでしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

通告です、その人力除雪についてどうか、それを助成するのはどうかという論点で通告があれば、それなりにこちらで現状を把握し、そして予算がどれぐらいかかるか、あるいはどの集落にどれぐらい人力除雪をしなきゃいけない部分があるのか、そういったところを全部、一般質問までに全部勉強してから向かいますので、何か判断がつくようなこともあろうかと思いますが、現状としては、持ち合わせる資料もデータもありませんので、何とも答えようがないというのが現状でございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい、わかりました。

それでは、3点目の通学路、生活道路の除雪、排雪をどう考えるかというところにつきまして、町道については町で、その他生活道路については住民さんの手でやっているというところでありました。この除雪をやっているのもですね、特に通学路、歩道なんかは、除雪をした雪が寄ってしまって実際歩道が歩けないという箇所がかなりあると思います。そういった場合は歩道を歩かずに、やっぱり車道を歩かなきゃ子供たちも学校に行けないとかというポイントが結構あると思います。除雪をして狭くなっている車道を車と歩行者が歩くと、さらに危ない現状が生まれるわけですが、この除雪をして寄せた雪、この排雪作業に関して現状の取り組みと、また、今後の課題等あれば、お聞かせください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

確かに冬場、雪が積もったときに歩道幅も狭くなって、車が通る車道のほうも道幅が狭くなっています。歩道が歩きにくくて道路のほうを歩かれる方あるいは歩かれる子供さんいると思いますが、その基本的には歩道はきれいにあけていかないといけないし、そういうふうにしておりますが、具体的にここがとか、ここが問題があるというふうに具体的なところをお伝えいただければ、何らかの対応はできるというふうに考えております。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。冬場の雪道の対策とは少し違う点で調査されたのかなとは思いますが、大山町通学路交通安全プログラムというのが大山町通学路交通安全推進会議というもので策定されているようです。この資料だと、町内の中山小学校、名和、大山西、大山小学校にかかわる通学路についての問題点、危険な箇所等が検討さ

れているようです。例えば名和小学校ですと、東坪地内、御来屋地内、歩道幅が狭く歩道もないため、接触事故のおそれがあるという通学路が写真つきで町のホームページのほうから見るることができるんですが、こういったところも、晴れている状態で道路の幅が狭く歩道もない、接触のおそれがあるということが予測されるところに、さらにこの積雪も相まって除雪でさらに歩道も失われ、歩くスペースもなくなるというようなどころがあります。

名和に限らず、中山小学校も、ここは下甲の辺でしょうか、ここもやはり道路幅が狭い上、歩道もなく危険、これも雪がない状態で実際に危険が発生している箇所。大山西小学校でも、大山口駅のほうに向かう踏切の部分ですね、車両との接触事故のおそれがあるほど狭い道で、なおかつ歩道もないといったところで、鉄道を横断する、さらには道路幅も狭い、そして歩道もないといったところがありますので、いろんな条件が重なれば本当に歩くだけでも怖い道路かなというところがあります。やっぱり大山小学校、上のほうになれば雪の量も多いですし、ここは佐摩の集落内でしょうか、道路幅が狭い上、歩道がなく危険、こういったところは現在カラー塗装などで路肩と車道の区別する施工ができていますが、とはいえ歩道がない現実はやはり変わっておりませんので、やっぱりそういう歩道がないところ、上げてみれば結構あるのかなというふうに見させていただきました。

ですので、通学路、なかなか人手が足りないですとか、機械をふやしても、なかなかその朝の通学の時間帯に合わせて全部あけ切れないとは思いますが、その中でも、例えば鉄道を横断、踏切を横断するところ、危ないなあと予想される場所の優先順位をつけてでも、やっぱりこういうところの通学路の除雪、排雪は必要かと考えます。それについてどう思いますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

通学路全般の話になりますと、教育委員会になろうと思いますが、通告がありませんので、こちらで歩道の除雪あるいは歩道設置等に関してお答えをさせていただきます。詳細な話になりますので、建設課から答えさせますので、よろしく願いいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 歩道のない通学路についての除雪についてですけども、毎年のようにPTAを通して要望等もいただいている箇所もございます。そういったところにつきましては、できるだけの拡幅も行いながら歩道の確保も含めた体制をとということで、業者のほうにも指示を行いながら除雪のほうを行っているところでございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。そういったPTAさんのほうからの要望等も取り入れながら、そういう歩道または通学路の除雪に今後も当たっていただきたいと思います。

そして生活道路に関してですけれども、先ほど人力でかいているところは幅が狭くて割と細い道なんじゃないかなというお話の中で、先ほども吉原議員の質問の中にもありました高齢者のごみ出し問題とかっていうところも、やはり家から出ると、ごみ出し場所まで雪が積もっていて、なかなかごみを持っていけないとか、やっぱりそういう生活にかかわるところで車が走らないから困らないとか狭いから余り利用性が低いんじゃないかとか、やっぱりそういうところとは違う話ですね、そこに住まいの方は、そういう歩けない、家から出れないというところにやっぱり苦労されて、結局そのごみが出せなかったとか、そこまでたどり着けなかったとかっていう現実にお困りではないのかなとも思ったりします。

そういった意味で、10月から有償ボランティアさんも活動も行っているというところもありましたけど、そういうのの活用も視野に入れつつ、そういう歩道を歩けない生活に困るような現状を改善する案は今後検討が必要ではないのかなと感じます。それに関してですね、現在そういう歩道とか除雪で固めた雪の排雪場所というのは町内にありますでしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。詳細は、担当課からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 排雪場所ということにつきまして、町のほうとしては、具体的な場所としては持ち合わせておりません。県のほうが今年度対策事業で阿弥陀川沿いに1カ所建設をされておりますけれども、県については、そちらのほうでの対応ということになるかと思います。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。県のところでは阿弥陀川というところでした。

町の町道に関しての排雪の検討はどうでしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。担当課からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 今までに排雪によって雪を持ち出していったという事例は

平成23年にございましたけども、そういった場合につきましては、主に近くの集落、集落の近くの川のほうに持っていかせてもらったということがございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。近くの川に持っていったということですが、川へ排雪したのは業者が行った排雪でしょうか、お聞きします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。担当課からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） 町の指示による業者の排雪でございます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。町道に関しては、その近くの川なりに排雪する作業を業者に委託してやっていたというのが1度あったということでしたけども、23年のときっていえば、かなり雪が降ったときですけども、その積雪でも川に捨てるという作業、排雪、これは現実間に合った作業でしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。担当課からお答えいたします。

○建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。

○議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。

○建設課長（大前 満君） その当時は、その対応でできたと考えております。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。そういったふうに間に合ったというところで考えて仕事をされたようです。そういったところが、除雪能力の有無にも関して排雪が間に合わないとかいった箇所は、たしかことしの1月だったと思うんですけども、消火栓の水を利用して雪を溶かそうとして断水の危険もあったような、そういったことはおやめくださいというような臨時放送があったようにも記憶しておりますが、そういう除雪能力の有無、除雪能力がないのではないかといいところは、積雪によって自分の生活に危険が迫ると、やはりいろんな判断をして行動されるわけです。そういった中で、そういった積雪による二次災害の予想、対策の検討はされておりますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

- 町長（竹口 大紀君） はい。担当課からお答えいたします。
- 建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。
- 議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。
- 建設課長（大前 満君） そういった二次災害の危険ということまでは想定をしておりますけれども、集落のほうから、ここをあけてほしいと言われるところについては町のほうで行った事例もございますので、そういった場合は建設課のほうに御相談いただければ、対応のほうは考えていきたいと思っております。
- 議員（1番 森本 貴之君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。
- 議員（1番 森本 貴之君） はい。そういうあけてほしいところは、建設課で連絡をとれば対応させていただくというのは、多分、去年もことしも多分ずっとあったと思うんですけども、除雪作業のオペレーターさんからすればですね、委託された町道をかいて次のところに行きたい、やはりそれっていうのは、ここもやってくれ、あそこもやってくれ、それを聞いて除雪をしたい気持ちはあるんですけども、それをやっていると、次の集落の除雪がどんどんおくれてしまって、結局除雪作業というものが進まないという現実があるんですけども、その生活道路がどこにあるのかという判断も、やっぱりその除雪を要請されて、じゃあ、ここもかいてくださいって言われたときに、どこまでかくのかというのも実際問題あると思うんですが、それは除雪作業において何か時間的に困ったとかっていう現実があったりしないでしょうか。
- 町長（竹口 大紀君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。
- 町長（竹口 大紀君） はい。現場のことですので、担当課からお答えいたします。
- 建設課長（大前 満君） 議長、建設課長。
- 議長（杉谷 洋一君） 大前建設課長。
- 建設課長（大前 満君） 確かにたくさんのお要望をいただければ、一遍には行けないということもございます。ただ、多少遅くなっても、そういったところについては対応のほうをしていくような体制で、あと、機械につきましても、建設業協議会のほうにも依頼を行いながら対応を行ったところでございます。
- 議員（1番 森本 貴之君） 議長。
- 議長（杉谷 洋一君） 森本議員。
- 議員（1番 森本 貴之君） やはり除雪に対して、時間的に夜中から、また、その夜遅くまでずっと動き続けるとかっていう厳しい作業の中でやっとなるわけです。それに対して、人材の不足、オペレーターの不足というのも課題の一つで、先ほども言われましたように、県の運転手の育成事業に町としても手挙げをして、そういう補助の強化をこれから図っていくというところで、そういう人材不足に対しても来年度からまた違う動きが出てくるんじゃないかなと聞いていて感じました。ぜひそういった、今、除雪作業

における課題、人材不足、これから安心・安全に暮らせるまちづくりには欠かせないところだと感じております。今期の除雪対策も含め、これからの安全、安心・安全に暮らせる町となるように、そういった県との事業の連携も含めまして、これから町をいい方向に進めていただきたいと思います。

最後に、町長に、この除雪対策を含めまして、これから安心して暮らせる町となるよう町長の思いを聞かせていただいて、質問を終わります。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。やっと私の思いが話せる質問が回ってきたなというふう
に思っておりますが、除雪ですね、御指摘のとおり、やっぱりオペレーターさん、業者
さん、それから夜中から出てる職員、このあたりは、もうすごく一生懸命やってると思
います。雪が降り続けたら、ずっと休憩もなしでやっていただいているオペレーターさん
もあたり、それを管理する業者さんがいたりするわけですけども、そういった現実
をですね、なかなか住民さんに伝える機会がないというところで、住民さんの意識と業
者さんの意識、除雪しっかりやってるのに、何でこんなに文句言われたいけんたあとい
うふうに思っちゃるオペレーターさんあたりも多いのかなというふうに思います。
で、やっぱりこの差を埋めるのは情報かなというふうに思います。

職員提案でもありまして、その除雪に関することをもうちょっと住民さんに知っても
らったら、少しは苦情みたいなものも減るんじゃないかというようなアイデアがありま
した。今、大山チャンネルで相談しまして、その除雪24時みたいな番組をつくれな
いか、今、相談をしているところでございまして、夜中、職員が出てきて、雪を確認して
業者が出動するみたいな番組をつくってですね、大山チャンネルで見ただけならば、
住民さんも、ああ、そうか、夜中から頑張るとなるなというふうに思っただけ
のではないのかなというふうに思います。ですので、その除雪体制をつくることはもと
より、もうちょっと情報発信をして、住民さんとのこの理解を近づけていければいいな
というふうに考えております。よろしく申し上げます。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） はい。安心・安全のまちづくりに期待しております。

以上で終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで森本議員の一般質問は終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩に入ります。再開は2時10分とします。

午後1時59分休憩

午後2時09分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

6 番、大杖正彦議員。

○議員（6 番 大杖 正彦君） はい。それでは、6 番、大杖正彦です。通告のとおり 2 つの質問をさせていただきます。

年の瀬が迫りました。役場職員の皆様には、日ごろの町政業務に感謝と敬意を表したいと思います。一般的には、正月を境に心新たに新年のスタートをいたしますが、役場は年度末が 3 月ということです。残り 3 カ月、先ほどの質問には、大雪予想に対する除雪対策、実にタイムリーな質問でありましたが、これからの残りの業務、改善を含めて最後の仕上げをお願いしたいと思います。

さて、本題に入る前にですね、まず、議員と語る会などで聞かれた声を含めてお話しさせていただきます。

こういった声は一部の方かもわかりませんが、まずあるということでも聞いていただきたい。役場を訪ねても、挨拶が少なく、暗い感じがすると、また、職員の対応に温かみを感じられない。言いかえますと、町民の立場に立っていないんじゃないかという声だと思います。役場の職員の仕事ですね、町長や上司のほうに向かってではなくて、町民の立場あるいは町民のためでなければならないと私は思います。これには、職場風土の改革に取り組んで、信頼を取り戻してほしいと思います。

町長は、所信表明で、政策以外の取り組みとして、NPO 法人との契約を初めとする不適切な事務処理問題について、情報公開を徹底し、副町長をトップとする再発防止対策チームを設置して徹底した原因を究明すると答弁されてます。こういう背景をもとにこれから質問に入りますが、議会は、昨年 10 月、新聞報道に端を発生しましたいわゆる NPO 問題を追及し、さまざまな職場体制の不備、職員の法令遵守、規則違反などを指摘いたしました。その結果、委託金返還や、町長、副町長、そして職員の処分にも至ったと聞いてますし、事実そのとおりですが、しかし、その後も公共工事における不適切な事務など、いまだに慣例による規則違反遂行が漫然と行われているのではないですか、そういうふうに映ります。

本年 8 月 24 日でした。本町不適切事務改善委員会報告が出されました。内容については、NPO 法人の業務委託に関する不適切事務の要因と、その改善に向けた内容が中心であり、風通しのよい職場づくりの改善・改革の内容には欠けているんじゃないかと私は見ております。町長は、最近の新聞で、このようにね、役場内の風通しを意識していると取材を受けておられます。これは当然のことで、進めていただきたいんですが、これから取り組むべきポイントは、それに加えて、職場風土の改善・改革も必要ではないかと、私はこう思ってます。このポイントは、議会も執行部も他町村と横並びの意識があってですね、なかなか改善・改革していくのが難しいと思いますが、民間企業では、強いリーダーシップでスピーディーに進められてるのが事実です。このことは、大山町を変えると公約に掲げられた竹口町長の若いリーダーシップに大いに期待するところで

あります。

町長が不適切事務改善委員長としてスタートした取り組みは、残念にも御不幸により副町長不在で停滞はしてはいないか、その取り組みはどう進められているかについて次の3つの点で御質問、質問いたします。1番目、大山町不適切事務改善委員会の取り組みとその成果はどのようになってた、なっているか、2番目、副町長不在後の委員会体制と活動状況はどうなっているか、そして、ここに風通しの意識という取材を受けておられますが、町長が理想とする職場風土とはどういうお考えでいらっしゃるか、以上3つの点で御質問いたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。大杖議員の1つ目の質問、大山町役場の職場風土とコンプライアンスについて3点質問をいただきましたので、お答えをさせていただきます。

まず1つ目、大山町不適切事務改善委員会の取り組みの実績とその成果ですけれども、この委員会は、過去の不祥事案件で再発防止策として講じた対応策の実行状況の確認と再徹底をできてきております。そのほか、コンプライアンス意識を保つためのスローガンの作成であったり、コンプライアンス研修を行ったり、あるいは新たにコンプライアンスに関するチェックノート等の配付をできてきております。

2つ目の副町長不在後の委員会体制と活動実態はということですが、この不適切事務改善委員会は、6月にスタートをしまして、8月24日に最終報告を受けております。ですので、現在は活動はございません。

3つ目の理想とする職場風土ですが、風通しのよい職場というふうに常々申しておりますが、なかなかわかりにくいところもあります。一番仕事をする上で環境として望ましいのは、緊張とリラックスが適度に織りまざった、そういうような職場ではないのかなというふうに思っております。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 実に簡単な答弁でして、もう少し具体的な内容もお話しただけかと期待しておりましたが、前向きな姿勢はどういうものであるかについて追加の追及の質問をしていきたいと思っております。

私が見ておりますに、あるいはほかの役場の方の意見なり声を聞きますと、役所ってというのはどこでもそうらしいんですが、各課の縦割りの職務体制が強いと見られてます。これは、町長は、町議を1期、そして町長になられてまだ6カ月そこそこですが、こういった体制についてどういうふうに見ておられますか、お聞かせください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

行政組織というのが縦割りじゃないかというお話ですけども、一般論としては、行政組織は縦割りになりやすいというのはあろうかと思えます。これはですね、民間の組織に比べまして担当が余りにもきっちり決められ過ぎている、あるいは法令の、にのっとった仕事をしなければならぬ、こういったようなことが作用して恐らく縦割りのになりやすいのだと思えますが、必ずしも行政組織が縦割りである必要もなく、それをいかに柔軟な組織にしていくかというのが組織の力を最大限引き出す鍵だというふうに考えております。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 先日ですね、先ほどの不適切事務改善委員会の報告がなされたときに、5つの心の道しるべというスローガンですか、出されまして、全部私、今話しませんが、その最初に、以前のことはこれでよかったということで、もう忘れるべきだと、捨てることというふうに書いてありましたね。しかし、その中でも幹部の方の答弁に、過去の慣例に従ってるというふうな答弁もありました。NPO問題はですね、先日、NHKのニュースでも朝晩報じられた公共工事の不適切事務、いわゆる報告書の改ざんなどですが、による国庫補助の返還などはですね、各個の、各課の英知を吸い上げて横断的な連携があれば防げた事案だと私は思います。

午前中の西山議員との答弁の中に、町長の答弁の中に、事案を未然に防ぐ仕組みが必要だというふうにお答えになってますね。私としては、職場風土の改善・改革には、お互いに指摘し合い、各課を横断してですね、ある場合は褒め合い助け合う職場風土の醸成が求められると思いますが、その横のつながりという職場風土については、横のつながりに伴う励まし合い、指摘し合い、そういうことについてどう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

昨年度発生しましたNPOの問題、それから昨年度の道路の工事で起きた不適切事務の問題、そのいずれも私、当時おりませんでしたので、どういう組織体制だったか、あるいはどういう風土だったかというのは感じ取ることができませんけれども、やっぱり縦割り意識というのは大山町の役場の中でも強いようには感じております。その組織体制の見直しで行うのか、あるいは何かコミュニケーションを意図的にとるような仕組みを入れるのか、どういう手法が効果的なのか、今後研究しながら取り入れていきたいなというふうに思っておりますが、いずれにしても、横のつながりというのはしっかりしていくべきだというふうに考えております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。横のつながりの件につきましてはですね、各課の、

これからどういう形で進められていくか、毎月、幹部会というのが開かれるというふうに聞いておりますが、その中で、お互いの情報交換、いいことはいいことでされたいと思いますが、知られては困るようなこともあります。で、これを困らずに、こういう問題があるんだけどと自然に遠慮なくそういうことが公開といいますかね、情報公開で発表できるような雰囲気が私、必要だと思うんですね。それについてですね、それには、職員になられたときから職場に対する、あるいは職員としての知識といいますかね、業務知識も含めて、社員、職員教育というのが非常に重要になってくると思います。

先週、先ほど申しました町長の新聞報道で聞いておりました職場の風通しを意識するという、非常にいいことだと評価いたします。一方ですね、業績を伸ばしてる企業ではですね、厳しい入社試験に合格、入社した後の社員教育や、社員教育を徹底してやっています。研修だけではありません、テストもやっていると、そのように聞いております。本町の職員の皆さんも難関の公務員試験を合格された優秀な方ばかりです。しかし、有能な能力を正しく効果的に発揮するためには十分な職員教育が必要だと思っております。通常の業務研修に加えてですね、地方自治法、職場の規定、業務規則など、守るべき規則も多いです。これらに一度に覚えられるものではなく、日々という、日々はあれですけど、年々変わっていく制度もあります。こうしたことを踏まえてですね、職員の皆さんの認識を高めていくために、これは最終的には職場、役場全体をよくしようという意識の向上のためにもですね、毎年定期的な研修が行われているということをきょう1番の西山議員の質問にも、研修をしている、県指導の研修に出席しているということを聞いておりますが、それだけではなく、それに対しての簡単に言えばテストをしてですね、どこまで把握皆さんがされてるかということを実施してはどうかと思いますが、それについてはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

職員研修ということですが、特に新人の職員研修、新規採用職員の研修のお話をいただきました。私としましてもですね、新規採用職員に対する研修というのが、行政組織はそんなもんなのかもしれないですが、大山町役場としてはやっぱり少ないのかなというふうに思っておりますので、何らかの対応策を考えていきたいというふうに思っております。

それから、管理職会議の話も出ましたが、以前に比べまして、私の感覚ですが、管理職会議で発言がふえているのではないのかなというふうに思っております。就任当初の管理職会議では、主にいろいろ報告だったり、情報交換だったりみたいな部分が多数を占めておまして、そういったことは今の時代メールでも電子的にできるわけで、そういう省けるものは会議から全て省いて、今は、本当に管理職会で協議をしなければいけない課題についてさまざま意見を出してもらってるところです。半年、今8カ月近く

たちますけれども、その8カ月前から比べますと、非常に発言もふえてきておりまして、それは、その管理職会議の運営の仕方というよりは、日ごろのコミュニケーションだったり、それがそうさせているのかなというふうに思いますので、今後も風通しのいい職場になるように努めていきたいというふうに考えております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 先ほど私は、ちょっといろんなことを話し過ぎましたので、質問のポイントがずれたかもわかりませんが、私のお尋ねしていることは、新規採用した方の職員の方の研修は当然だし、それに伴って、終わった後のテスト、それから、定期的とは言いませんけど、昇進とか幹部になられるとかそういった際でのですね、その上級幹部に対する心構えとか、そういったものの内容のもちろんテストの内容の設問は変わってきます。そういった知見を、定期的とか言いませんけど、事あるごとに行うことについて町長の考えはいかがでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

テストをして、その職員の能力をはかる、あるいはこの職位を決めていくという考え方もあろうかと思いますが、なかなか試験ではかれるものというのは限られているというふうに思っております。それ以外に大切なこととして、例えばコミュニケーション能力であったり、対人関係の能力であったり、そういったものというのはなかなか試験でははかれないような部分もあります。そういったものほど上級の職位になれば必要とされることだというふうに考えておりますので、現状では、テストで職員の能力をはかるということは考えておりません。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） そうですね、時間がかかったり、余分な能力を強いられたりすることは考えられますが、そういったものをテキストとしておいて、配付して、期限を指定、決めてですね、回答を求めるとか、幾らかの考えられる方策があると思いますので、ぜひ前向きに考えていただきたいんですが、現状そのテスト等含めて、幹部会議の中で協議する内容、横並び、横並びじゃなくて、横の風通しをよくするための対策といいますか、議題の作り方について一考を要したいと思いますが、町長は、その方策、何かいいプランをお持ちじゃないですか、あれば聞かせてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

管理職会議での話というのは、課を横断するような、あるいは全部の課に関係するよ

うな管理職で話し合わなければいけない課題等を話しておりますが、そのことによって横のつながりが確かにできてくるのかもしれませんが、なかなか会議だけで横のつながりができるというのは難しいかなというふうに思っております。縦割りにならないためにも就任以降やってきておりますのは、例えば何か政策的な課題あるいは町政において課題があったときに、それに詳しい職員をもう課を指定せずにですね、詳しい職員を集めて、その課題について話し合っ解決策を見出していくというようなプロジェクトチームのようなものをつくって、何回かプロジェクトチームつくってやってきておりますが、そういう取り組みをすると、縦割りの弊害が少なくなるのかなというふうに思っております。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。私が心配している以上に竹口町長は、職場内の風通しのよさ、あるいはその職場風土の改善に向かってですね、少しずついろいろなことを通じて進められてることを聞きまして、少し期待をしておりますので、これからもその手綱を緩めることなく、どんだんリーダーシップを発揮していただきたいことを願って、次の質問に移ります。

大山、2番目の質問ですが、大山開山1300年祭とその観光施策についてお尋ねします。

町長のもう一つの選挙公約であります町民一体となった開山1300年祭の成功をうたっております。そしてこの春、米子で行われました大山開山1300年祭の実行委員会総会でですね、の挨拶がされてます。この取り組みは、一過性に終わらせてはならないと、これからの、ということで、これからの観光振興に強い意思を示された言葉だと思います。県主導で1市3町が協力して取り組む、ほかの自治体もありますが、開山1300年祭実行委員会は、いろいろなイベントを催し、企画、実行しております。これは1月20日付の新聞ですが、タイミングよく町長の、副町長の人事の下にですね、神おわす山ということで、これは実行委員会が山陰ビデオシステムに委託したPR動画ですが、全国200団体の出展した動画、映画の中で、最終これ幾つになった、15作品選ばれて、その中の優秀賞に選ばれたというふうに出しております。

こうしてですね、ほかの面でもいろんな施策で注目を浴びておりますが、周辺ではこうした活発な取り組みが展開されているんですが、本町内の盛り上がりがいま一つじゃないかということが議員と語る会においても言われております。何が行われてどうなっているのか、私たちにはわからないという声です。つまり本町の、地元である本町のリーダーシップが見られないという声ということです。先日、これは余談になりますが、議会の視察研修先の長野県野沢温泉スキー場では、この2年間で、ずっと減少してた集客、入り込み客がですね、10万人ふえたと、この2年間で10万人です。その増加した入り込み客数の半数以上が外国人という報告がありました。こうして、その1300

年祭の観光施策について重要なのは、外国人を取り入れるインバウンド施策だと思います。

これについては、山陰インバウンド機構が積極的に取り組みを企画、実行していますが、ここに新聞の切り抜きを持っておりますが、環境庁もですね、国立公園の担当の環境庁も、景観の維持やトイレの施設の整備だけではなく、インバウンド、外国人のお客さんにもっと日本を知ってもらおうという取り組みを開始して、体験ツアーなどを企画して始めてます。その中に、農漁村体験ツアーというものも期待されてるアンケートも入ってるそうです。こういったふうにですね、今、山陰地方や県、そして大山の魅力などがインターネットやSNSを通じて発信されており、実際にこの地方に外国人観光客が目に見えてふえております。

こういった状況を鑑み、次の2点、お伺いたします。1つ目、大山開山1300年実行委員会で言われた一過性に終わらせないため、町長はどのような考えでおられますか。2番目、インバウンド対策について、山陰インバウンドや県との連携、そして本町独自の考え、そして施策について伺いたしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。大杖議員の2問目の質問にお答えをいたします。

大山開山1300年祭と大山の観光施策について2点御質問をいただいております。

まず、1点目の実行委員会で挨拶された一過性で終わらせないため町長はどのように考えているかとの御質問ですけれども、一過性のイベントで終わらせないための施策としては、やはり地域内の消費をふやす取り組みを積極的に進めていくことだというふうに考えております。イベント頼みの観光では長続きしないというのはもう目に見えたことですので、この1300年祭というのは、一つのきっかけとして大山を訪れていただく機会をつくって、そこからやはりリピーターにどれぐらいつなげていけるかというのが大事だというふうに考えております。具体的にはですね、地域内の消費をふやす取り組みとして、やはり商業の強化、それからツアーメニューの充実などが上げられると思いますが、そのほかにも、地域内消費をふやすような取り組みに力を入れていきたいというふうに考えております。

それから、2つ目のインバウンド対策について、山陰インバウンド機構や県との連携、本町独自の考え、施策についてということですが、これインバウンドに限らずですけれども、集客やPRというのは、広域連携をして、広域で取り組んでいくほうが効果的だというふうに考えております。ですので、そういう位置づけの中で、大山町としては、広域連携の中ではPR、集客をしていくけれども、町独自の取り組みとしては、やはり、先ほどの質問の答えに戻りますが、地域内の消費をふやすような取り組みをいかに進めるかということだというふうに考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。配付された答弁書より簡潔な答弁でありましたので、もう少しその具体的な点に触れて質問を追加したいと思います。

これは先ほどの質問にも答え、つながることですが、先ほど目的として、地域の、地域内での消費、ツアー、それにはツアー商品の充実ということでお伺いしましたけども、国史跡指定や日本遺産の指定を受けた大山寺地域に限らず、大山町の中には里部のほうにも古い史跡や伝統行事が多い。歴史的な、特に歴史的なことが興味のある外国人がふえる可能性が大きいので、この外国人に対応したメニューは、事、大山寺地区に限らず里部にもあるというふうに考えますが、この辺は町として、これは教育委員会のほうの力をかりることにもなるとは思います、どのように捉えておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

町内には、大山寺周辺のみならず、観光資源というのはたくさんあるというふうに思っております。しかしながらですね、それが観光客向けに磨かれているかといえば、必ずしもそうではありません。さらに、そのインバウンド対応で外国人観光客向けに整備がされているかといえば、ほとんどのところでそうではないというのが現状だというふうに思っております。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。里部にも史跡も多く、そういった興味ある伝統行事もあるということは共通した認識ではありますが、今、外国人に限らず観光客に対応した受け皿といいますかね、そういうことがまだ充実してないということですが、私が求めたいこと、答弁は、それに対して、こういうことをしたら、こういう地域のこういうことをしたら、見ていただく外国人を含め、観光客の方に喜ばれるんじゃないかというプランっていうのですか、ユニークなアイデアをお聞きしたんですが、これは当然町長に細かいところまでプランを言えと言っても急には無理だと思いますが、それはそれぞれ担当されてる各課でいろんな意見が出てくるとは思います、町長、今、現時点では、大山町の地内で育った町長ですから自分ではどう思っておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

最初の答弁に戻るような話になるかもしれませんが、大山町の課題としましては、その観光客にいかに来ていただくかというところは、現状では、十分とまではいかないにしろ、かなりの数来ていただいているというような感覚です。課題としてはですね、観光

客に来ていただくのではなく、その来ていただいた観光客にいかにお山町内で消費をしていただくか、そこが一番の課題だというふうに考えておりますので、そういう対策に力を入れていきたいというふうに思っております。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） はい。まさにそのとおり、私も考えは同じです。PR、いろいろ紹介して観光客は確かにもうふえております、外国人も含めて。しかしながら、町内、大山寺を含めて、どう過ごしていただいて、泊まっていたら、ものを、食事をしていただく、土産を買っていただく、そういったお金を落とさせていただく内容に乏しいというのは認めることですが、これは一過性で終わらすのはここがポイントとなるんです、ポイントだと思います。というのは、来てもらいました、次にもう一回来ていただくためにどういうことが考えられるかということなんですね、突き詰めると。そういったことで、今まだ山陰地方、特に大山は、名前は多少あるかもしれませんが、その中身について、どういうところかということについては十分知られてないのが現実だと思います。

そういった意味で、先ほど紹介しました、新聞にも出てました山陰ビデオシステムの動画だとか、それからアマゾンラテルナは、大山チャンネルで地元住民参加型番組制作などで町民の皆様から番組の内容に非常に好評な評判を受けております。それにプラスしてね、SNSでも、アマゾンラテルナが制作したドローンを使っての動画で、空から見た大山ということで、山だけではなくて、海のほうまで、私も見ましたが、非常に感銘を受けております、つくり方、その大山のすばらしさを、大山町全体のすばらしさを見せるという意味で。

そういった意味で、非常に評価が高い。プラスですね、これは11月の新聞ですが、大山町の代表ということでしょうか、東京でフォーラムが開かれ、ここに出席した人は、主催したのは日本財団です。ソーシャルイノベーションフォーラムという場所で東京で開かれた際に、分科会で、鳥取県の平井知事、それから鳥銀のふるさと振興本部調査役の齋藤さん、そしてアマゾンラテルナの貝本さんが、人口最小県からの挑戦をテーマに意見交換をされて、パネリストとして話されてます。このことは、全てを含めてアマゾンラテルナ、イコール大山チャンネルが町外でも大きな評価を得ている証拠だと思います。さらに、こうした評価の高い部署をですね、番組制作だけに限らず、最近のそういった活動をさらに利用してといいますか、当然委託する場合には新たな契約も必要かわかりませんが、そういった能力を利用してといいますか、期待して観光振興の、観光客の呼び込みに貢献する目的でですね、予算の予算化とか観光振興に活用する考えはあるかどうか、お聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

繰り返しになりますけれども、集客PRというところを伸ばしても、大山の観光産業全体あるいは地域の経済としては底上げするには限界があるというふうに考えております。そうではなくて、いかに観光客の方に消費をしていただくかの部分を強化しないとですね、ずっとざるで水をすくってるようなもので、紅葉がきれいだからドライブをして、大山きれいだったね、伯耆町で食事をして帰ろうとか、大山きれいだったな、米子に泊まろうとか、大山きれいだったな、日吉津で買い物して帰ろう、それじゃあ観光としては全く効果がないわけで、何でそういうふうに消費が大山町以外に流れるかといえば、大山町内に魅力のある消費ができる場所がないからというところに尽きると思います。ここを強化せずに集客をするというのは、また最初の話に戻りますが、底の、底のあいた容器で水をすくうのと一緒で、入れても入れてもですね、たまっていかない状態ですので、それを改善するために、いかに地域の中で消費をしてもらうかというのが大山町の観光産業全体を盛り上げるポイントだというふうに考えておりますので、集客に力を入れる時間的余裕あるいは予算的な余裕があれば、そうではなくて、商業の強化に使っていきたいというふうに考えております。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） これは私の個人的な考えになりますけれども、今、情報発信、PRをしてたくさんのお客様に来てもらう、来てもらったはいいが、地元でそれを消化する、いわゆるお金を落としていただく施設なり場所なり商品がないという町長のお考えで、確かにそのとおりですが、地元にいるそれぞれ各そういうことに携わっている人たちにとっては、まだ来て、来そうだなという考えはあって、実際に来てあふれて困ったなという状態じゃないです。地元からしてみると、これだけ来るんなら何かやらなくちゃいけないという考えにまだ、考えがまだ熟成してない段階なんです。これは、やはりそのためには、もっと来てもらってもいい余裕は、余裕というか、PRをたくさんしていく価値はまだまだ残ってるということです。これはちょっと今後、町として、あるいは町だけじゃなくて地域全体で、山陰地区全体で考えることでありますけれども、細かなことを言いますと、カード決済だとか中国のあのキャッシュレスでのカードとか、いろんな外国人対応のことがありますけれども、その前に、地元の人たちが、こういうものを買ってほしい、ここに泊まってみてほしい、こういうものを買ってほしいとかいうものが、まだまだそういう考えが熟成してないのは確かです。

例えばですね、これもまた集客のほうのあれになりますけれども、先々週ですか、山陰インバウンド機構が米子で開催いたしました、こちらの議員の方も何名か出席されましたけれども、大阪ミナミの挑戦ということで講演がされまして、その千田氏という方は、この大阪の商店街の組合長であったり、いろんな場所で活躍して大学の先生にもなっている方ですが、インバウンドの対策の重要としては、地方の活性化というふう

に言ってます。地方の活性化というのは、来たから活性化するじゃなくて、来てるお客さんに喜んでもらうことをするには何かということ、その何かすることが活性化なんです。それでお金が落ちればプラスアルファなんで、だからそういうその観点に立っていらっしゃるということで話されたと思うんですが、まだまだ日本では行政側の情報発信がまだまだ不十分だと言っておられます。そしてこれにはトイレとかいろんな外国人対応の施設でも不十分なところがあると。これからのことについてやらなくちゃいけない課題は多いと思いますが、今、町長が言われたように、広域単位で働きかけ、取り組みをするのが重要だということは、私もそれには同意しますし、全く同感です。

そこでですね、こういった考えもあるんじゃないかと思いますが、有名なのは「ゲゲゲの鬼太郎」の境港の鬼太郎ロードですか、それから北栄町のコナン、これは外国人の方にかなり評判で、もうそれ目的のメニューも組んでおられます。そこにいかに大山が加わるか。1つには、地蔵信仰というこの前、紙芝居もありましたし、そういったヒストリーを、探偵物とは一緒になりませんが、アニメという形で同じようなメニューと並べてタイアップするようなことも考えられます。こういったことをですね、私は先ほど言いました町長の、若い町長の持つてくるユニークなアイデア等に期待しております。この北栄町のコナンのことと大山地蔵信仰のストーリーとタイアップするような考えも含めて、町長の何か新鮮な、あっと思われるようなアイデアをお持ちでしたらお聞かせ願いたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。お答えします。

これもまた繰り返しになりますが、この大杖議員御提案のお話、あるいはその答弁を求められたことに関するところは、やはり集客PR、人を寄せるためにはどうしたらいいかという話だと思います。私が考えているのは、そこよりも、いかに消費をふやした、ふやすほうが政策的には効果があるかというところでお答えをさせていただいておりますが、ちょっとですね……（「議員のものじゃなかったですか」と呼ぶ者あり）議員のこれはパネルで。（パネルの提示あり）例えばなんですけれども、大山、今、年間に130万人ぐらい観光客の方が来られてるといふふうに言われてます。で、そのうちの、ちょっとこれも全然適当な数字ですけど、1%ぐらいのお客さんが宿泊して下さってるかなと。その平均単価が7,000円ぐらいかなというふうにした場合にですね、暗算がぱっとできませんけども、130万人の1%、1万3,000人の掛ける7,000円ですので、大体9,100万ですか、ぐらいの経済効果があるというときにですね、ここの130万人をふやすよりも、こっちの7,000円あるいはこの1%をふやすほうが効果が高いというのが、もうこれ経営のセオリーだと思いますが、例えばこの単価が7,000円が8,000円になったときに、効果としては1万3,000人の1,000円プラスなので130万円ぐらいですかね、プラス。あっ、違いますね、1,300万円ぐらいプラ

スになるわけですがけれども、同じくこっちをふやして、130万人の集客のほうをふやして1,300万ぐらいプラスしようと思ったら、大体20万人ぐらいふやさないといけないということになります。20万人集客をふやすのと、この例えば設備投資をするなり、サービスを改善するなりで、その宿泊単価あるいはその消費する1人当たりの単価をふやすほうが効果は高いというのが私の考えです。

観光も同じで、集客に力を入れるよりも、こっちのいかにお客さんに消費してもらえるか、あるいはいかにお客さんに泊まってもらえるか、食べてもらえるか、こういうところに力を入れていくほうが費用対効果は高いというふうに考えておりますので、集客ではなくて、そっちの商業の強化等に力を入れていきたいなというふうに考えております。以上です。

○議員（6番 大杖 正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） パネルを利用してわかりやすい数字を出していただいて、これが一般質問と答弁の一つの新しい絡みであり、取り組みだと思しますので、これからも積極的にわかりやすい答弁を、あんまり簡潔過ぎないようによろしくお願いします。

今の説明で確かに理解できます。ただし、最近ですね、インバウンドも含めて非常に安価に滞在する、そのかわり長くいるということもなっています。その単価を上げることに、プラスいかにステイしてもらう対策が必要かということになりますので、その辺は多少その考え方に余裕といいますか、幅を持たせて取り組んでいただきたいんですが、これはもちろん観光商工課なり、企画情報課なり、教育委員会も含まれると思いますが、その幅広く受け入れるために単価に限らずお客さんがステイしてもらう対策について一考してもらいたいと思いますが、その辺についてどう思われますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

これも観光の基本みたいなところなんですけれども、まずは宿泊していただくことで滞在時間を延ばして消費全体をふやしてもらうという考え方があります。現在、大山町内で宿泊のキャパシティあるいは今の宿泊客のニーズに合った施設があるかないかというところを考えますと、必ずしもニーズを満たした施設というのは少ないというふうに思っております。こういったところはまず強化していかないといけないと思います。その手法はさまざまあるかと思いますが、そういったところの強化をすることで、それ以外の消費もふえていくというふうに考えております。宿泊でいきなり設備投資ということになると、なかなか金額もハードルも高いところがありますので、当然それ以外の部分でもできるところからはしていく。飲食、物販あたりでの消費も伸ばしていけるといいますし、新たに例えばツアーメニューの充実という話も最初にさせてもらいましたけれども、新たな価値を生み出すような商品というのも提供していく必要があろうか

というふうに思います。

旅行客の満足度というのは、やっぱりお金をいかに使ったかみたいなのところもあると思います。お金を節約したいのに旅行に行く人は余りなくて、お金を使いたいから旅行に行くようなものかなというふうに思います。人気の観光地というのは、必ずその食事、宿泊、それから買い物ができる場所などがやっぱりセットになっておりますし、大手のツアー会社がやるようなツアーの内容にも、必ず食べる、泊まる、あるいはどっかで買い物をする、そういうところは基本的にはパックになっているのかなというふうに思います。大山町内での消費をふやしていくというのは、大山町内の経済が潤うことにもつながりますし、あわせまして旅行者の満足度の向上にもつながるというふうに考えております。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖議員。

○議員（6番 大杖 正彦君） 今回、来年1300年祭を、開山1300年を迎えるに当たり、町長の力強い対策あるいは考え方について聞かせていただきましたので、これからの大山町の発展、そして来年の1300年が成功に終わるよう祈って、質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖さん、質問。

○議員（6番 大杖 正彦君） ああ、質問で終わります。町長のほうから今の、来年の成功に向かっての強い決意をもう一度聞かせていただいて、終わりたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 来年、大山開山1300年祭迎えるわけですがけれども、大山のみならず、周辺の自治体あるいは県などにも非常に力を入れてもらってやっております。一番中心になります大山町がしっかり頑張って盛り上げていきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議員（6番 大杖 正彦君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで大杖議員の一般質問を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩に入ります。再開は3時15分といたします。

午後3時02分休憩

午後3時14分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

次に、4番、加藤紀之議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） それでは、町長にですけれども、人口減少に対するにはと題しまして質問をいたします。

就任以来、矢継ぎ早に通学費の半額助成であったり、保育料の一部無償化であったり

といった子育て支援策を導入し、人口減少を食いとめたいという町長の思いは、住民にも伝わっていると思います。しかし、金銭的な補助という意味での政策は、他の自治体が同様の政策を講じてしまえば、本町の特異性というか、優位性は薄れてしまいます、埋もれてしまいます。また、それに伴い新たな補助を導入するにしても、同じことが繰り返される懸念もあります。そうすればイタチごっこになって、競合の自治体、本町にとってもですけれども、財政負担がふえるのみというおそれもあります。

そこで、以下の点について質問したいと思います。1番、政府により保育料無償化が検討されていますが、もし実現した場合には、さきに述べたような状況になり得ます。さきに述べた状況というのは、全国の自治体が保育料無償化というようなことになってしまいますので、本町で実施している今の状況が余り有利な状況ではないという状況のことですけれども、もし実現した場合には、その際には新たな子育て支援策を導入するお考えなのかというのがまず1点目。

それから、2点目ですけれども、金銭面での補助ではなく、住みたくなる・住み続けたいとなる環境整備こそが他の自治体との差別化には有効だと考えますけれども、どのようにお考えでしょうか。以上、2点です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 加藤議員の人口減少に対するにはという質問にお答えをしたいと思います。

私の政策を進める上で、こういう疑問というのは住民さんからすごく出るだろうなということが予想されておりまして、しかしながら聞かれないとこちらもしゃべれないので、すごくいい質問をしていただいたなというふうに思っております。

まず1つ目の、政府により保育料の無償化が検討されていますが、もし実現した場合には、さきに述べたような状況になります。その際には新たな子育て支援策を導入する考えかという御質問ですが、現状では国がどのような財政負担を求めてきて実現するかというところまで示されておりません。今、県も保育料無償化の補助制度を入れておりますし、国、県の制度改正の内容を見ながら、その時点で判断をしていきたいと思っております。予想になりますけれども、国が完全に無償化をしても、自治体負担というのは残るといふふうに私は考えておりますので、その予算的なところを考えながら検討をしていきたいというふうに思っております。

それから、2つ目の金銭面での補助ではなく、住みたくなる・住み続けたいとなる環境整備こそ他の自治体との差別化には有効と考えるがということですが、移住定住という切り口の施策ではもうまさにそのとおりだといふふうに思っております。環境整備をすることで移住定住がふえるというのは考えられますが、子育て支援策、金銭面での補助というのは、移住定住という側面もあれば、出生率の向上という面もあります。子育て支援策というのは、ほかの自治体がやっしまえば移住定住策にはなり得ないん

ですが、これを一步先にやることで、同じ予算を使って副次的な効果があるということで、子育て支援策に力を入れております。繰り返しになりますが、人口減少に対する施策としての子育て支援策は、移住定住と出生率の向上と、2つの側面があるということで御理解をいただければと思います。以上で答弁とさせていただきます。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） 今、直前にいただいた答弁書とは若干違う内容だったなと思って今焦っていますけども、それでは1番目の点ですけれども、今回たまたま政府が保育料の無償化の話を出してきたので、こうやってわかりやすく出しましたけども、それに限らないんですけども、例えばですけど、今、米子市が中心にあって大山町があります。じゃあ同じような環境で伯耆町があります、日吉津村がありますみたいな、そういう近隣の自治体が今、本町で先駆けてやっている政策をまねした場合ですね、本町と伯耆町や日吉津村との、何というんですかね、違う地域に住んでいる人たちから見たときに、移住しようかなとか、新しく家を建てるに当たってここを選ぼうかなとか、そういうときに比べる要素の一つではなくなっちゃいますよね。そういったときに、もしそういう状況に周辺の自治体になってきたと、そういう場合には新たに考えていかれるんでしょうかという意味の質問なので、最初に答弁をいただいた今の国、県の改正内容を見ながら検討してまいりたいというのとはちょっと違うんだと思うんですよね、という部分いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

保育料の無償化については、国の方針、制度の内容が決まってから、大山町としてどれぐらいの負担が残るのかということも見ながら、じゃあ新たな政策が打てる打てない、打てるんだったらどれぐらいの予算でできるということを判断して、やるかやらないかを決めていきたいということです。その保育料無償化以外の政策に関しても、ほかの自治体がやれば埋もれてしまって、じゃあ移住先を考えたときに、大山町も米子市も同じぐらいの子育て施策をやってる。じゃあ、まあどっちでもいいかなということにはなるかと思いますが、もう一回繰り返しになりますが、子育て支援策というのはほかの自治体に先駆けてやる、あるいはほかの自治体やってないことをやれば、移住定住という施策の面のプラスもありますが、人口減少、少子高齢化というのは、社会増減ばかりじゃなくて出生率の低下、特に鳥取県内、鳥取県出生率高い方だと言われておりますが、その中でも大山町は出生率が低い地域ですので、出生率を高めるにはどうしたらいいかというのは、やっぱり子育て世代の負担軽減を図っていくというのが一つの手ではないのかなというふうに考えております。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） おっしゃるように、移住定住の側面と出生率の向上、その2点の側面があると思いますけれども、現実に関東地方なんかでもね、保育料無償化を独自の自治体としてやっておられるところもあるんですけども、余り出生率の向上にはつながっていないのが現状だと思うんですよね。変な話ですけども、生まれてきた環境、生まれてきた子供たちを育てる環境の負担を自治体がすることで出生率の向上につながっているのかどうかというのが、効果としてですよ、ちゃんとした効果としてまだ出てきてないわけですよ。それをずっと続けていくのがいいのか、それとも見方としては、出生率の向上よりも結婚しない若者が多いということが問題だと思っておられる方もたくさんおられるんだと思うんですよ。そこら辺のバランスというのはいかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

出生率が低下するというのはさまざまな理由が考えられますが、今、加藤議員御指摘の、例えば晩婚化だったり、未婚化率の上昇、これもやっぱり出生率の低下に影響があるというふうに思います。それから、二、三十年前に比べて出生率が低下している理由で大きく言われるのが、やはり核家族化が進んでいること、それから共働き家庭がふえていること、そして非正規雇用がふえていること、これらのことが上げられます。これは何を意味しているかという、世帯所得が低くなっているというのが考えられます。

子供を産み育てるのに、一番お金がかかるのを想像すると、大学に入れるのに物すごくお金がかかると。学校に行かせるのにお金がかかる。保育園、小学校もさまざまお金がかかってくるということを考えたときに、今いろいろデータもありますので、子供1人当たり成人させるまでに幾らお金がかかるかみたいな大体統計も出ておりますけれども、それを見たときに、負担がなければもう一人、二人子供欲しいけど、とても無理だなというような家庭が多いというのが現状の認識です。移住定住もそうなんですけれども、移住定住策とあわせてその出生率をいかに向上させるかというのが、今とるべき人口減少対策、少子高齢化対策なのかなというふうに考えております。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） お気持ちはよくわかります。私も同じような気持ちは持っておりますけれどもですね、結局何というんだらうな、制度を導入したからといって成果があらわれてない現実も、この長い、もう10年ぐらい前からこういう子育て支援策とかってというのは全国的にやられているんだと思うんですけども、でも実際成果があらわれてない側面もあるんだと思うんですよ。そうすると、どこまでやればじゃあ出生率の向上につながるのかというのが見えないんですよ。

そんな中で、例えば吉原議員なんかが質問されましたけれどもね、子育て支援策だけじゃなくて高齢者への配慮の政策はとか、そこら辺のバランスがそのうち保てなくなるんじゃないのかなという心配をするんですよね、無尽蔵に子育て支援策なんかを行っていけばですよ。そういう、何というんだらう、ビジョンというか、住民さんにとってこのぐらいまでは政策として行うけども、そこから先になるとちょっと難しいなとか、そういう思いというのはあるでしょうかね。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

ちょっと今、手元に資料がありませんのではっきりとお答えできませんが、全国の自治体では保育料無償化、給食費無償化、高校生の通学費の助成や、あるいは大学進学に関して給付型奨学金を設けるだとか、そういう施策で出生率向上して人口増加に転じているという事例は幾つかあります。そういうふうには思い切ったことができる自治体というのは数限られていると思いますが、大山町でもこの先、財政的にはどんどん厳しくなることが予想されますが、厳しくなってから手を打とうと思ってもなかなかできないと思いますので、今限りある予算の中で手を打てるうちに打っておきたいというのが現状です。

効果が見えないという話もありますけれども、大山町は今年度から子育て支援を強化してやっていっておりますので、なかなか1年、2年でぱっと目に見えた効果が出ないのかと思いますが、この先、中・長期的に見て効果が出るものだというふうに私は思っております。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） 誤解なきように。私は本町で効果が見えないと言っているわけではなくて、全国的には効果が見られない事例が多いという、そういう意味でございまして、誤解だけはされないようにとお願いしておきます。

何だったっけあれは、国、内閣府か政府がちょっとわかりませんが、がRESASですかいね、何か地方のデータとかを統計で見れるシステムがありますよね。あれで見ると、出生率というのは通勤時間に比例して、通勤時間が要するに短いほど高いものなんだそうですけども、それ考えてみると、大山町って割と通勤時間短く仕事に行ける職場が米子市だったりする関係上、出生率高くてもいいんじゃないのかなと思うんですけども、高くないですよ、周辺の自治体に比べて。そこら辺の原因はどのようにお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

RE S A Sで現状の分析を私自身がやっているわけではありませんので、なかなかばしっとした答えが出ないかもしれませんが、確かに通勤時間と出生率の関係というのは全国的にも言われていることです。しかしながら、要因というのはいろいろありますので、出生率が向上しない要因の一つとして、その通勤時間のことはあろうかと思いますが、必ずしも通勤時間のことを解消すれば出生率が向上するかどうかというのは、未知数だというふうに思っております。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） そこもちょっと誤解かなと。私の説明が悪いんでしょうけども、同じような通勤時間帯の町村と比べても、やっぱりにぎわいもちょっと何か活気もないですよ。それから実際出生率も低いですよ。そういう原因というのは分析は、分析というか思いでもいいですけど、考えたことってないですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 出生率に関しては、先ほどから述べているとおりで、やっぱり子育て世代の負担軽減をすることで出生率は伸びるというふうに考えております。通勤時間が同じような時間である周辺自治体に比べて大山町は活気がないんじゃないかというお話でしたけれども、ここは通勤時間というよりも、大山町の場合は先ほどの観光の話にもちょっと関係してきますが、地域内での消費が伸びないというのが一番のその経済的な課題だと思います。例えば、大山町の人仕事をしに町外に行くのはいいとしても、買い物、食事なんかを町外で全部行ってしまえば、大山町ほとんど経済的には動きがない町になってしまいますんで、通勤時間のこともあろうかと思いますが、それ以上に町内の消費をどうやって伸ばしていくかというのが、町内の活気につながっていくものだというふうに考えております。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） そうしましたら、1点目と2点目と分けてしまったんですけども、実は私の中では関連があって、住みたくなる、住み続けたくなる環境整備ですけれども、大山町内って中山から仮に米子まで通勤するにしても、今、山陰道も開通してますんで30分ちょっとあれば通勤ができてしまう、そういう非常にいい環境にあるのは間違いないんだと私は思っているんですけども、某不動産屋さんにお話を伺ったときに、新しく子育て世代の人たちが家を購入したい、家を建てたいという、そういうときにやっぱり選ばれる要素というか、まず通勤時間が短いこと。それから、その通勤時間が短い、さらに住んでるところから近いところで、ある程度の買い物ができたりとかという、御飯が食べれたりとかいう、そういう環境の部分、それからやっぱり子供がおられる世帯というのは、子供を遊ばせる大きな公園とかがあるというのが望ましい。仁王堂公園なんかを見ていただければよくわかると思います。ああいう、ちょっと我々

から見れば不便かなというようなところでも、町外から平日でもやってこられますよね。そういうことが望まれるんだと思うんです。そういった環境整備というのはいかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

環境整備といっても、今、御指摘いただいたとおりいろいろあるわけですが、その最低条件としては、生活便利施設というのがキーワードとして上げられるのかなというふうに考えております。私自身が米子高専の専攻科に在籍して研究をしていた内容が、大山町内においても集落ごと、大山町全体としては人口が減っているんですが、大山町の集落ごとに人口推移を昭和50年代ぐらいから見ると、ふえている集落と減っている集落があるんですね。そのふえている集落は何でふえているか、減っている集落は何で減っているかというのを調査研究していくと、いろいろ要素はあっても、やっぱり町内の各集落においても、町内に移住あるいは定住される場合に、より生活便利施設に近いところが選ばれるという傾向にあります。

その生活便利施設は何かというと、この辺でいったら役場だったり、銀行だったり、病院だったり、駅だったり、スーパーだったり、そういったものがある地域の周辺というのは人口がふえやすいというような傾向があります。先ほどの不動産屋さんの話と関連するんだと思いますが、そういう生活便利施設みたいなものが点在をしていると、なかなかエリアとしては魅力が出ないですし、土地の売買も行われなければ地価も上がりませんので、よりそういった施設をいかに集約してそういう人が住んでくれるエリアを形成していくかという、その土地利用の計画みたいなものもしっかり詰めて考えていかなければいけないかなというふうに思っています。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） まさにコンパクトシティーの考え方なんだろうなと思うんですけれども、ちょっと具体的なお話にもうちょっとさせてもらいたいなと思います。今、中山インターの周辺、それから名和インターの周辺、それから大山インターの周辺が主に町として新しく若い世代に住んでいただきたい地域だというふうに認識しておりますが、それは間違いないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 現状として、その政策的に誘導しているというのは具体的にはないんですけれども、現状を見ますとやはり各インター周辺に人が集まっているような現状はあるのかなというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（４番 加藤 紀之君） 政策的にも、前町長の政策になりますけども、あったはずですよ、ありましたね、はい。中山インターは、これから道路が９号線まで延びていく、そういう変化のある地域です。それから大山インターのあたりは、最近では民間での開発、住宅地の開発が進んだりとか、それからコンビニエンスストアができたりとか、そういった変化がある。この中山と大山というのは変化のある地域です。名和というのは、もう随分整備も進んでしまって余り変化の見られないところなので、ちょっと名和を重点的に話をさせてもらおうかなと思うんですけども、大変名和インターのいい場所に公社、恵みの里公社が道の駅を管理しておられますが、視点によっては、これを違う施設に、もしくは一部にコンビニエンスストアとか、今の若い世代が望む施設を入れるような考えというのはお持ちじゃないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

道の駅にコンビニエンスストアなど求められるものをということですけども、現状では考えておりませんが、理由としまして、今、大山恵みの里の道の駅にお客さんに来ていただいてお買い物をしていただいているというのは、やっぱり大山独自の商品にこだわって取りそろえているからというのが一つのポイントかなというふうに思います。そこに、どこにでもあるようなコンビニができたときに、確かに地域の人の利便性というのは高まると思いますけれども、そこにお店ができたときに、お客さんの中心というのはやっぱり通過交通の方がほとんどだと思いますので、そういった方向けのお店になってしまうと思いますが、そういった方向けにコンビニエンスストアというのは果たして必要かなというところは、今なかなか要るとも要らないとも言えないですが、現状の感覚としてはなくてもいいのかなというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（４番 加藤 紀之君） 私、今回このような質問をさせてもらいましたけれども、昨今高速道路を通っても、必ずといっていいほどサービスエリアにはコンビニエンスストアがついていたりとか、道の駅なんかにコンビニエンスストアがこの辺でも大分入ってますよね。今の大山恵みの里の道の駅、販売施設は販売施設であればいいと思います。ところが、あの事務所の使い方に話が戻るんかもしれないんですけど、あそこが事務所じゃなきゃいけないのかなと。わかる人にはわかると思いますけど、南側にある場所ですね、もともと国が使ってたプレハブの事務所みたいなもんですけども、ああいったところに一時議論がありました。例えば、ガソリンスタンドがどうかとか、私はコンビニエンスストアがいいんじゃないのかなと。それはなぜかという、やっぱり通過するお客さんにとっても便利だし、それからやっぱり住んでいる人にとっても便利なんですよ。名和のあのあたりを新たな住宅地にどんどんしていくためには、やっぱり必要じゃないのかなと。名和地区のコンビニエンスストアの場所に対する不満というの

はたくさんある、お聞きになられてると思いますけれども、そういった意味ではコンビニエンスストアの中には、ちょっと社名は言いませんけども、随分集客のできるコンビニエンスストアチェーンもあります。そういったものもちょっと検討していただけたらなと思って、今回お話をさせていただきました。いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

確かに恵みの里公社が道の駅の位置にあるというのは、事務所機能があそこにあるというのは、何か土地の利活用の面で見ても何かちょっと無駄なような気はしますが、そこにじゃあかわりに何かが入るといふふうに決まっていれば、恵みの里公社の事務所を動かしたりという必要も出てくるのかなと思いますが、現状として何かそこに具体的につくるというような考えがありませんので、現状としてはあれでいいかなというふうに思います。コンビニエンスストアを誘致したらどうかという話ですけれども、恵みの里公社でやればいいじゃないかという話になるかもしれませんが、行政としてはなかなか商業みたいなものを独自でやっていくというのは難しい現状があります。やっぱり既存のスーパーだったり商店さんだったり、いろいろ影響を受けるところがあるのに、行政が商売を積極的にやると民業の圧迫みたいなことになりますので、誰かがやられるというような話があって、その土地を利用して何かやりたいというような提案があれば、その提案内容によっては考えてみてもいいのかもしれませんが、以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） 行政がやれと言っているわけじゃないんで、あくまで貸してもらえるかどうかとか、そういう可能性がないとその話も持ってきようがないのでという話だと思ってください。

それからもう一個、名和インターの周辺で、先般、池田議員の一般質問で、名和総合運動公園というか、農業者トレーニングセンターのあその陸上競技場ですね、の公認の話がありました。私は、そこに多額のお金をかけても正直、移住者を呼び込むこともできない、子育て世代にとってのメリットも余りないと思ってます。そこにお金をかけるのであれば、先ほどお話ししました公園の充実を図ってほしいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

答える前に、先ほどの一個前の質問でちょっと答え忘れなんですけれども、道の駅の土地というのは、町の土地じゃない、国、国交省が持っている部分もあって、恵みの里公社の本部が入っている、あのプレハブの建物の土地だけだったと思いますが、そこ以

外は周りの駐車場は国交省の持ち物だったりしますので、貸し借りの話になったときには町との話というよりは国交省になりますので、ハードルは上がってくるのかなというふうには思っております。

それから、今の質問ですけれども、いろいろなものに予算を振り分けていきます。全ての予算を移住定住、全ての予算を出生率向上とかっていうことには当然使えないわけですし、町としてやっぱり必要な社会体育施設であったり、そのほかの公共施設であったり、これはやっぱり維持管理をしていく必要があると思います。それは移住定住とはまた別の観点で使う予算ですので、そこをやめて移住定住にお金を使うということではなくて、社会体育施設は社会体育施設、あるいは公共施設は公共施設で維持管理をしていくのが妥当ではないかなと思いますし、その長期的な計画に関しましては、今、表現が悪いですけど、すごく場当たりの大きな修繕が出た、さあどうしようというような管理の仕方をずっとしてきておまして、もっと長期的な計画に沿って、この施設はもう何年後には必要なくなるよねとか、この施設は何年たっても更新しなきゃいけないよねとか、その何年後に幾らぐらいお金がかかるから、じゃあ毎年これぐらい積み立てとかないといけないよねというような計画がなくて、これをなるべく早急につくって計画的な管理はしていきたいなというふうに考えております。以上です。

○議員（４番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（４番 加藤 紀之君） 何というんですかね、その予算全体で考えると乱暴な話になっちゃうんですけど、公認申請まで本当に必要なんでしょうかなというのは、あのとき多くの住民さんも感じられたことでしょうし、議員も感じたという話は私、内輪の話として、議員同士の話として聞いてます。総合運動公園として考えたときに、本当に充実させるべきなのは移住定住に限るからそういう見方になっちゃいますけど、そうじゃなくて運動公園、公園として見るときに、本当に重点的にお金をかけるべきところは余りニーズのない公認なのかなというのが、ちょっとそのとき思ったことです。

今回、環境整備の話を見せてもらいましたが、ほかにもデマンドバスであったりとか、インターネットの環境であったりとか、こういったものは、これ簡易版ですけども、大山町未来づくり10年プラン、大山町の総合計画の中にも書かれていますよね。そういったことをもちろん必要だと思います。必要だと思うんです。先般、定例記者会見か何かのときに、竹口町長、慶応義塾大学とSFC研究所ですか、との連携協定か何かの後にインタビューを受けておられて、総合計画も見直さなきゃいけないみたいな口ぶりだったんですよね。まだ総合計画は28年度からですから、まだ2年目なんですよ。見直さなきゃいけないですか。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

総合計画も含めてですけれども、大山町、大山町以外でもですけれども、行政とい

うのはたくさん計画をつくっていますが、その計画の整合性あるいはその連動性というのが必ずしもとれていないというのが現状です。計画のための計画だったらそれでいいんですけど、やっぱり計画をつくって実行していくためには、総合計画を柱として、さまざまな計画が動いているような状態にしないといけないというのが基本だと思います。総合計画というのは、やっぱり民意に基づいて計画され、あるいは実行されていくものだというふうに考えておりますが、10年という区切りですと、例えば首長の任期が4年だとすると、首長の任期という節目に一番民意を一番新しい、最新の民意といいますかね、ちょっと表現が難しいんですけど、新しい最新の民意を注ぎ込むためには、その計画を全部変えるとかじゃないですよ。内容を見直して、そのバージョンアップみたいなことをしていかないといけないというふうに考えております。全国的には、首長任期の4年あるいはその倍数の8年とか、12年に合わせて総合計画をつくっているような自治体もありますので、そういうような見直しは必要なのではないかなというような趣旨の発言です。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） ちょっと今回、あのかの時の見直す、断言的な発言だったので、ちょっと機会があったので聞かせてもらいましたけども、それはね、確かに10年なんて一昔みたいな言葉もあります、あるぐらいですから、10年ずうっとこれが有効なものだとは私も思ってませんけども、まだ2年しかたってません。我々もかんかんがくがくあって議決した計画でございます。ちょっと、もうちょっと考えていただきたいなと。考えていただきたいなというのは、発言を考えていただきたいなということです。

それからですね、もう一個、人口減少をとめるんだというのが町長の根本的な思いだと思います。だけれども、私は人口減少はとまらないんだと思っています。それから、この総合計画をつくるに当たっての基本的な、基礎的な勉強の場でも、人口減少はとまらないんだと。とまらないからどうするんだということを考えていこうというのが、この計画をつくるときの大事な部分だったと思います。

そこで、いざ住民はとまらないんだという思いでつくった。でも、とまらないけどもどうすればいいかという思いでつくった。ところが、今、町長はとめるんだという思いでやっておられる。そこの相違点いかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

相違点といいますか、人口減少していくというのは現実としてあるわけで、それを見越して5年先、10年先どうしていくかというのは、これはもう計画の意味のあるところだというふうに思っておりますし、だから人口減って、仕方ないなということでは

なくて、いかにその人口減少をとめるかというのは、並行して行われるべきものかなというふうに思っています。人口が減っていくのに合わせて計画をつくる、あるいは減っていくからしようがないよねという発想は、行政的な、お役所的な視点としてはもうごもっともだと思いますが、やっぱり民間の視点といいますか、大体、会社経営しているような人とかは、下がるからどうしようかじゃなくて、じゃそれをいかに上げようかみたいな発想でさまざま取り組んでいくというのが民間の発想かなというふうに思いますので、両建てで考えてやっていきたいというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） ちょっと難しいかなというのがね、何ていうんだろうな、確かにね、一経営者であればもちろん夢を大きく持たんといかんで、その夢に向かって突っ走ること大事だし、信念を持つことも大事なんです。だけど、行政というのは民間ではないので、現実から目を背けるといのはやっぱりおかしなことで、町長の思いが、とめたいんだという思いであることは構いません。だけど、とまらないんだという現実も認めないといかんと話をして今されたんだと思うんですけど、多分、住民さんの中には、とまるんだって誤解されている方もたくさんおられるんですよ。これは実際、滋賀県の研修所なんかでデータとしていただいた資料なんかにもあるんですけども、割と大きな自治体というのは、半数以上の住民さんが、自分の住んでる地域は相も変わらずこのままの人口のまま、20年後、30年後を迎えるんだというふうに誤解をされている例がたくさんあるんだという話をされたんですけど、そういった正しいビジョンを持たないと、リーダーというのがですよ、逆に間違った方向に町が向かっていくんじゃないかと心配するんですけど、いかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

繰り返しになりますが、人口減少が減っていくという現状は十分に認識しておりますし、それに対応して5年後、10年後どうしていったらいいかというのはしっかり考えておりますが、それとは別として、人口減少をいかにとめるかという政策もやっぱりやっていかないとですね、減っていくからもうそれに合わせてやっていけばいいんだというのは、これすごく楽な話でいいんですけども、そうではなくて、やっぱり住民の人も、そんなに人口が減っててもう寂れた町にこの先住みたいかといえば、必ずしもそうではない。昔みたいなにぎわいのある町にしたいとか、お盆にね、人がいっぱい帰ってきますけど、ああいうような状態が常にできるような、そういう町にしたいなというふうに思っている住民さんというのは多いと思いますので、両建てで、決して現実を誤認しているわけではなくて、減っていくのに対応したこともやっていくけど、人口減少対策はやっていくという考えで御理解いただければと思います。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） もちろんそういうつもりでやっておられるのはわかるんですけど、僕らにはわかって、聞こえのいいフレーズを聞いておられる住民さんの中には、やり方によってはとまるんだなというふうに誤解をされる方もおられるんだと思うんですよ。だけど、減っていく現実に対してそれは手を打つというのは、精いっぱい手を打つというのは必要だと思います。でも、町長が、リーダーが声高に人口減少はとめれるんだというふうに言っちゃうことは、果たしていいことなのかなというふうに私は思うんですけど、いかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 人口減少はとめれるんだということを殊さらアピールしているつもりはありませんけれども、その人口減少をとめるための施策はしっかり打っていきたいというふうに考えております。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） もう一個、最後の質問になります。そのための施策を打つのは、もちろん我々も同じ気持ちでございます。ただし、やっぱりね、正しい情報というのは出していく必要があるんだと思います。

ある統計によれば、2100年には日本の人口は5,000万人を切るんだというふうな話もございます。そういった情報はやっぱり必要なんだと思うんですよね。だからこそコンパクトシティとか、そういったものが求められているわけで、そうでなければそんなこと考える必要ないですよね。考えなくても勝手にお店はできていきますし、なくなっていくものもあるでしょうけども、できていくものもあるでしょうし、地域はそのままほうっておけば維持できるんですよ。でも、そうじゃないから今一生懸命やっている、そういう認識ですよ。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

統計でいくと、2100年、人口5,000万人切るというのは、鳥取県選出の石破茂代議士が地方創生担当大臣だったことから言っている話で、それはその石破茂代議士も同じことを言っていますけれども、何もしない今の状態がずっと続けば2100年に5,000万人になるから、じゃあ何かしようよねということで地方創生の取り組みなんかも始まってきています。人口が減っていくことを見越して計画は立てるんだけど、何か手を打ってこの人口減少が緩やか、あるいは早い段階で上昇に転じるような施策を打つということは、どの自治体もやっていかなければいけないことだというふうに思っています。以上です。

○議員（４番 加藤 紀之君） 最後と言ったけど、時間があるんで。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（４番 加藤 紀之君） どうしてもやっぱりここで相入れないところがあるんだと思うんですよ。僕はどんな手を打っても人口減少はとまらないと思っているので、リーダーがどうにかすれば人口減少は、まあ緩やかにはなりますよ、それは。緩やかにはなるけど、上昇に転じるんだというのとね、減っていくんだけど緩やかにすることが目的だというのと、上げることが目的だというのは全然違うんだと思うんですよ。それは当然政策打っていくときにも随分な違いとしてあらわれてくると思うんです。ましてや住民さんの気持ちの面にもあらわれると思います。それはさっきも言ったように、ああ、じゃあの方に任せておけば大山町の人口は維持できる、もしくはそのうち微増に転じるという、我々は何もせんでもいいかもしれんって思っちゃう可能性もあるじゃないですか。本当は住民さんにもこの先どんどん減っていくんだけど、なるべく緩やかにしましょうよ。お店も減らさんようにしましょうよ、だから一緒に頑張りましょうよってやっていくことが、この総合計画の大まかな考え方だと思っているんですけど、私は。違うでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

人口減少をとめるためには、やっぱり行政任せにしているもとまらないというふうに思っています。全国的には、地方創生の取り組み、あるいはもう10年、20年前から、その地域独自の取り組みをしているところで、既に人口増加に転じている自治体というのがもう幾つも出始めてきています。これは取り組みの差だというふうに思っています。住民さんと手をとり合って総合計画のようなことをやっていくというのはもうごもっともで、人口減少対策あるいはいろいろな施策を打っていきませんが、それはただ行政がやればいいというのではなくて、大山町民一丸となってこの人口減少をとめるんだというような意識が出てくるように、施策をやっていきたいというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（４番 加藤 紀之君） 現状でね、ごく一部の地域で人口増加に転じているような地域があるというのは、近場にもありますよ、日吉津村みたいなのが。日吉津村みたいなのもありますけど、それは何でかという、環境に恵まれているからですよ。この先どンドンどンドン日本全体の人口が減っていくのに、ごく一部でふえとるけんって、それがどこでもまねできるかという、違うんだと思うんですけど、そこら辺を読み違えるとやっぱり間違った政策とか間違った町になっていくんじゃないかなと私は危惧するんですけど、その辺いかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 今、例として日吉津村を挙げられました。ベッドタウンみたいなところは、以前から地方創生の取り組みなくして全国的に人口がふえている地域はありますが、そうではなくて、今の日本全国で行われている地方創生の取り組み、地域活性化の取り組みをもうちょっとよく研究をしていただきたいと思うんですが、例えば離島とか中山間地域とか、こんなところに人住むのかなというようなところでも人口増加に転じている自治体もあるんで、そのさまざま要因はあろうかと思いますが、手のうち方によっては人口減少はとまる、上昇に転じるという事例が、1個、2個ではなくて、全国的にたくさん出てきておりますので、大山町も何らか手を打ってやっていくべきではないかという考えです。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） おっしゃることは、お気持ちもよくわかりますし、おっしゃることも確かにあるのは事実だと思っておりますが、もともとパイの少ない地域でちょっとふえた、そういう地域が何カ所か、全国で何百カ所あったとしても、大都市がどんどんどんどん減って行って日本全体が減っていつているのに、それが結局ね、変な話ですけど、今、一時的にふえているかもしれないよ。でもね、全体の、国全体のレベルで下がっていつてる、そういう流れの中で、その地域だけがずうっと上昇に転じられる、もしくは維持していけるかということ、それはまた話が別だと思っておりますけど、そこら辺、逆に僕がお願いしたい。10年、20年のスパンじゃないんですよ。やっぱりこの地域に生きていく人たちは、代をかえながら100年、200年と続いていくはずだと思っているし、そうあってほしいと思っています。そうなったときに、やっぱり大きなくくりで見ないと、ちょっとのちっちゃい地域の話をしてみたって仕方がないんじゃないのかなと私は思っているんですけども、そういったところを逆にお互いに切磋琢磨していきたいと思うんですが、いかがお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

加藤議員の御指摘は、出生率の向上の面と移住定住策という、両面をまぜながら人口減少問題に対して課題提起をしていただいているので、この2つをごちゃまぜにして議論すると、当然かみ合わない話になると思います。移住定住の面で見れば、近隣の自治体、ふえる自治体があれば、当然減る自治体があります。日本全体として人口が減っているのは、出生率が低下しているからです。何で出生率が低下しているかということ、先ほどから答弁させていただいている要因、プラスアルファ、東京の一極集中、都市部の一極集中という問題があります。これを都市部に一極集中させないように地方が頑張って人口を外に出さないようにする取り組みをすることで、東京の出生率がふえる、地方も出生率が高まるというような状況が起きてきて、全体としてはパイが広がるという考

えができます。移住定住の面だけで見ると当然奪い合いになって、ふえる地域があれば減る地域が出てくるんですが、そうではなくて、都市部の一極集中を地方に戻すということで出生率全体も上げていこうというのが国全体の施策だと思いますので、大山町もその施策に沿ってやっていきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） かみ合わないんでいいです、終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで加藤紀之議員の一般質問は終わります。

○議長（杉谷 洋一君） ここで休憩いたします。再開は4時15分といたします。

午後4時04分休憩

午後4時15分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

次に、7番、米本隆記議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 7番の米本です。本日、最後の質問者となります。

町長、県下、全国でも若い町長と何事にも注目度が高いようです。はきはきした答弁で、質問時間も短くなっています。よいことです。見ている方にもわかりやすいと思います。本来、きょうは2問ですけれども、本当は合わせて1問とすればよかったのですが、議会広報の都合もありまして2問に分けました。関連することを言うかもしれませんが、お許し願いたいと思います。

町長就任からまだ1年もたっていません。本格的な予算編成も初めて取り組まれます。どのような行政運営をされるのか、もう少し見届けたいとは思いますが、一言聞いていただきたいので今回の質問になりました。

それでは1問目、めり張りのついた予算編成は、について質問します。

初めて予算編成に当たり、いろいろと特色を持った町づくりを考えられていると思います。町長は、就任から、公約であった子育て施策に取り組んでこられました。そのほか何点かの公約もありました。無駄や、終わってもいい事業を精査するなど、いろいろとありました。町の特色を出すために、そのほか始めたい施策はありますか。今までの継続している事業をどうしますか。しかし、6月定例会の一般質問でも言いましたが、限られた予算になっております。どう予算化しますか。町長の考えをお聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 米本議員のめり張りのついた予算編成はとの御質問にお答えいたします。

まず、特色を出す、そのほかの始めたい施策はあるかとの御質問ですけれども、公約に掲げたものを順次展開をしてまいりたいというふうに考えております。それから、今

までの継続している事業をどうしますかという御質問がありましたが、今もう既に終わっておりますけれども、事務事業評価あるいは今後の予算編成段階で見直しが必要なのは見直していきたいというふうに考えております。

それから、予算は限られています。どう予算化しますかという御質問がありましたが、限られた予算の中で政策を決めていく、事業を決めていくというのは基本ですけれども、ここもですね、その予算が限られているからどうしようではなくて、いかに自主財源をふやしていくかというのも一つの課題だと思いますので、どうやってその自主財源をふやしていくかなども考えながら、限られた予算の中で政策を打ってきたいというふうに思っております。以上で答弁とさせていただきます。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） ありがとうございます。実は、町長、さっきも公約のことを言いましたけども、実はいろいろと中に入って、その中にいろいろなこういうことがやりたい、やりたいということがありました。ただ、それは一遍にどんとできる問題ではないと思います。やはりさっきも言われていた、順次それを考えていくと言われます。ただ、今、本年度、29年度から子育て施策にどんと始められました。ということになりますと、順次ということになりますと、これはこれ、なら次こういったものはどういうふうに取り組んでいくかということをやっぴり考えられないといけないと思いますけども、5本でしたか、柱があったと思います。そのうちの次は何をされるお考えでしょうか。あっ、4つだったか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

5本の柱のうちの何をしていくかということですが、それぞれ満遍なく順次できるものからやってきておりますので、特にその順番というものはありません。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 順次、順番はいろいろとあるんですけど、その中でやりたいことがあるのでそれをやっているということのようですけども、ただ、それが今年度、29年度でいきますと、我々もそうなんですけど、町民の皆さんもそうだと思います。子育て施策というのは、きちっと予算化を考えられて、どんとどんとどんとつけて実行してこられましたけども、じゃあそのほかのことについて今年度はどうだったかなと思いますと、さっき、今、順次と言われました、やっていくと言われましたけど、私は次年度につながる新しい施策は何かということをお聞きしたいと、施策といいますか、ものは何かということが聞きたいんです。やはりそれは、一つは、町長が約束されたことをやはり一步一步何事も前進させなければいけませんけど、それがすぐにできるもの、

時間をかけて考えるもの、それからちょっと考えればできるもの、いろいろあると思うんです。それを30年度に向けてどういうふうな考え方を持たれるかということをお聞きしたいんです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今年度やってきたのは、子育て施策だけではございません。そのほかの施策も満遍なくやってきております。農林水産業の強化だったり、商工業の強化だったりやってきておりますし、目につきやすい、見えやすい、取り上げられやすいところは確かに子育て施策かもしれません。竹口は若いけん、ああ、子育て施策をやるんだなど、そういうイメージを持たれている方というのはいまだに多いのかなというふうに思いますが、現実を見ていただくと、子育て支援策以外の政策もやってきておりますので、来年度も変わらず満遍なく施策は展開していきたいというふうに考えております。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 満遍なくいろんな施策をやるということはわかります。

ただ、こう言って町長に大変失礼かも知れませんが、私が聞いた中ではですね、この事業はもう大体終わったから、この事業は何といいますかね、精査してやめてもいいでないかという事業もあるというようなことを言っておられました。で、今、事業精査をされておるということをお聞きしますけども、その中で、そういつて今、事業が、完遂じゃないですけど、ある程度一定の成果があって、じゃあ来年度はこの辺を縮小しようとか、そういった考え方を持たれるということがあるのかないのか。やはり何かをしようとするれば何かをやっぱり削減するということは必要になってくると思います。そういったところを町長はどのような考え方で持っておられるか、お聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

多数ある事業の中で説明していくのが難しいですが、最初の答弁で申し上げましたとおり、事務事業評価で既に見直しの作業も終わっております。それから、まだ私の査定段階に入っておりませんが、来年度の予算の査定の際にも見直すものが出てこようかと思えます。そういう事務事業評価であったり予算編成のプロセスを経て、そういったところは見直していきたいなというふうに考えております。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 私ちょっと話題を変えて聞きたいんですが、実は私、この前、10日の日曜日ですね、ちょっと私用で米子のほうに出るときに車の中を走

ってしまして、しっちゃんいけないことですけど、テレビをつけておりました、その中を見ていましたら、急に町長が出てきまして、大山町の海に来てくださいということを大々的に言われておりました。これは何か、15秒CMだったのでしょうか、何かで聞いたことがあるんですけども、そういうふうに、大山町の海に来てくださいというようなことをやっぱり全体的に公表されるということは、やはり何かそこで持たれないけないというふうに思うんですが、そういった企画、呼び込む施策とかいうのを、やはり言う限りは、やっぱりそういったことをやっていく必要があると思うんです。それについては町長、どうでしょうか。私はやはりそこに、大山に来てください、海に来てくださいと言うのであれば、何かないといけません。そしてまた、その場所が町長の地元の海岸が出ていたように思いましたので、お聞かせ願いたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

そのCMは、日本財団さんがやられています海と日本プロジェクトということで、県内でも、琴浦町長ですとか、岩美前町長さんですとか、それから境港市長、こういったあたりが同じようなCMに出ています。内容としては、地元の海をPRしてくださいと、そういう内容で好きなことをしゃべってくださいというようなことですので、私のみならず、ほかの首長の方も同じような内容でCMをしゃべっているものというふうに考えております。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） ああ、そういったCMだったんですか。実はね、私これを見ておましてね、やはり新しい施策にこれは取り入れられる考えがあるのかなというふうに思いましたので、ちょっとお話ししたいと思うんですが、実は議員の中でもよく話が出るんですが、大山町は海から山までとよく言われます。山でのレジャーは登山、ハイキング、夏場ですね、冬はスキーなどありますが、海はどうでしょうか。少し前になるんですけども、みんなで楽しんでいました海水浴場もありました。それは町長も小学校のころ、そういう時代に行かれたというふうに思います。

今、町内ではサーフィンをする人が数カ所で楽しんでおられますけども、子供から大人までが楽しんでいるわけではありません。どうでしょう、海から山までである大山町です。ちょっと今、日本財団のことを聞きましたけども、ちょっと話がずれるかもわかりません。海水浴の復活というのは、そういったことは考えられるお考えはありませんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

大山町の海を生かしてということですが、これ観光の話と同じようなことになるとは思います。集客する要素を今の大山町でつくっても、経済的な効果が出ないというのが現状です。確かに海水浴場をつくれれば人は来るかもしれませんが、海水浴場のその周辺に消費をしていただくような場所がなければ、ただの負担がふえる、コストがふえるというだけになりかねません。ですので、確かに海側、大山町は海も豊かですので、海側をもうちょっと観光客あるいは地元の人にでも楽しんでもらえるように整備をしていくという考え方は間違っていないと思いますが、今、喫緊の課題としてやっていく優先度としては低いというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 今、町長はそれを観光資源としてお客さんを呼ぶというお考え方に立って言うておられました。私は違うんですよ。町民が海で遊ぶ、そういった視点では必要でないかということをおっしゃって、それはそこにお客さんが来られるのは本当にいいかもしれません。消費もふえるかもしれません。消費がふえるためにお客さんも来にゃいけませんけど、まずは町民の皆さんが本当に海と戯れて遊べる場所があるのかということです。皆さん、プールで遊んで、近くに海があるのに本当にそれでいいんでしょうか。私はそういったところがこの大山町に不足しているんじゃないかなというふうに考えております。その辺についてはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

ちょっと法律的なところがどうか、例えば余り詳しくありませんが、大山町の海、夏場に見ますと、結構人が遊んでいる、泳いだり、水辺で水遊びしてたりするような光景をよく見かけます。これ以上にどのような整備が必要かというのを具体的におっしゃっていただければ、また何か議論の余地もあるのかなというふうに思います。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 町長が言われるというのはよくわかります。町長が見ておられるのは、多分ですよ、西坪の海岸の砂浜、それから下坪の先のほうの、あそこは下坪の小坪の港があるあたり、それから木料の海岸、この3つを思い浮かべておられると思います。この町内には遠浅といいますか、ちょっと砂地があるのはこの3カ所ぐらいしかありませんので、多分そのことを言うておられると思います。私はそういった砂浜があっけきと遊べる場所がある。子供たちも安心して水につかてできるというのであれば、やはりどっかにそういった施設じゃないですけど、やっぱりそういった場所があってもいいと思います。

私が申しているのは、下木料の海岸のことを申したいんですが、あそこには何と申しますか、砂浜の沖のほうに砂が逃げないようなブロックもつけてありまして、きちっと

砂地といいますか、ついております。ですからあそこはいろいろと水質の問題をクリアとかしなければいけないかもわかりませんが、復活はできるんでないかなというふうに考えております。その辺についてはどうでしょう。やはりこれは調査も必要です。そういったお考えはありますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

その海水浴場の整備というのが、何を目的とするかだと思います。海水浴場を整備すると、当然町内の人限定みたいな使い方はできないわけで、地元の人々の生活あるいは日常にプラスになるような整備というのは、なかなか難しいのかなというふうに思います。海水浴場を整備すれば、当然町外からも海水浴客が来ますし、それに向けた整備をするというのは、やってできないことはないのかなと思いますが、それをつくって果たしてじゃあどれぐらい経済的な効果があるのかということをしっかき考えていかないと、新たな負担がふえるだけということになりかねませんので、もう一度観光の話に戻りませうけれども、大山町としては集客の面ではなくて、もうちょっと消費の面を考えていかないといけないというふうに思っています。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 私がなぜこういった質問をするかといいますと、予算編成の中で特色を町長はいろいろと出しているというふうに思っておりますので、やはり大山町で何が必要かなというところを考えたときに、そういった面、やはり観光面、私が思うんですけど、観光の面、それから産業の面、それから文化の面と考えたときに、やはり私は観光と産業に力はしっかり入れないけんと思っております。ですけど、めり張りをつけたということになってきますと、文化的な学校教育、幼児教育、子供たちの子育て施策にはしっかりめり張りをつけておられます。しかし、観光、産業についてはなかなかそういったところがない。ですから私は一つの提案として、こういった事業はどうですかということを言っておるわけで、その中で観光の中で、じゃあこれをやるけども、こちらはちょっと抑えようかということはあるかと思っております。そういった面での質問ですので、理解していただきたいと思っております。

今、町長はいろいろと、波及効果とかいろいろと言われます。そういうことであるならば、もう一個提案させてもらいます。例えば、これは参考になればと思うんですけど、先ほど大杖議員のほうからちょっと一般質問もあったんですが、大山町の何といいますか、観光の中で収益性を上げるには、先ほど言われました。例として130万人が年間来られます、1%が泊まって7,000円の消費ということがあります。そういったことで、やっぱりその1%をどうふやすかということ考えたときに、大山町の中にはいろいろとあると思うんです。実際に大山町で1泊の人をふやそうと思うと、やはり何か

大山町に泊まる要素がなければいけません。そうすると、夜の行事になるんですが、イカ釣りとか、アゴすくいとかアゴ漁、それから朝の定置網の水揚げの現場の見学、いろいろとそういったことを考えられるんですよ。やっぱりこれは両方とも近く、町内に滞在しなければ、なかなかできにくい体験だというふうに思います。これに関してまだ、これは水産業で言うておりますけども、農業のほうでもそうですね。地どれのものをとれる体験もあるかと思えます。そしてね、またとれたこういった新鮮な魚介類ですね、そこで買わせてもらう。またはそれを買って泊まっている旅館に持って帰る、それを料理してもらって食べる、これって絶対都会の人が喜ぶと思うんですね。そうすると、これは大山町の観光資源になると思うんですが、そうすると先ほど言われた1%はふえるというふうに思うんですが、それについてはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

その1%のふやし方、いろいろあろうかと思えます。海の話が出ておりますので、例えばで話しますが、今、現状で米本議員御指摘のとおり、サーフィンをする人がふえてきています。そのほか海水浴以外でも海のレジャーというのは、何か整備しなくても場所があれば伸びていくような要素はあるかと思えます。しかしながら、サーフィンに来ている人が食事はしていただけるのかなというふうに思いますが、コンビニで買って御飯を食べて、ガソリンぐらい入れて帰ってくれたらいいなと思うんですが、それぐらいの経済効果しかないのかなというふうに思えます。

この経済効果を高めるためには、やっぱり泊まっていただくというのが大事だと思いますが、そこに大山町は宿泊施設が海沿いにもやっぱり少ないというのが現状としてあります。宿泊施設がないから宿泊ができないというふうに決めつけるのではなく、例えばそのサーフィンをしている人たちは、半分偏見のようなものかもしれませんが、アウトドア、自然とかが好きな人が多いというふうに思えます。そういう人たちであれば、例えば別に施設型の宿泊を提供しなくても、グランピング的なものを提供する。近くにどっか芝畑でもあれば、そこを借りてグランピングしてもらうとかいうのが、今のサーフィンに来ている人の人数を見ますと、どれぐらいあるかちょっと数字もとってありませんけども、十分、何かそういったこともサイドビジネスとしてやられる方があれば、成り立つぐらいの人が来ているのかなと思えますが、やっぱりそういう何か新たなサービス、新たな例えば宿泊なり食事なりのサービスを提供する人というのが圧倒的に少ないので、これ以上、人を呼んでも、経済効果が高くないというのが大山町の課題だというふうに思っています。これはもう繰り返しですけども、ですので、集客要素に力を入れていくのではなくて、その消費していただけるものに力を入れていくという考え方で、予算編成等もしていきたいというふうに思っております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうですか、集客よりも消費のほうということですね、わかりました。ただ、私が言っておるのは、町内に来られるのは年間130万人という例を出されました。私はその中で、消費じゃありません、その宿泊です。宿泊することによって消費をふやそうという考え方を今言っておるわけでありまして、別にその130万人を先ほど言われましたように150万人、200万人にしようという考えじゃないです。泊まってもらえる環境を整備して、そしてそこで何か大山町をPRしよう、そして大山町にお金を落としてもらおうという考え方なんです。やはりその考え方が、どうも町長と私との認識のちょっと差があると思います。

まして、もう一つ言わせてください、もう一つ。木料の海岸の東側のほうに、集落の東側ですね、広い展望駐車場がつくってあります。あれもったいなくないですか。

○議長（杉谷 洋一君） ちょっと済みません町長、答えられるところで答えていうことで、ちょっとずれがあるけん。

竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい、議長。展望駐車場があってもったいなくないということでしたけれども、もったいなくないの定義によって違うかなというふうに思います。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 何かちょっと話がかみ合いませんので、私の通告のちょっと違ったかなというふうに思ってますけど、私はそういったことで一般質問したいなと思ってちょっとまとめてきたもんでして、申しわけないですね。

それで、もう1点聞きたいんです。先ほどやはり大山町に人を呼び込もうと思えば、予算的にもメリ張りはつける必要はあります。ただ、その中で、さっき西山議員の答弁の中でも言われました、住んでみたい・住んでよかったというふうな町にしたいということがありました。この中で私が考えたのは、住んでみたい、というのは私は若い人がそう思われるかな、住んでよかったというのは、ある程度年配の方、本当に大山町に住んでよかったというふうな感じを持たれると思うんです。

そういったところになりますと、やはり誰だったかな、子育て施策と老人といいますか、年をとられた方の施策が融合せないけんというのはわかるんですけども、でもこれを融合させて両方ともやりましょうということになると、やはり町としてのその何といいますかね、メリ張りという、町長の考えるメリ張りというのは、何か今までどおりの施策をそのまま追随じゃないんですけど、ちょっと手直しをしたぐらいにしか思えないんですが、そのあたりについて、町長は本当にこれがやりたい、これがちょっとやめてみたいというようなところをやはり出されないと、町民の皆さんもそうですけど、私も何か町長が言われる、そのメリ張りがある予算にはならないんでないかなというふうにちょっと感じておるんです。その辺のあたりについて、町長はどのような認識で予算編成に向かわれる考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

めり張りのついた予算編成ということですが、子育て施策と高齢者向け施策を両方やるとめり張りがつかないというのは、考え方としては違うのかなというふうに思います。めり張りがあるというのは、いろいろな捉え方があると思いますが、いかにその特色を出すかという目的のためにめり張りのある予算をつけるんだと思いますが、子育て施策、それから高齢者の施策、あわせてやったとしても、めり張りのついた予算はできるというふうに思っておりますし、特色のある予算というのも組んでいけるというふうに思っております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 今回の町長は、子育て施策と老人施策でめり張りはできると言われますけども、やはりその私は一つ考え方として思っているのが、今言われるように、子育て施策をやるからお年寄りの予算を少なくするというわけではないと思うんですよ。子育て施策の中でこれを充実させるのであれば、子育て施策の中で、このところはちょっと一步下がってくださいね、お年寄りの施策の中でこれをやるのであれば、やっぱりここをちょっと我慢してくださいねということをやらなければ、予算全体の中で、例えばですよ、こんなことでは次の2問目にかかるかもわかりませんが、何かの産業を十分やろうとしたら、何かの産業を落としますかということになってくる、必ずそれはおかしくなってきました。やはりその中で何を出していくのかということが必要になってくると思うんです。それが、やはりめり張りがついた予算というふうに思っております。

ですから、何かをするためには、その中で何かをやめる。それか全体的にやめてもいい何かあるんだったら、それを充てますということをしちっと明確にされないと、予算編成の中でやはり住民さん、町民の皆さんもそうですけども、議会議員の私としても、本当に町長のめり張りというのはどこに出たんだろうかということをおもうわけです。

そういったところで、町長にはそういった若いエネルギッシュな力できちっとその辺のところは大なたを振られてでも、自分はこう思うんだというところは、町民の皆さん、また議会のほうにも説明していただいて、やはり特色のある予算編成をしていただきたいと思っております。そういったところで町長に今回の質問をしておるんですけども、やはりそこが今、町民の皆さんも、私、議員として期待しているところなんです。ですから町長にそのことを言いたくて、今回この質問をさせてもらっておるんです。

ただ、先ほどちょっと脱線しました。というのは、こういったものをやればどうですか、特色出ますよということの一つの提案として考えてもらえればというふうに思っております。町長、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

めり張りのついた予算ということで、財源限られた中でいかにその財源をつくり出して政策的な予算に振り向けていくか、これは必要な作業だというふうに思っております。それが先月終わりましたけれども、事務事業評価だと思えますし、その中にやめる事業、縮小していく事業あるいは拡大していく事業、方向づけをそれぞれ行っておりますので、子育て施策対高齢者施策みたいな話ではない、無数にいろんな事業があるので、高齢者の施策をすれば子育て施策ができないとか、子育て施策をすれば高齢者施策ができないというような話ではなくて、全体たくさんある事業の中で、事務事業評価の中で見直しを進めたりしながら財源をつくり出しておりますので、御理解いただければと思います。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうですね、町長が言われるのはごもっともです。今回私が一番言いたいのはですね、全て実現、あと町長の任期は4年です。あと3年ちょっとしかありません。その中で全てを形にすることはないというふうに思っております。次につながるものを、やはり任期中に次につながる何かを残していつか次につながる、そしてもう一つ、公約の着実な実行ですね、これは今言いましたけど、あと3年ちょっとあります。その中で形づけ、形づくり、そしてこれを次につながる、やはりそれは残してもらわないと、それを次のときには評価されるというふうに思っておりますので、この予算編成、今回の予算編成というのは、それにつながる私は大事な予算編成になるかというふうに考えておりますので、ちょっと何と申しますか、言い過ぎる面もありますけども、ただ、これは議員として私は確実に実行してもらいたいという思いと、それとやはり町長は町長としての公約ということをされましたので、それは絶対形に残してもらいたい、そして逆に言えばやるべきものです。それをどう考えられますか、お聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

公約は着実に実行していかねばいけないと思えますし、そのための予算編成にしていかねばいけないというふうに考えております。あと3年少々だというお話がありましたけれども、まだ8カ月もたっておりませんので、公約ができてないと言われてもなかなかちょっと困るところでございます。なるべく早いほうがいいんでしょうけれども、着実に時間をかけながらやらねばいけない施策もありますので、しっかりと計画を持ってやっていきたいと思っております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうですね、私もちょっと忘れておりましたが、任期中に示してほしいということがまずありましたので、そのことだけはお伝えしておきたいと思います。

それとですね、私はこの予算編成の中で一番感じておりますのが、やはりこの各課の事業なんかもそうなんですけども、例えば産業でいきますと、農業にしても、観光にしても、それから商工業の方々にしても、どっかの予算を、やっぱり何といたしますかね、削るといったらおかしいですけど、減らしますよと言うと、いろいろと風当たりが強くなるというふうに思います。やはりそこには逆に言ったら、変な言い方します、既得権益みたいな感じを持たれるところもあるかというふうに思うんですが、やはりそれではさっき町長が言われた見直しとか事業の、何といたしますか、精査にはつながらないと思いますけども、そういったところでやはり町長は精査をされたということがありますけども、実際に事業の縮小、今やっている事業の中でやはり縮小をしなければいけないとか、このところは我慢して縮小させてもらうというような事業というのは必ずあると思うんですけど、それは全体的に平均して同じように各産業ごとになりますか、それともどっかに一極集中じゃないですけど、なるようになりますか、その辺のところを教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まだ予算査定もしておりませんので、何とも言いがたいですけれども、その特定の分野に限らず、必要なものは必要、必要でないものは必要でないという判断をして、事務事業評価等もしてきておりますので、どっかに限って集中的に何かを予算を削るというようなやり方ではないというふうに御理解をいただければと思います。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） それを聞いて安心しました。実は、大分時間も経過しまして、皆さん、執行部の皆さんも5時までがもうちょっとだというふうに思っておられまして、続けて2問目に移りたいと思います。

大山町の基幹産業は何かということで、2問目をお聞きしたいと思います。農業・漁業の1次産業、大山を基本とする観光産業、また商店、事業所の経営者さんなどの商工業、いずれも本町にとっては切り離せないものばかりです。地元就職する基盤をつくり出す貴重なものばかりです。働き場がなく、町外に移り住む人が今でも数多くいます。このままでは、人々を取り戻し、活力ある町にはならないと考えます。産業がやはり町の中心になるべきだと思いますが、その産業は何かということをお聞きしたいと思います。

す。町長は、本町の基幹産業は何と思われませんか。また、それを伸ばすにはどうされますか。伺います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 米本議員の2つ目の質問、大山町の基幹産業は何かとの御質問にお答えをいたします。

結論から言いますと、大山町の基幹産業は農林水産業と、あとは観光を含んだ商工業になろうかと思えます。農業では、産出額が約100億円を超えておりまして、これは県内では鳥取市に次ぐ第2位でございます。観光を中心とした、観光を含んだ商工業という話をしましたが、農林水産業と商工業を言ってしまうとほとんどの産業になってしまいますので、基幹産業と言っていいのかというところはありますけれども、この辺をバランスよくやっていくことによって、それぞれの産業がお互いに伸びていくというふうに考えておりますので、基幹産業これ一個というような決め方ではなくて、農林水産業と観光などを含んだ商工業が基幹産業というような位置づけで考えております。

そして、それらを伸ばすためにはどうするかということですが、これもきょうの一般質問あるいは今の米本議員の1問目の質問の中でも出てきておりますけれども、経済の地域内循環を高めるというのが一つの解決策だというふうに思っております。どんなにお金を稼いでも、そのお金が地域外に出ていってしまうと、その地域に残るお金、地域の産業に落ちるお金というのはおのずと減ってきますので、いかにその経済の地域内循環を高めるかというのが、地域の産業の発展の鍵だというふうに考えております。以上で答弁とさせていただきます。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 実際にそうですね、どれが基幹産業かと言われましたら、やはり私も思うんですけど、農業と商工業、どちらも切り離せません。ちょっと先ほども一番最初言いましたけど、2問本当はひっつけてやりたかったんですけど、紙面の関係もありまして2つに分けておるもので、申しわけありませんが、実は町長がね、先ほども言いました、子育て施策で、人口減の若者を呼び出して集落の活性化と考えておられます、それはそれでいいと思うんですよ。だけでも、やっぱり言いますが、仕事をする場所がなければやっぱり出ていっちゃうということがあると思うんですよ。今、大山町でも地域おこし協力隊の方で農業に参入された方もありますし、そうじゃなくて町内におられて新しく若い人が農業に参入される方もすごくあります。つまり大山町の農業というのは、ある程度魅力というものが今出ております。で、他町から見ても、農業に若い人が従事するということがすごくうらやましがられるというような話も聞いております。そういった現状もあります。

そして一方では、商工業、観光もそうですね、まあ観光ですね、実際に大山町には

先ほどもありましたけど、年間で130万人来られます。ということになってくると、やはりそこで金を落とす仕組みというのが、町長も言われますけども、必要になってくるんですよ。そういったことをやらなければ、必ず仕事が町内にできなければ、何とか町民の皆さんは外に出ていく、これは仕方ないですね。自分が生活する上では仕方ないことなんで、とめることができません。ですから、町内に産業を伸ばしていくということは、町内に人を呼びとめる、そこに呼びとめる、とどまらせるということにつながると思うんですが、それについて私は基幹産業を伸ばせというふうに言っておりますけども、やはりそれがあって初めて町内の若い人たちが町内にとどまって、仕事につけるというふうには思うんですが、その辺のところを町長どう考えられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

仕事と雇用と移住定住というのは、切っても切り離せない関係にあるというのは認識は一緒だと思います。しかしながら、現状の鳥取県内あるいは県西部の状況を見ますと、有効求人倍率高どまりしてありまして先月だったか、1.99倍ぐらまで上がって約2倍、1人に対して2つ求人が来ているような状態ですので、どちらかという仕事はないのではなくて、仕事がないという声が出るとしたら、それは魅力的な仕事がないというような話になるのかなというふうに思っております。

大山町としては町内に仕事を、町内に仕事があるのはもうベストですけれども、加藤議員の質問の中にもありましたが、米子にも今、アクセスがよくなって、通勤時間も短くなってきているということで、仕事をする場所というのは町内に限定をされなくてもいいのかなというふうに思っております。仕事は大山町に住んで通える範囲、大山町内だったらベストなのかもしれませんが、そういったところで行いながら、最終的な稼いだお金はどこに使うかというのが大事な視点かなというふうに思っております。

町内の基幹産業としての農林水産業や商工業が伸びて、雇用がふえて、町内の人が町内で働けるような状況をつくるというのもとても大事なことだと思いますが、今の仕事がなく外に出ていくというのは、仕事がないというのではなくて、魅力のある仕事がないということです。魅力のある仕事がない現状を打破するためには起業をしていただいて、好きな仕事をつくっていただく、そういうような取り組みも大切かと思っておりますので、基幹産業の農林水産業と商工業を伸ばしていくのに、プラスアルファでそういう起業支援なんかもしていく必要があるのかなというふうに思っております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） そうですね、やはり人口が減少する中で今のままを維持するということは、いずれの産業にしても難しいと思っております。やはりより発展させていくことは至難のわざと町長も承知されていることと思っております。しかし、町の魅力

を引き出して行ってPR、また人を呼ぶためにはやっぱり避けて通れないと思います。そして先ほど町長も言われました、地域内で地域内循環、これは会社経営の中でも言えることなんです。お金が会社の外から出なかったら、会社は絶対にマイナスになることはないですよ、潤ったまんまなんです。そういったことはわかります。

ですから余計に地域の産業を発展させようということはわかりますけども、そこにやはり住むとといいますか、その何とといいますか、仕事場をつくってやらないと人は出てしまう。そうすると、その何とといいますか、循環的にどんどんどんどん減ってくと。それも働き手が減ってくるということになってくるんで、そのところが僕は一番今取り組まないけんのじゃないかなというふうに思っておるんですが、町長、どうでしょう、お考えは。

○議長（杉谷 洋一君） 済みません、質問の途中ですが、ここで傍聴者の皆さん、議員及び管理職の皆さんにお断りいたします。間もなく5時になりますが、本日は5時を超えましても7番、米本隆記議員の一般質問終了まで時間を延長し、継続したいと思えます。

残りました通告8番以降の議員の一般質問は、あす12月15日に引き続き行いたいと思えますので、よろしく願います。

じゃあ質問を続けて。

答弁。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

人が出て行って人手不足になるという話もあろうかと思いますが、今、日本全国、全国的な課題として団塊の世代が退職したことによって、生産年齢人口が減って、働き手が減って、有効求人倍率が高どまりになっているというような現状があって、鳥取県あるいはその大山町周辺でも同じような状況になっています。働き手不足を解消しないと産業自体も伸びませんので、働き手をいかに確保するかというところも大事なんです。今まで3人でできていた仕事を2人でできるように、生産性を向上させるための設備投資だったり、さまざまなその業務改善だったりにも支援をしていかないと、産業としては伸びていかないというふうに考えております。

地域内循環の話もありましたけれども、やはりどこで稼ぐかというよりも、どこにお金を使うかというところに着目しないと、地域全体の経済は伸びていかないというふうに考えております。

先日も、エコノミストの藻谷浩介さんと中海テレビの新春番組で、あとほか数人で議論をするような番組を収録させてもらいまして、1月1日からまた放送されますので、その中でも地域内循環について、観光についてもいろいろ話をしておりますので、詳しくはそちらを見ていただきたいと思いますが、地域の中で消費がふえないと、やっぱり

り産業としても伸びない、雇用もふえませんので、着目するところとしては仕事をいかにふやすかというよりも、いかに消費してもらうかというところだというふうに考えております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） わかりました。大体その辺、人口が減っていくということは、労働生産人口が減っていくというところがやっぱりお考えだというふうにわかりました。ただ、先ほど町長も言われました、若い参入者、商工業にしても農業にしてもですけども、やはり何かにおいても新しく入られる方にいろいろと支援策というのは必要になってくると思います。やはりその立ち上げ支援がなければ、やはり何と申しますか、新しく参入する方、特に若い方なんかは資金もありませんので大変だというふうに思います。今、いろいろと資金面の援助とか、そういったものを政策的にやっておられますけども、やはりより一層のものが必要になると思います。そういったところで今の何と申しますか、言われた産業を伸ばすために支援策をもう一度考え直すというような考え方というのはお持ちでしょうか、どうでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

そのどの支援策について具体的におっしゃられているのかがはっきりとわかりませんので、なかなか答えにくいですが、支援策も農林水産業あるいは商工業に関してさまざまあります。効果が薄そうなものは思い切ってやめてしまっ、違う効果のありそうな政策に振りかえていくというような作業を事務事業評価あるいは予算編成の段階でやっていきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 実はもう一個今回聞いてもらいたいんです。私、観光のことについてちょっと言いたいんですけども、実はエコトラック事業というのがあります。エコトラック事業、山から海のほうまでの雄大な計画で話が進んでいるんですけど、何か私がちょっとこのごろ感じているのは、そのエコトラック事業の話が出てから、なかなかその前進みしたのかなと、いろいろ計画とか、いろんなのがありますが、じゃあそれが実際に実現してこうなってますよという話を、私、議員としてなかなか聞いてないんですよ。

実は、このエコトラック事業なんですけど、実はこの大山から日本海の御来屋港まで自転車でおりたらどうかというのは、私が議員になったときに、当時の観光商工課長に言ったことがあるんですよ。そうすれば、ペダルをこがなくても惰力だけで御来屋港までずっと眺めがいい、隠岐島も見ておられますよということをしたことがあるんです。

けど、当時はそのときに、ある赤松のほうの民間業者さんが考えておられますからというふうなことがありまして、ああ、そうですかで終わったんですけど、なかなかそれが実現しなかったというのがあるんです。やっこのエコトラックで、ああ、やっぱり雄大なその計画ができるなというふうに思ったんですけど、なかなか足踏みばかりしているということがあるんですよね。やはりこれちょっと質問にもちょっと触れるんですけども、やはりその働き手が必要だということです。ということは、こういった事業をどんどん伸ばしていけば大山町のPRになると思うんですけど、どうでしょう。もっとスピードを持ってやられるということはお考えないですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

ツアーメニュー、あるいはアクティビティメニューの開発というのは、大山町の産業においてまだまだポテンシャルがあるのかなというふうに考えております。そのために町としてもさまざまな施策を打っておりますし、今、ツアーメニューの造成、充実等に向けての施策も観光局等との連携等によりやっております。一日答弁をしておりましたら、ちょっと脳が疲れてきましてなかなか言葉が出ませんし、舌をかみますけれども、そのツアーメニューとかアクティビティメニューというのは、山ばかりだけじゃなくて、町内全体を使ってさまざまな取り組みが今後考えられると思いますので、今の民間事業者さんにやっていただくというのはもとより、新たにそういうことで起業したい、事業化をしたいというような方があれば、ぜひとも支援はしていきたいなというふうに思っております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 最後になるかと思えます。実は、今ずっと観光のことを言っております。実は私はこんなことを言えば悪いですけど、ちょっと今、観光のほうにもうちょっと頑張ってもらいたいなというふうに思っております。今やっている観光事業、これが産業として生きてくるのが一番だと思えます。そうすると、今のやっておられる事業の中で、例えばこれは磨き上げをしてもっと力を入れていかないけん、ここは手直しをしていかないけないというような事業的なところがあるのでしたら、ちょっと教えていただけませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 細かなところは予算編成段階でいろいろ検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） わかりました。

議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 最後にしようと思ったけど、返事がないですね。では、もう一回もとへ戻して聞きます。今回、私が出しましたこの2問の質問の中で、この大山町の基幹産業は何かということにつきましては、やはり大山町が特色あるものをつくり上げるためには、やっぱりその産業を伸ばさなければいけないということが大前提にあります。そういったところで、やはり町長はこれから大なたを振るってこういうことを伸ばしていくんだというようなものはありましたら、お聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

そのここは伸ばしていきたいというところですけども、これも同じような答弁の繰り返しになりますが、一つの産業を伸ばしたから町が潤うということではなくて、農林水産業も商工業もやっぱり全てがそれぞれリンクして産業として成り立っておりますので、全体の底上げをしていきたいというふうに考えております。

○議員（7番 米本 隆記君） 終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これで米本隆記議員の一般質問は終わりました。

本日の一般質問は以上で終了し、残りました5人の議員の一般質問は、あす12月15日に引き続き行います。定刻9時30分までに本議場に集合してください。

○議長（杉谷 洋一君） 本日はこれで散会いたします。御苦労さまでした。

午後5時07分散会
